

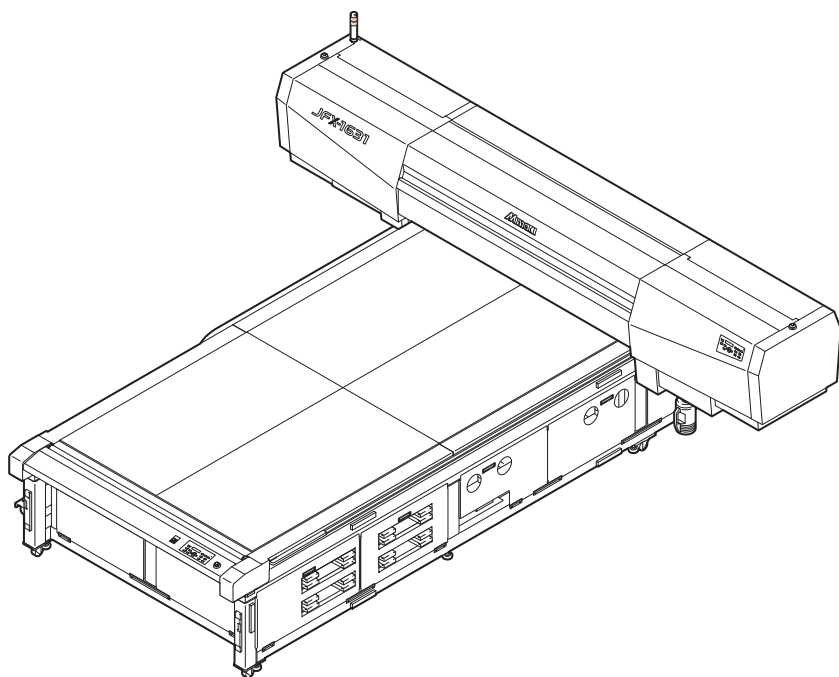
OPERATION MANUAL

UV INKJET PRINTER

JFX-1631/1615

**JFX-1631/1615
plus**

取扱説明書



目次

ご注意	v
ご注意	v
おねがい	v
電波障害自主規制	v
テレビ/ラジオの受信障害について	v
はじめに	vi
取扱説明書について	vi
安全にお使いいただくために	vii
マーク表示について	vii
警告ラベルについて	xiii
本書の読み方	xv

第1章 ご使用の前に

本装置を設置する	1-2
設置場所について	1-2
各部の名称とはたらきについて	1-3
装置前面	1-3
装置背面	1-3
操作パネル	1-4
キャリッジ	1-5
非常停止スイッチ	1-5
ケーブルを接続する	1-6
USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する	1-6
電源ケーブル接続について	1-6
UV LED 装置と表示灯について	1-7
UV LED 装置	1-7
表示灯の働きについて	1-7
インクカートリッジについて	1-8
お使いになれるインクの種類	1-8
メディアについて	1-11
使用可能メディアサイズ	1-11
メディア取り扱い上の注意	1-11
メニューモードについて	1-12

第2章 基本的な使い方

開閉扉の使いかた	2-2
作業の流れ	2-3
電源を入れる	2-4
メディアをセットする	2-5
テスト作図をする	2-7
テスト作図を行う	2-7
ヘッドクリーニングを実行する	2-8

“ノーマル”・“ハード”・“サブタンク メンテナンス”でクリーニングするとき	2-8
“ワイピング”でクリーニングするとき	2-9
電源投入時に自動的にクリーニングを 実行する	2-10
データを作図する	2-11
作図を開始する	2-11
作図を中止する	2-12
Yバーを移動させる	2-13
電源を切る	2-14
電源オフ時のドカ抜けを防止する	2-14

第3章 便利な使い方

原点を変更する	3-2
ジョグキーを使って作図原点を変更する	3-2
ファンクションメニューを使って作図原点を 変更する	3-3
メディアの厚みを登録する	3-4
メディアの厚みを手動で登録する	3-4
メディアの厚みを UP DOWN キーを 使って登録する	3-4
メディアの厚みを自動測定する	3-5
ヘッドギャップ値を登録する	3-6
その他の便利な機能	3-7
データクリア	3-7
本装置の情報を表示する	3-7
各種設定	3-8
作図方式を設定する	3-8
UV LED 装置の光量を設定する	3-10
優先順位の設定をする	3-11
ワークチェンジを設定する	3-12
画面の言語表示を切り替える	3-14
設定リストを出力する	3-15
本装置のマシン情報を表示する	3-16
その他の便利な設定	3-17
設定した内容を初期状態に戻す	3-18
メディアをまっすぐにセットするために	3-19
ポストキュアユニットの高さを調整する	3-20
ポストキュアユニットを使用する	3-22
ポストキュアユニット使用時の注意事項	3-22
厚みのあるメディアに作図する際の注意事項	3-23
ポストキュアユニットの電源を入れる	3-24

ポストキュア機能使用時の作図範囲を切り替える	3-25
ポストキュアの使用方法を設定する (2次硬化の設定)	3-27
ポストキュアの照射範囲を広げる	3-30
作図済みのメディアに再度ランプを照射する ...	3-33
ポストキュアランプの交換時期について	3-36
ポストキュアユニット使用上の注意点	3-41

第4章 お手入れ

日常のお手入れ	4-2
長期間使用しない場合は	4-2
お手入れ上のご注意	4-2
テーブル、外装のお手入れ	4-3
インクカートリッジについて	4-4
新しいインクパックに交換する	4-4
ランプの状態について	4-6
インクカートリッジの振り方	4-7
カートリッジ異常が発生したら	4-8
作図中のインク滴のポタ落ちを防ぐ	4-9
ヘッドガードプレートのクリーニング	4-9
自動的にノズル面の清掃をする	4-11
定期ワイピングの設定	4-11
定期クリーニングの設定	4-12
ワイパのクリーニング	4-13
サブタンクメンテナンスをする	4-16
特色インクのノズル詰まりを防止する	4-17
廃インクが溜まったら	4-18
廃インクタンクのインクを処分する	4-18
ワイパタンクのインクを処分する	4-19
白インク(ホワイト)の定期メンテナンス	4-20
冷却ファンフィルタを交換する	4-22
ミスト吸引フィルタを交換する	4-24
ドットの位置がずれたら	4-26
画質不良が解消されない場合は	4-28
インクの充填を行う	4-28
温水装置の水を交換する	4-30
不凍液混合水の交換方法	4-31
UV LED 装置のフィルタを交換する	4-35
UV LED 装置の照射時間について	4-37
UV LED 装置の照射時間を確認する	4-37

UV LED 装置の照射時間をリセットする	4-37
UV 硬化が弱くなったときのチェック方法	4-38
UV 光量の変更	4-39
バキュームユニットの吸着 / 吹上げレベルを 設定する	4-40
ドロップパターンを作図する	4-41

第 5 章 困ったときは

故障?と思う前に	5-2
電源が入らない	5-2
作図できない	5-2
ディスプレイにメッセージを表示する	5-2
作図不良が発生したときは	5-3
ノズル詰まりを解消したいとき	5-3
動作中に本装置を停止させたいとき	5-3
インクが残っているのに 「インクニアエンド」を表示する	5-4
メッセージを表示するトラブル	5-6
ワーニングメッセージ	5-6
エラーメッセージ	5-7

第 6 章 付録

仕様	6-2
本体仕様	6-2
インク仕様	6-3
お問い合わせシート	6-4
機能フローチャート	6-5

ご注意

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。

また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

一例として、本製品を使用したメディア等の損失や、作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

本装置を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

電波障害自主規制

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

テレビ/ラジオの受信障害について

本装置は、使用時に高周波が発生します。このため、本装置が不適切な条件下で設置または使用した場合、ラジオやテレビの受信障害を発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ/テレビに対しては保証しておりません。

本装置がラジオ/テレビ受信の障害原因と思われる場合は、本装置の電源を切り、ご確認ください。電源を切り受信障害が解消すれば、本製品が原因と考えられます。

次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせることでお試しください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- この製品から離れた場所にテレビやラジオを設置してください。
- この製品とは別の電源供給路にあるコンセントにテレビやラジオを接続してください。

はじめに

この度は、UV インクジェットプリンタ JFX-1631/1615 ・JFX-1631/1615plus をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

「UV インクジェットプリンタ JFX-1631/1615 ・JFX-1631/1615plus」は、紫外線硬化インク (UV インク) を使用しております。

また、JFX-1631/1615plus には、作図の際に UV インクをより素速く乾燥させる「ポストキュアユニット」が標準装備されています。

本書をよくお読みになり、お客様のニーズに合わせた作図にお役立てください。

取扱説明書について

- 本書は、「UV インクジェットプリンタ JFX-1631/1615 ・JFX-1631/1615plus」（以後本装置と称します）の操作やメンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いてお使いください。
- 本書は、本装置をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 本書が焼失／破損などの理由により読めなくなった場合は、新しい取扱説明書を弊社営業所にてお買い求めください。
- 取扱説明書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

© 株式会社ミマキエンジニアリング









All Rights Reserved. Copyright

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味をご理解し、本装置を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例

内 容	
	「警告」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずよくお読みになり、正しくお使いください。
	「注意」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
	「重要」マークは、本装置をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。操作の参考にしてください。
	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。
	関連した内容の参照ページを示しています。
	△マークは、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警告



- ・換気の悪い部屋、または密閉された部屋で使用する場合は、必ず換気装置を設けてください。

排気口施工時について

本装置の故障を防ぐため、下記の注意を必ずお守りください。

- (1) 排気口の形状は、お客様の建物環境によりますが、開口部の面積はダクトの50%以上を確保してください。
- (2) 排気口に閉鎖弁等を設置する場合、本装置使用時は必ず閉鎖弁を開けてください。



- ・本装置で使用するインクは、危険物第4類第3石油類に該当します。よって、引火する可能性があるため本装置を使用する場所は、火気厳禁としてください。



- ・ヘッドをクリーニングする際は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入る場合があります。



- ・誤ってインク、メンテナンス用洗浄液を飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診断を受けてください。嘔吐物は、飲み込ませないください。その後、毒物管理センターに連絡してください。
- ・蒸気を大量に吸い込んで気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移り、暖かくして安静にしてください。また、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。

絶対にしないでください

⚠ 警告

分解・改造はしない	インクカートリッジの取り扱い
<div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本装置やインクカートリッジの分解・改造は、絶対に行わないでください。感電や故障の原因になります。 </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一部成分において（光重合開始剤）、水性生物に対する毒性があります。自然水系、生活排水への漏洩流出を防いでください。 ・インクカートリッジや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。 ・インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。万が一インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。 </div>
<div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・湿気の多い場所での使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。 </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本装置は、感電事故防止のため接地工事が必要です。 ・接地工事は、C種接地工事（特別第3種接地工事）を行ってください。 </div>
<div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。 ・お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。 </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本装置は、感電事故防止のため接地工事が必要です。 ・接地工事は、C種接地工事（特別第3種接地工事）を行ってください。 </div>
<div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。 ・お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。 </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本装置は、感電事故防止のため接地工事が必要です。 ・接地工事は、C種接地工事（特別第3種接地工事）を行ってください。 </div>



警告

保護具着用



- ・吸引ノズルのクリーニングにおいて、インク、メンテナンス用洗浄液が飛び散る可能性がある場合は、必ず保護メガネおよび手袋を着用して、クリーニングを行ってください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入る危険性があります。またインク、メンテナンス用洗浄液が手に付着すると手が荒れる原因になります。

電源、電圧について



- ・本装置には、高電圧が発生している部分があります。電気工事は、電気工事士の免許を持った人以外が行うことを禁止します。
- ・点灯中の UV LED 装置は絶対に直接肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。必ず安全眼鏡を掛けてください。
- ・紫外線 (UV) を皮膚に直接あてないでください。皮膚の炎症を起こす原因になります。



- ・メンテナンス時には感電を防ぐために、必ず主電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いてください。また装置によっては、コンデンサの電荷放電時間に 1 分間必要な場合があります。主電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いた後は、必ず 3 分後に作業するようにしてください。
- ・接地工事は、感電事故防止のため必ず行ってください。
- ・UV LED 装置がまれに破損することがあります。定格寿命もしくは、それ以前の UV LED 装置の交換をお勧めします。








- ・本装置の主電源スイッチの投入作業も、本装置の操作方法を熟知した人以外は行わないでください。
- ・点灯中や消灯直後は熱いので、UV LED 装置には手を触れないでください。ヤケドの原因となります。

不凍液の取り扱い










- ・不凍液は、弊社専用の不凍液をご使用ください。温水装置が故障する恐れがあります。
- ・不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）は、直接肌に触れないようにしてください。万一、皮膚や衣服に触れてしまった場合は、石けんを使って、すぐに流水で洗い落としてください。
- ・万一、不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）が目に入った場合は、大量の流水で洗い、医師の診断を受けてください。
- ・また高温の温水タンク水（不凍液混合水）に触れた場合は、直ちに石けんや水で洗い落とし、氷水で十分冷やしてから、医師の診断を受けてください。
- ・不凍液をご使用の前に、必ず製品安全性データシート (MSDS) をお読みください。
- ・誤って不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）を飲み込んだ場合は、直ちに吐かせ、医師の診断を受けてください。
- ・不用となった不凍液または使用済みの温水タンク水（不凍液混合水）は以下の方法で処分してください。
 - おがくず、ウェス等に吸着させて、焼却炉で焼却する
 - 免許を持った産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託する
- ・静電気・衝撃火花による着火源が生じないように注意してください。
- ・不凍液を取り扱う場合は、必ずゴーグルおよび手袋を着用してください。



 警告	
電源ケーブルの取り扱い	
	<ul style="list-style-type: none"> 付属の電源ケーブルを使用してください。 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、ひっばったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。
扉、蓋の開閉について	
	<ul style="list-style-type: none"> 本装置には開閉扉、蓋があります。扉、蓋開閉時には指、腕および胴体部の一部が挟まれる恐れがあります。万一、挟まれると、打ち身や最悪の場合、圧死もあります。扉、蓋の開閉作業には、必ず人体の一部が挟まれることのないように行ってください。
UV LED 装置の取り扱い	
	<ul style="list-style-type: none"> 引火する危険性の雰囲気（ガソリン・可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・粉塵など）で使用しないでください。また紙や布を UV LED 装置に近づけたり、覆ったりしないでください。火災の原因になります。
メンテナンスカバーの取り扱い	
	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスカバーを開けるときは、カバーを手で押さえながら開けてください。カバーが落下して、ケガの原因になります。

使用上のご注意

 注意	
ホコリから守る	定期交換部品があります
 <ul style="list-style-type: none"> できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。悪環境下では、リフレッシュレベルを2または3に設定してください。 夜帰宅する際は、メディアをセットしたままにしないでください。メディアの上にホコリが付着してしまいます。 メディアはホコリがつかないように保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になってしまいます。 ホコリが原因で、作図中に突然インクの雫がヘッドからメディアに落ちる場合があります。この場合は、ヘッドをクリーニングしてください。 (P.2-8) 	 <ul style="list-style-type: none"> 本装置には、別途に定める定期交換部品があります。保守契約をしていただくことをお勧めいたします。
	装置を水平に保つ
	 <ul style="list-style-type: none"> 必ず、レベルフットを調整し、本装置を水平に保つようにしてください。
	メンテナンス用洗浄液について
	 <ul style="list-style-type: none"> メンテナンス用洗浄液は、冷暗所で保管してください。また子供の手の届かない場所に保管してください。
警告ラベルについて	不凍液について
 <ul style="list-style-type: none"> 本装置には、警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり、剥がれた場合は、販売店、または弊社営業所にて新しい警告ラベルをお買い求めください。 	 <ul style="list-style-type: none"> 不凍液は冷暗所で保存してください。 不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。



注意

インクカートリッジについて



- カートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上室温環境下に放置してから利用してください。
- カートリッジは、取付直前に開封してください。開封した状態で長時間放置しておくと、正常に作図できない場合があります。
- カートリッジは、冷暗所で保存してください。
- カートリッジを開封後は、お早めに使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、作図品質が低下します。



- 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。
- カートリッジ内のインクを詰め替えないでください。
- インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。

紫外線について



- UV LED 装置やポストキュアユニット周辺から多少の紫外線漏れがあります。紫外線を皮膚や目に浴びると、炎症や皮膚ガンを起こす可能性があります。弱い紫外線で炎症を起こさない場合でも、反復暴露により慢性障害に発展する場合があります(本機の実測値: $0.1213933\text{mJ}/\text{cm}^2$ (8時間の積算値)^{*1})。紫外線を皮膚や目に浴びないようにしてください。



- 紫外線の目への障害として、急性障害；異物等、とう痛および涙が流れる等がある。慢性障害；白内障等がある。本装置を使用する場合、手袋、長袖の服、顔面部は遮光面、目は付属の遮光メガネ等で保護してください。

高温について



- UV LED 装置やポストキュアユニットは、非常に高温になります。メンテナンスを行う時は、UV LED 装置消灯後十分温度が下がってから行ってください。
- 装置外装部で高温になっている部分があります。この高温部には、高温注意銘板が貼り付けてあります。高温注意銘板が貼ってある部分およびその付近は、触ると火傷の恐れがあります。触らないでください。

UV LED 装置の注意



- UV LED 装置下面のガラスは、必ず付属の手袋をはめて取り扱い、素手で触れないでください。UV 硬化が著しく低下する原因になります。汚れがついた場合には、アルコールを湿らせた清潔なガーゼ等で拭いてください。(外側カバーは、アルコールで拭かないでください。塗装がはげます。)



- UV LED 装置の性能、寿命は UV 照射装置、UV 電源装置によって大きく左右されます。弊社推奨の UV LED 装置、UV 電源装置以外は絶対に使用しないでください。弊社推奨の UV 照射装置、UV 電源装置以外を使用して生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。

清掃について



- 長年の使用により装置導電部や絶縁部にゴミ、ホコリが溜まり漏電する場合があります。定期的に清掃をしてください。
- 清掃は圧縮空気の吹き付けで行わないでください。ゴミ、ホコリが飛散するだけでは無く、導電部に侵入して動作不良を起こします。必ず掃除機を使用して、ゴミ・ホコリを吸い取ってください。
- 水のかかる場所での使用は、漏電の可能性が非常に高くなります。水のかかる場所での使用は避けてください。
- 万一、漏電が発生すると、作業員の感電や火災に発展する場合があります。
- 事故防止のため、定期点検、定期交換部品の交換等は必ず行ってください。

*1. ICNIRP による最大許容値：波長 365nm/270000J/m²

⚠ 注意

発火、発煙について



• UV LED 装置やポストキュアユニット等の高温部に可燃物が触れると、発火、発煙の可能性がります。また、UV LED 装置やポストキュアユニットの下に数秒間、可燃物を放置すると、発火、発煙の可能性がります。



- 長年の使用で、安定器やその他使用部品についてゴミやホコリによる漏電、絶縁劣化が原因の発火、発煙の可能性がります。定期的な清掃、絶縁抵抗測定による劣化部品の交換をしてください。
- 長年の使用で、導電部のネジ等が緩むことが原因で、発火、発煙の可能性がります。定期的な増し締めを行ってください。
- 本装置は防爆タイプではありません。危険物雰囲気での使用は爆発等の危険がります。危険物雰囲気での使用を禁止します。
- 異臭・発煙・スパーク跡など装置に異常が見られた場合は直ちに電源をオフにして弊社まで連絡してください。

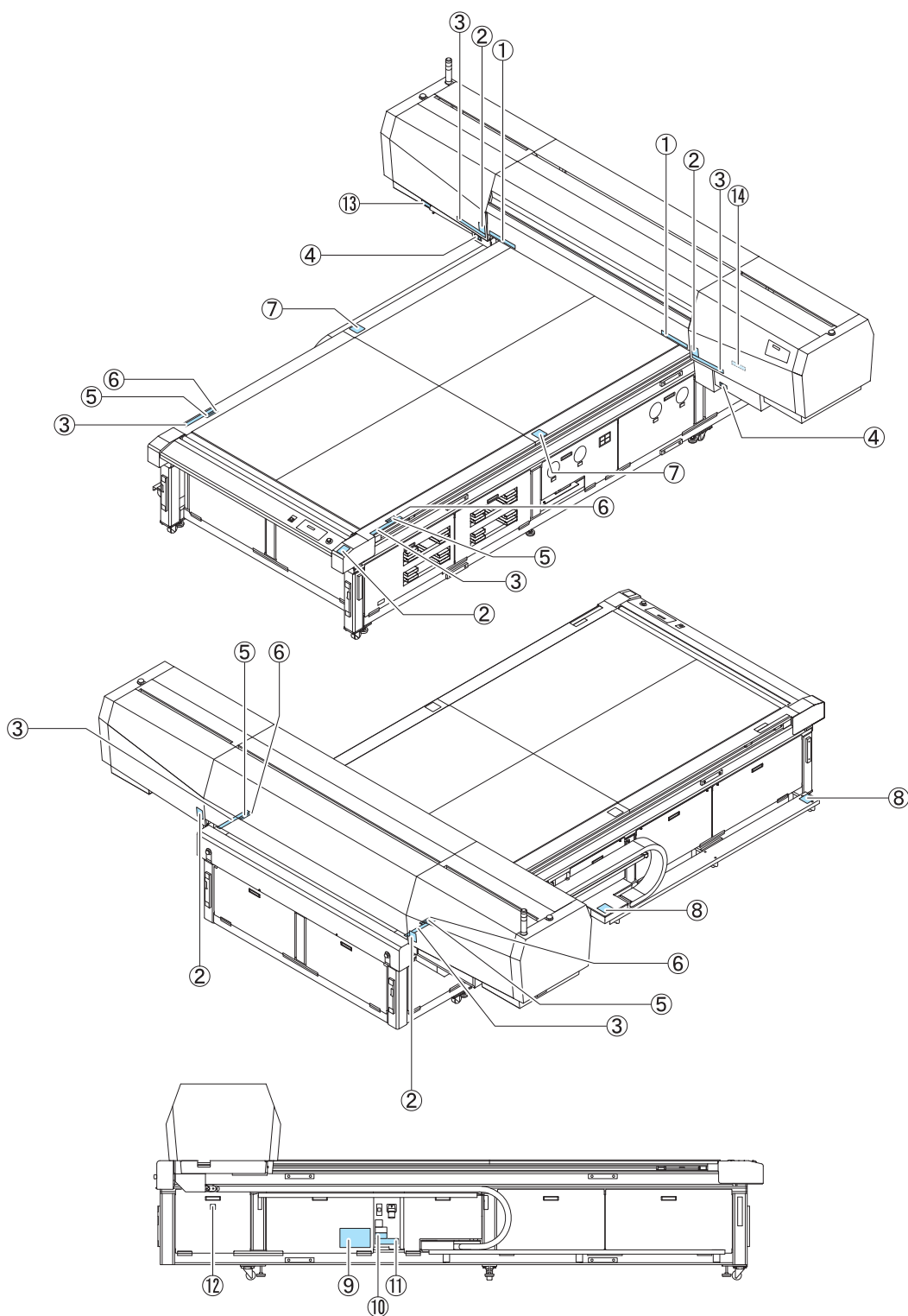
設置上のご注意

⚠ 注意

直射日光が当たる場所	水平でない場所	温度や湿度の変化が激しい場所
		<ul style="list-style-type: none"> • 次の環境下でお使いください。 • 使用環境： 15 ~ 30 °C 35 ~ 65 % (Rh)
振動が発生する場所	エアコンなどの風が直接当たる場所	火を使う場所

警告ラベルについて

本装置には、下記の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。
なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。



注文番号	ラベル	注文番号	ラベル
(1) M901549		(8) M906311	
(2) M905980		(9) M906318	
(3) M906115		(10) M903764	
(4) M903330		(11) M905624	
(5) M903226	<p>このテーブルに腰掛けたり、寄りかかる等の偏荷重をかけないで下さい。テーブルが変形し、故障の原因や、画質に影響が出る可能性があります。</p>	(12) M903239	
(6) M904325	<p>Do not sit or lean on the table. Do not put any pressure on one side. These will deform the table and may cause damage and affects the printing.</p>	(13) M904121	
(7) M906310		(14) M907063	

本書の読み方

本取扱説明書では、操作手順と合わせて操作パネルの「表示パネル」に表示する文字や、使用するキーを説明しています。
使用中に確認しながら、操作を進めてください。

事前を知っておいて
いただきたい内容です

機能の概要を
説明しています

テスト作図をする

テスト作図を行い、ノズル詰まりなどの作図不良（カスレや抜け）がないか確認します。

テスト作図を行う



次のようなメッセージが表示されている場合は、作図ができません。しばらくして、メッセージが消えてから作図してください。

・“オンスイ ジュンビチュウ”：温水装置の温水が一定温度に達していない

テスト作図の前に
確認してください

・メディアをセットしているか
☞ P.2-5

・原点位置をセットしているか
☞ P.3-2

・ヘッドギャップ値を登録しているか ☞ P.3-6

操作手順の
番号です

1 ローカルモードで、**TEST** キーを押す

テスト サクス*
ノズルチェック <ent>

2

2 **▲** / **▼** を押し“ノズルチェック”を選ぶ

・“コウカチェック”を選ぶと、UV インクが固まっていないか（硬化）を確認できます。
☞ P.4-38

基本
使い方

3 **ENTER** キーを押す

・テスト作図を開始します。

** テスト サクス* **

4 テスト作図が終了する

・ローカルモードになります。
・Yバーをテーブルから退避させたいときは、P.2-13 の操作をしてください。

5 作図結果を確認する

・正常な場合は、データを作図してください。☞ P.2-11
・異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。☞ P.

表示パネルを表します

正常なパターン	異常なパターン		
	ドカ抜け	ノズル抜け	飛行曲がり
	 たくさんの線が抜けている	 線が揃ったように 欠けている	 線の間隔が詰まったり 二重になっている

2-7

文章中のボタンを
○ 囲みで表しています

ページ番号です
(2章の-7ページ)

第1章 ご使用前に



この章では ...

本装置の各部の名称や設置方法など、ご使用前に知っておいていただきたいことについて説明します。

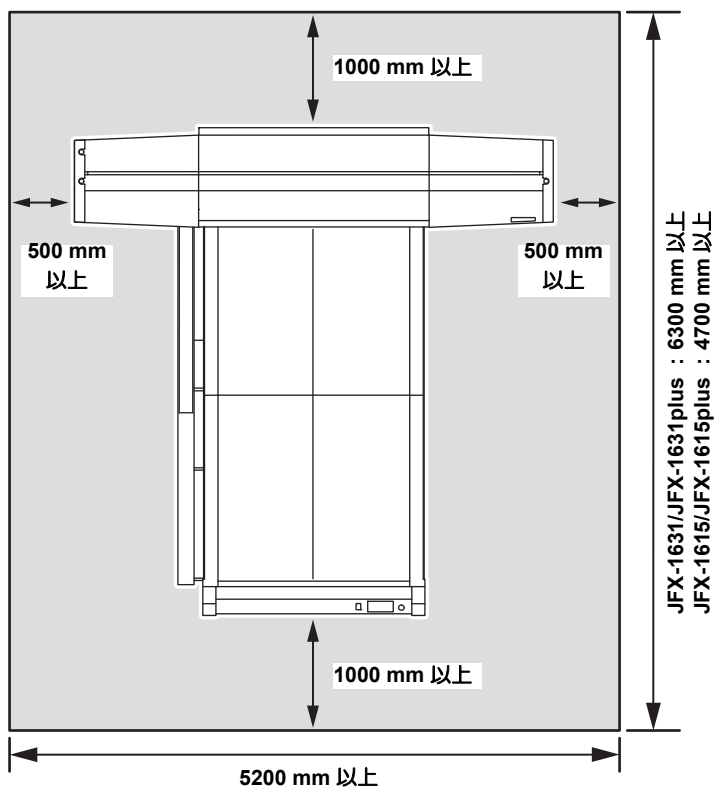
本装置を設置する	1-2	UV LED 装置と表示灯について	1-7
設置場所について	1-2	UV LED 装置	1-7
各部の名称とはたらきについて	1-3	表示灯の働きについて	1-7
装置前面	1-3	インクカートリッジについて	1-8
装置背面	1-3	お使いになれるインクの種類	1-8
操作パネル	1-4	メディアについて	1-11
キャリッジ	1-5	使用可能メディアサイズ	1-11
非常停止スイッチ	1-5	メディア取り扱い上の注意	1-11
ケーブルを接続する	1-6	メニューモードについて	1-12
USB2.0 インターフェイスケーブルを			
接続する	1-6		
電源ケーブル接続について	1-6		

本装置を設置する

設置場所について

本装置を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。
本体の大きさと作図のために必要なスペースを考慮して設置します。

機種	幅	奥行き	高さ	全体重量
JFX-1631/JFX-1631plus	4200 mm	4300 mm	1600mm	約 1600 kg
JFX-1615/JFX-1615plus	4200 mm	2700 mm	1600mm	約 1300 kg



- 本装置の設置および移動は、お客様が行うことはできません。弊社サービスおよび電気工事業者にお任せください。



- 接地工事には、C 種接地工事（特別第 3 種接地工事）を行ってください。



- 本装置の電気工事は、感電事故防止のため、電気工事士の免許を持った人以外が行うことを禁止します。

各部の名称とはたらきについて

装置前面

表示灯

本装置の状態を表示します。
(☞ P.1-7)

テーブル (☞ P.2-5)

メディアをセットします。
テーブル上に吸着穴があり、
バキュームをオンにすると、
メディアを吸着します。

電源ボタン

主電源スイッチとは別に
本装置の電源の ON/OFF
ができます。
(☞ P.2-4、P.2-14)

キャリッジ (☞ P.1-5)

操作パネル (☞ P.1-4)

本装置に必要な設定を行う操作
キーや、操作項目を表示する
ディスプレイがあります。
(操作パネルは装置前面にも装
備しています。)

吸引バルブ (☞ P.2-5)

メディアをセットするときに切り替えます。

インクステーション

インクカートリッジを差し込みます。(☞ P.1-8)

装置背面

Yバー

作図をするとき、テーブル
の上を移動します。

主電源スイッチ

本装置の電源をオン/オフし
ます。

1

1 使用の前に

操作パネル

操作パネルは、作図方法の設定、各種操作に使用します。

VACUUM/BLOW キー (☞ P.2-5)
バキュームとブロウを切り替えます。

VACUUM ランプ (☞ P.2-5)
メディアをセットしたとき点灯させます。

BLOW ランプ (☞ P.2-11)
メディアをテーブルから取り外すときに点灯させます。

POWER ランプ
電源が入っているときに点灯します。

TEST キー
テスト作図をするときに押します。
(☞ P.2-7)

CLEANING キー
ヘッドのクリーニングをするときに押します。(☞ P.2-8)

DATA CLEAR キー
受信したデータを消去するときに押します。(☞ P.3-7)

ディスプレイ
本装置の状態や設定項目、エラーなどを表示します。

ON/OFF キー
バキュームの ON/OFF を切り替えます。

UP キー
キャリッジを上げるときに押します。(☞ P.3-4)

DOWN キー
キャリッジを下げるときに押します。(☞ P.3-4)

FUNCTION キー
各種機能を使うときに押します。

REMOTE キー
リモートモードとローカルモードを切り替えます。(☞ P.1-12)

END キー
設定が終わるときに押します。

ENTER キー
設定を確定するときに押します。

JOG キー
Yバーの移動や、各種設定で使います。

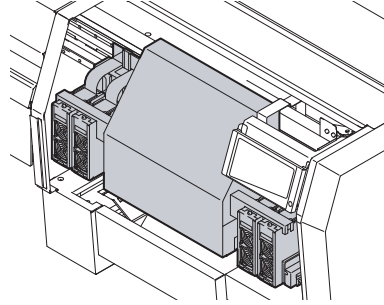
ジョグキーのはたらき

ジョグキーは、使用するタイミングにより機能が異なります。

	作図原点、範囲設定時	機能選択時	設定の選択時
◀	キャリッジを左へ移動		
▶	キャリッジを右へ移動		
▲	Yバーを奥側へ移動	1つ前の機能に戻る	1つ前の機能を選択する
▼	Yバーを手前に移動	次の機能に移る	次の値を選択する

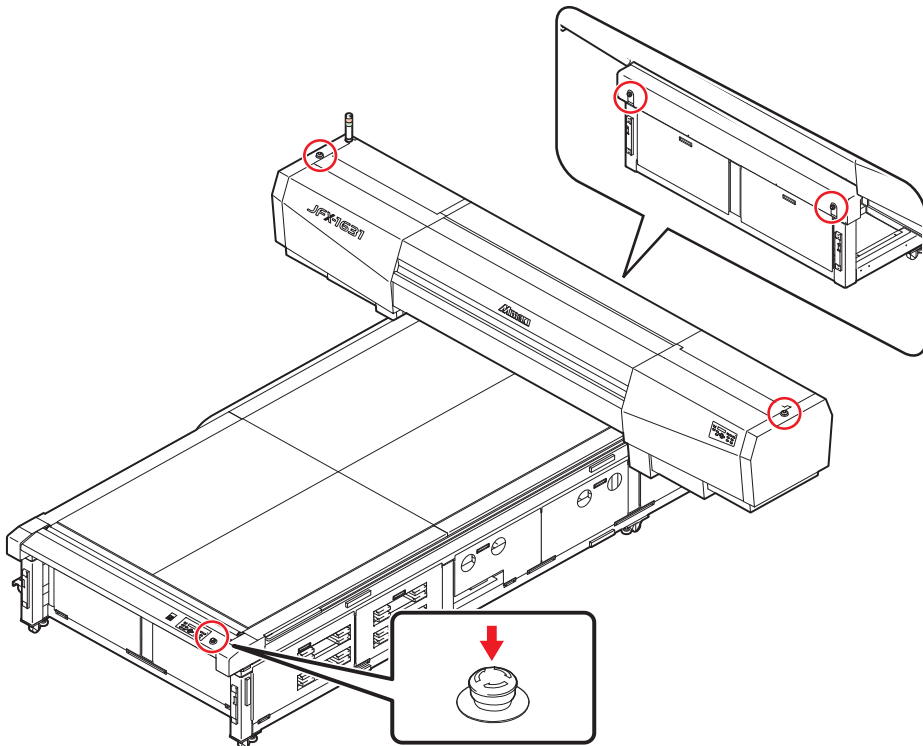
キャリッジ

キャリッジには、作図用のプリントヘッド、UV LED 装置、プリントヘッドカバー内にライトポインタをやメディアの厚みを測定するためのギャップピンを搭載しています。



非常停止スイッチ

安全上の理由で、本装置を緊急停止したいときに押します。
非常停止スイッチは、装置前面に 1 箇所、背面と Y バーにそれぞれ 2 箇所ずつあります。



1

1
使用前の
前に

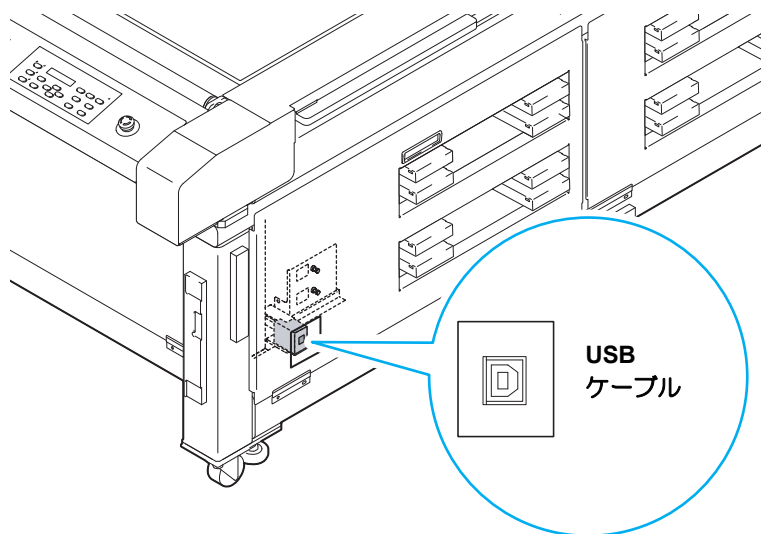
ケーブルを接続する

USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する

コンピュータと本装置を USB2.0 インターフェイスケーブルで接続します。



- USB2.0 インターフェイスケーブルをご用意ください。（本装置の付属品として、USB2.0 インターフェイスケーブルを添付していません。）
- ご使用の RIP が USB2.0 インターフェイスに対応している必要があります。
- USB2.0 インターフェイスがコンピュータに付いていない場合は、お近くの RIP メーカーまたは弊社営業所までお問い合わせください。



電源ケーブル接続について



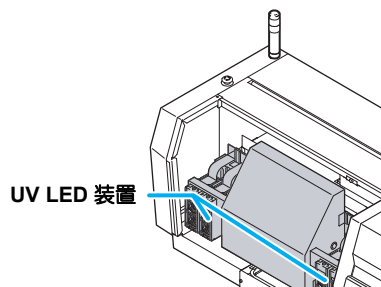
- 本装置は、電源取得の際に、配電盤の工事が必要です。
- 本装置の電源ケーブル接続はお客様が行うことは出来ません。電源ケーブルを接続する場合は、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
- 設置場所の移転等により、電源ケーブルの接続を変更する場合も同様に、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
- サービスコールをせずに、お客様による電源ケーブル接続を行った際に生じた不具合については、弊社はいっさい責任を負いかねますので、ご了承ください。

UV LED 装置と表示灯について

UV LED 装置



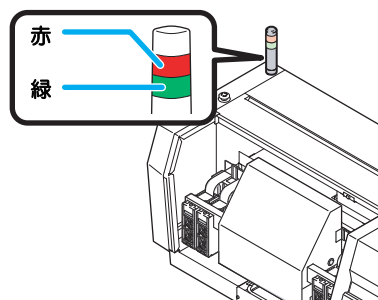
- 点灯中の UV LED から出る光を直接肉眼で見ないでください。
- 点灯中や消灯直後は UV LED 装置に触らないでください。熱くなっているため大変危険です。



表示灯の働きについて

本体左上にある表示灯の動作について説明します。
表示灯には緑と赤の2色のランプがあります。

ランプ色	ランプの状態	本装置の状態
緑	点灯	リモートモード
	点滅	リモートモード(作図中)
	消灯	ローカルモード
赤	点灯	エラー発生中
	消灯	正常



1

1 使用前の

インクカートリッジについて

重要!

- インクカートリッジをご使用になるには、専用のエコカートリッジ (OPT-J0237) にインクパックを取り付ける必要があります。
- インクパックの取り付け / 取り外し方法は、エコカートリッジに添付しているラベルを参照してください。

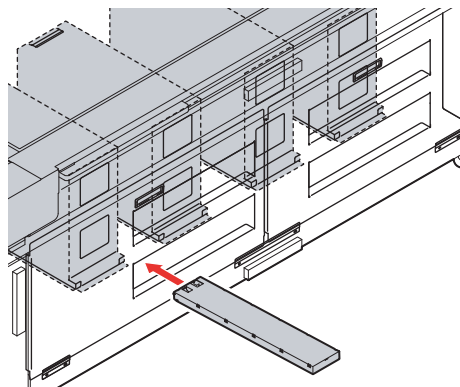
お使いになれるインクの種類

インクの種類	色
LF-200 インク	マゼンタ
	シアン
	イエロー
	ブラック
	ホワイト
LH-100 インク	マゼンタ
	シアン
	イエロー
	ブラック
	ホワイト
	クリア
LF-140 インク	マゼンタ
	シアン
	イエロー
	ブラック
	ライトマゼンタ
	ライトシアン
	ホワイト
プライマー	プライマー
洗浄液カートリッジ ^{*1} (SPC-0606FS)	

*1. ヘッド洗浄時に使用します。

ディスプレイには、次のように色を表示します。

表示	色	表示	色	表示	色
M	マゼンタ	K	ブラック	P	プライマー
C	シアン	m	ライトマゼンタ	W	ホワイト
Y	イエロー	c	ライトシアン	CL	クリア



インクカートリッジセット時のご注意

インクカートリッジをセットするときは、次のことにご注意ください。



- インクスロット番号を確認し、正しい色のインクカートリッジを差し込んでください。また、お使いになるインク種によって、インクカートリッジのセット内容が変わります。(下表を参照)

インクセット対応表

インクセット*1																インク種		
																LF-200	LF-140	LH-100
M	M	M	M	C	C	C	C	Y	Y	Y	Y	K	K	K	K	○	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	W	W	-	-	-	-	-	-	○	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	W	W	W	W	-	-	-	-	○	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	W	W	W	W	W	W	W	W	○	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	CL	CL	-	-	-	-	-	-	x	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	W	W	CL	CL	-	-	-	-	x	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	W	W	W	W	CL	CL	CL	CL	x	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	W	W	W	W	CL	CL	P	P	x	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	m	m	c	c	W	W	W	W	x	○	x
M	M	C	C	Y	Y	K	K	m	m	c	c	W	W	CL	CL	x	○	x
M	M	C	C	Y	Y	K	K	m	m	c	c	W	W	P	P	x	○	x
M	M	C	C	Y	Y	K	K	W	W	P	P	-	-	-	-	x	○	○
M	M	C	C	Y	Y	K	K	W	W	W	W	P	P	P	P	x	○	○

*1. M= マゼンタ、C= シアン、Y= イエロー、K= ブラック、W= ホワイト、CL= クリア、P= プライマー

- インクカートリッジは、スロットの奥まで確実に差し込んでください。また、乱暴に抜き差ししないでください。
- IC チップがある面を上に向けて差し込んでください。

インクカートリッジ取り扱い上のご注意



- ・インクカートリッジは、弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。
- ・インクには直接ふれないようにしてください。誤ってインクを付けてしまった場合は、石けんや水ですぐに洗い落としてください。万一、インクが目に入った場合は、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- ・インクカートリッジは冷暗所で保存してください。
- ・インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
- ・インクカートリッジは開封してから6カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは作図品質が低下します。
- ・インクカートリッジは、子供の手の届かない場所に保管してください。
- ・未使用のインクカートリッジは、産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託してください。
- ・一部成分において（光重合開始剤）、水性生物に対する毒性があります。自然水系、生活排水への漏洩流出を防いでください。
- ・インクカートリッジに記載している有効期限を過ぎた場合は、そのインクカートリッジを使用しないでください。
- ・インクカートリッジをご使用の前に、必ず安全データシート（MSDS）をお読みください。



- ・インクカートリッジを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、カートリッジからインクがもれることがあります。
- ・インクカートリッジは分解しないでください。
- ・インクカートリッジのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。また、インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。

未使用スロット取り扱い上の注意

インクセットにより使用しないインクスロットがある場合は、ヘッドに洗浄液（SPC-0606FS）を充填し、定期的にメンテナンスを行ってください。
 洗浄液によるメンテナンスを行わない場合、ヘッドが吐出不良になる場合があります。

1

1 日に 1 回、サブタンクメンテナンスを実行する

- ・P.4-16「サブタンクメンテナンスをする」を参照して、メンテナンスを行ってください。
- ・未使用ヘッドは“N”で表示されます。



で“N”が表示されているヘッドを選択し、メンテナンスを行ってください。

インクシ ュウテン ヘット
 [MMCCYYKKWWNNNNNN]

重要!

- ・電源投入時、サブタンクメンテナンスの実行を促すメッセージを表示することがあります。
 キーを押してからサブタンクメンテナンスを行ってください。
- ・このメッセージは、一度表示されてから2日以上経過した電源再投入時に表示されます。

ブランク ヘット サブタンクメンテ
 OK: <ent>

メディアについて

使用可能なメディアサイズと、その取り扱い方法について説明します。

使用可能メディアサイズ

	JFX-1631/JFX-1631plus	JFX-1615/JFX-1615plus
最大幅	1644 mm	
最大長	3194 mm	1592 mm
最大作図幅	1602 mm	
最大作図長	3100 mm	1500 mm
厚さ	50 mm 以下	
重量 ^{*1}	200 kg 以下	100 kg 以下

*1. 1m²あたり 50kg が目安です。

メディア取り扱い上の注意

装置破損や印刷物不良発生を防ぐため、次の点にご注意ください。



- **メディアの伸縮**
包装を開けて間もないシート状のメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。開封後、30分以上、使用する場所の外気にさらす必要があります。
- **メディアの反り**
板状メディアは、平らなもの、作図面を上にして下に反っているもの（中央が浮いているもの）をご使用ください。上に反っているメディアは、テーブルに吸着できない場合があります。反りやすいメディアは、一回り小さめの台やパレットの上に置くなど、下反りになるように保管してください。
また、吸着エリアからはみ出しているメディアについて、反りが無いようご注意ください。
- **メディアの吸着**
吸着効果を維持するために、メディアが覆えないテーブル上の吸着穴は、使用するメディアよりも薄いメディアで塞いでください。
- **その他の注意点**
 - a コート紙の表面に物を置かないでください。コート紙によっては変色する場合があります。
 - b 吸着しきれないカールしたメディアや、Yバー移動時にずれてしまうメディアは使用できません。テープ貼付などでメディアを固定してからご使用ください。
 - c ロジカルシークの設定を“OFF”にしても、反りや変形が生じるメディアは使用しないでください。
 - d 盤面は複数枚の板で構成されているため、メディアの厚みやコシによっては継ぎ目が印刷画像に反映されます。また、バキューム穴も同様に印刷画像に影響を与えることがあります。事前にテスト作図を行い、問題のないことを確認してから、印刷を行ってください。

メニューモードについて

本装置には3つのモードがあります。各メニューモードについて説明します。

ローカルモード

ローカルモードは、作図準備状態のモードです。

全てのキーが有効です。

コンピュータから、データを受信できます。ただし、作図は行いません。

ローカルモードでは以下の操作が可能です。

- (1) ジョグキーを押して、作図原点や作図範囲を設定します。
- (2) **TEST** キーを押して、「テスト作図」を行います。
- (3) **CLEANING** キーを押して「ヘッドクリーニング」を行います。
- (4) **FUNCTION** キーを押して、各種機能を設定します。(→ファンクションモード)

ファンクションモード

ローカルモード時に、**FUNCTION** キーを押すとファンクションモードになります。

作図方法に関する機能設定を行います。

リモートモード

受信したデータを作図します。

作図中に**REMOTE** キーを押すと、一時停止します。

ローカルモード時は、**REMOTE** キーを押すとリモートモードになります。

第2章

基本的な使い方



この章では ...

インクやメディアの準備から作図までの手順や設定方法について説明します。

開閉扉の使いかた	2-2
作業の流れ.....	2-3
電源を入れる.....	2-4
メディアをセットする.....	2-5
テスト作図をする.....	2-7
テスト作図を行う	2-7
ヘッドクリーニングを実行する	2-8
“ノーマル”・“ハード”・“サブタンクメンテナンス” でクリーニングするとき	2-8
“ワイピング”でクリーニングするとき	2-9
電源投入時に自動的にクリーニングを実行する	2-10
データを作図する.....	2-11
作図を開始する	2-11
作図を中止する	2-12
Yバーを移動させる	2-13
電源を切る.....	2-14
電源オフ時のドカ抜けを防止する	2-14

開閉扉の使いかた

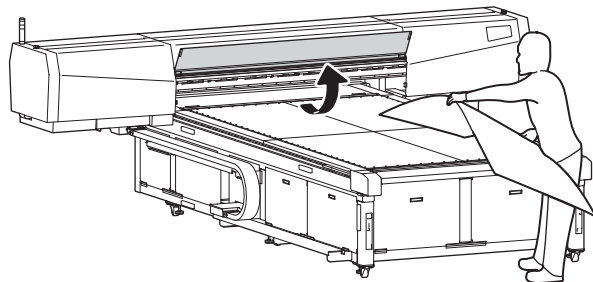
UV LED からの悪影響を受けないように、作図をするときは開閉扉を閉めてください。

メディアをセットするときは

1 開閉扉を開けてから、メディアをセットする

重要!

- メディアをセットするとき、開閉扉にぶつけないようにしてください。振動で扉が閉まる場合があります。

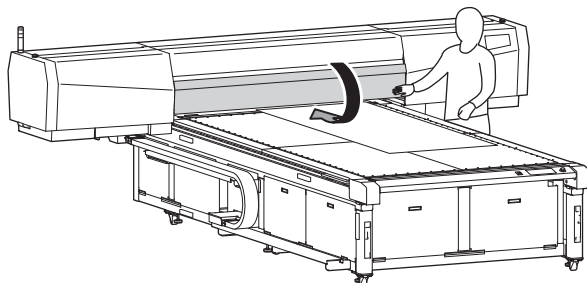


作図をするときは

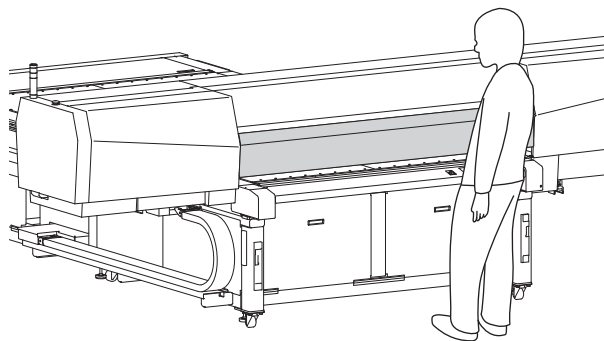
1 開閉扉を閉める

重要!

- 開閉扉が破損しないように、ゆっくりと閉めてください。



2 開閉扉を閉めたまま、作図をする



- 作図中は、開閉扉を開けないでください。UV 光により目や皮膚にダメージを受ける恐れがあります。
- 作図中に開閉扉の下に手を差し込むと、キャリッジに当たり、ケガをする恐れがあります。

作業の流れ

2

基本的な使い方

1

電源を入れる

「電源を入れる」(P.2-4)を参照してください。

2

メディアをセットする

「メディアをセットする」(P.2-5)を参照してください。

3

テスト作図をする

「テスト作図をする」(P.2-7)を参照してください。

4

ヘッドクリーニングを実行する

「ヘッドクリーニングを実行する」(P.2-8)を参照してください。

5

データを作図する

「データを作図する」(P.2-11)を参照してください。

6

電源を切る

「電源を切る」(P.2-14)を参照してください。

電源を入れる

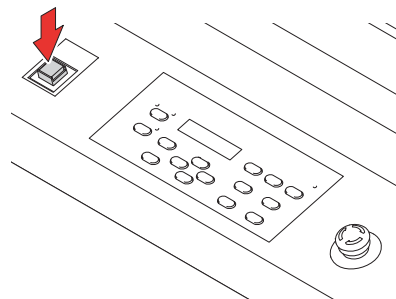


- 電源を入れると、初期動作のためYバーが移動します。テーブルに手をつけていると危険です。
- 温水装置の温度が規定の温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができるようになります。
- 装置左側面にある主電源スイッチで電源を入り/切りする場合は、一度電源を切った後5秒以上経過してから電源を入れください。

1

電源ボタンを押す

- 操作パネルの左側にある電源ボタンを押して点灯させます。
- 主電源スイッチが入っていないと、電源ボタンを押しても電源は入りません。ボタンを押してもランプが点灯しないときは、装置左側面の主電源スイッチを確認してください。



- 電源をオンにするとファームウェアのバージョンを表示します。

```
JFX-1631  start-up  
ver.*.**
```

2

ENTER キーを押す

- 初期動作を実行します。
- ローカルモードになります。

```
シハ`ラク オマチクダ`サイ
```

```
<ローカル> 2.5mm
```

3

接続しているコンピュータの電源をオンにする

メディアをセットする

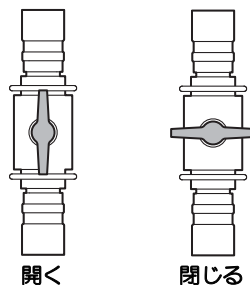
重要!

- メディアをセットするには、吸着バキュームユニット(オプション)でメディアを吸引する必要があります。必ず、オプションの吸着バキュームユニットを取り付けてから、メディアをセットしてください。
- 吸着エリア内に、メディアで塞がれない吸着穴があるときは、紙やフィルム、テープなどの薄いシート上のもを敷いて吸着穴を塞いでください。
- メディア外周部は、熱により反り返ることがあります。補助的に粘着テープなどを使って固定してください。
- テーブルの端(3辺)に、市販のネジ等を差し込むためのガイド穴を設けています。メディアをまっすぐにセットするためのガイドとしてお使いください。(参照 P.3-19)

1

セットするメディアの大きさに合わせて、テーブル右側面の吸引バルブを切り替える

- バルブは、ハンドルを縦にすると開き、横にすると閉じます。



2

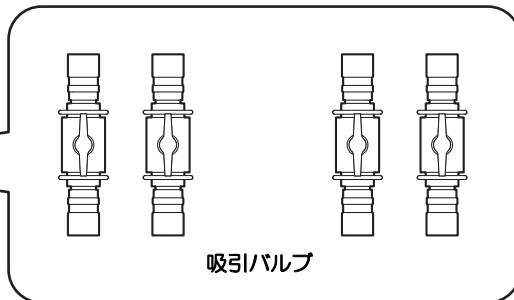
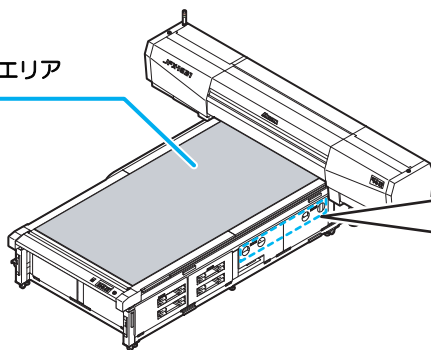
VACUUM/BLOW キーを押して、“VACUUM” ランプを点灯させる

3

ON/OFF キーを押して、メディアをテーブルに吸着させる

- **ON/OFF** キーを押して、バキュームを ON/OFF します。
- 吸着エリアについて、詳しくは P.2-6 をご参照ください。

吸着エリア



メディアセット後は、以下の設定をしてください。

- セットしたメディアの厚みを登録する (参照 P.3-4)
- ヘッドギャップ値を登録する (参照 P.3-6)

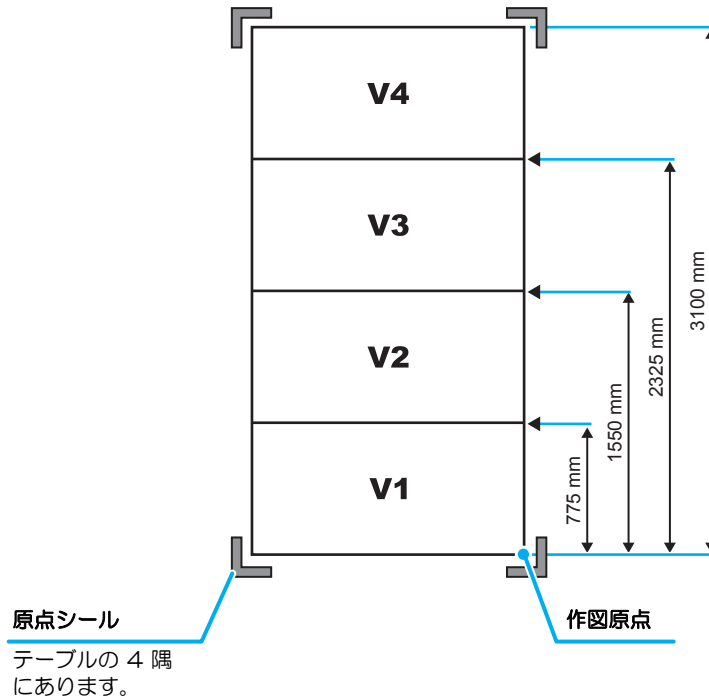
2

基本的な使い方

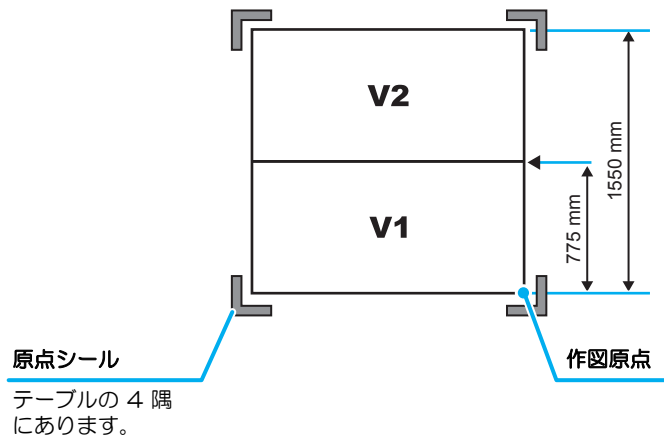
吸着エリアについて

吸着エリアは、下図のようになっています。**ON/OFF** キーを押して、セットするメディアのサイズに最適な吸着エリアを設定してください。

JFX-1631/JFX-1631plus の場合



JFX-1615/JFX-1615plus の場合



- 原点を変更したいときは、P.3-2 を参照してください。

テスト作図をする

テスト作図を行い、ノズル詰まりなどの作図不良（カスレや抜け）がないか確認します。

テスト作図を行う



- 次のようなメッセージが表示されている場合は、作図ができません。しばらくして、メッセージが消えてから作図してください。
- “オンスイ ジュンピチュウ”：温水装置の温水が一定温度に達していない

テスト作図の前に確認してください	• メディアをセットしているか (☞ P.2-5)	• 原点位置をセットしているか (☞ P.3-2)
	• ヘッドギャップ値を登録しているか (☞ P.3-6)	

1

ローカルモードで、**TEST** キーを押す

テスト サクス`
ノズルチェック <ent>

2

▲ **▼** を押し “ノズルチェック” を選ぶ

- “コウカチェック” を選ぶと、UV インクが固まっていないか（硬化）を確認できます。(☞ P.4-38)

3

ENTER キーを押す

- テスト作図を開始します。

** テスト サクス **

4

テスト作図が終了する

- ローカルモードになります。
- Yバーをテーブルから退避させたいときは、P.2-13 の操作をしてください。

5

作図結果を確認する

- 正常な場合は、データを作図してください。(☞ P.2-11)
- 異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(☞ P.2-8)






正常なパターン	異常なパターン		
	ドカ抜け	ノズル抜け	飛行曲がり
	<p>たくさんの線が抜けている</p>	<p>線が歯抜けしたように欠けている</p>	<p>線の間隔が詰まったり二重になっている</p>

2

基本的な使い方

ヘッドクリーニングを実行する

テスト作図で正常な作図結果が得られない場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。ヘッドクリーニングには、次の4種類があります。

ノーマル	テストパターンを作図したとき、線の抜けが10数本のときに使用します。吸引とワイピングを行います。	 P.2-8
ワイピング	テストパターンを作図したとき、線の抜けが数本のときに使用します。ワイパーによるワイピングのみ行います。	 P.2-9
ハード	ノーマルで線の抜けが改善しないときに使用します。	 P.2-8
サブタンクメンテナンス	作図中に発生したインク経路エラーを解消したいときに、[サブタンクメンテナンス]クリーニングを実行してください。	 P.2-8
パワーオン	電源投入時に自動的にクリーニングを実行するように設定できます。	 P.2-10



“ノーマル”・“ハード”・“サブタンクメンテナンス”でクリーニングするとき

1

ローカルモードで、**CLEANING** キーを押す

クリーニングタイプ : ノーマル

2

  でクリーニングタイプを選択し、**ENTER** キーを押す



クリーニングタイプ : ハード

3

ヘッドを選び、クリーニングする/しないを設定する

クリーニング
[MMMMCCCCYY **Y**KKKK]

(1)   でヘッドを選ぶ

(2)   でクリーニングする/しないを選ぶ

・全てのヘッドに対して、クリーニングの実行を選択してください。

クリーニングする : セットされているインクカートリッジの色を表示

クリーニングしない : “-” を表示

クリーニング
[MMMMCCCCYY **-**KKKK]

4

ENTER キーを押す

- ・クリーニングを開始します。
- ・クリーニングが終了すると、ローカルモードになります。

5

テスト作図を行い、作図結果を確認する

- ・作図結果が正常になるまで、クリーニングとテスト作図を繰り返してください。

“ワイピング”でクリーニングするとき

1

ローカルモードで、
CLEANING キーを押す

クリーニング°
 タイプ° : ノーマル

2

▲ **▼** で [ワイピング] を選択し、
ENTER キーを押す

クリーニング°
 タイプ° : ワイピング°

3

ヘッドを選び、クリーニングする / しない
 を設定する

クリーニング°
 [MMMMCCCCYYY■K KKK]

- (1) **◀** **▶** でヘッドを選ぶ
 (2) **▲** **▼** でクリーニングする / しないを選
 ぶ

クリーニング°
 [MMMMCCCCYYY■K KKK]

- 全てのヘッドに対して、クリーニングの実行を選択してください。
- クリーニングする : セットされているインクカートリッジの色を表示
- クリーニングしない : “-” を表示

4

ENTER キーを押す

5

▲ **▼** でワイピングの回数
 (1 ~ 10 回) を選択する

クリーニング°
 ワイプ° カイスウ : 1

6

ENTER キーを押す

- クリーニングを開始します。
- クリーニングが終了すると、ローカルモードになります。

7

テスト作図を行い、作図結果を確認する

- 作図結果が正常になるまで、クリーニングとテスト作図を繰り返してください。



- ヘッドクリーニングを繰り返し替えても作図結果が改善されない場合は、ワイパのクリーニングをする必要があります。P.4-13「ワイパのクリーニング」を参照してください。
- ワイパのクリーニングをしてからヘッドクリーニングを繰り返しても作図結果が改善されない場合は、インクを充填し直してください。P.4-28

2

基本的な使い方

電源投入時に自動的にクリーニングを実行する

電源投入後、温水の準備が完了したら自動的にクリーニングを実行するように設定できます。

1

ローカルモードで、**CLEANING** キーを押す

クリーニング°
タイプ° : ノーマル

2

▲ **▼** で [パワーオン] を選択し、
ENTER キーを押す

クリーニング°
タイプ° : パワーオン

3

ヘッドを選び、電源投入時のクリーニングする/しないを設定する

クリーニング°
[MMMMCCCCYY■KKKK]

(1) **◀** **▶** でヘッドを選ぶ

(2) **▲** **▼** でクリーニングする/しないを選ぶ

- 全てのヘッドに対して、クリーニングの実行を選択してください。

クリーニングする : セットされているインクカートリッジの色を表示

クリーニングしない : “-” を表示

クリーニング°
[MMMMCCCCYY-■KKKK]

4

ENTER キーを押す

- 設定を行い、ローカルモードになります。

データを作図する

作図を開始する



- ヘッドの温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができます。



- エラー表示がされていても、データは送信できます。作図は表示が消えてから開始します。

1

メディアをセットする (☞ P.2-5)

- (1) メディアのサイズに合わせて、吸引バルブを開閉する
- (2) **VACUUM/BLOW** キーを押して、VACUUM ランプを点灯させる
- (3) **ON/OFF** キーを押して、メディアを吸着させる

2

ローカルモードで、**REMOTE** キーを押す

- リモートモードになり、コンピュータからのデータを受信できるようになります。

リモート

2.5mm

3

コンピュータから作図するデータを 送信する

- 作図条件を表示します。
- データの送信方法については、出力ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

解像度 : 600dpi

リモート 600X600
HOST 4P B N 2.5mm

スキャン速度 :
“N” はノーマル、
“x2” は倍速

方向 :
“B” は双方向、
“U” は単方向を表す

パス

優先順位を“ホスト”に設定 :

“HOST”と表示

優先順位を“パネル”に設定 :

作図品質 (STD/FINE/FAST) を表示

4

作図開始

- 作図原点は、作図が終了しても変更されません。

2

基本的な使い方

5

作図終了後、メディアを取り外す

- (1) 「Yバーを移動させる」(P.2-13) の操作をして、Yバーをテーブルの外に退避させる
- (2) **ON/OFF** キーを押して、吸着を OFF にする
- (3) **VACUUM/BLOW** キーを押して、BLOW ランプを点灯させる
- (4) **ON/OFF** キーを押して、ブローを ON にする
- (5) メディアを取り除く
- (6) **ON/OFF** キーを押して、ブローを OFF にする

重要!

- 作図中に UV LED による熱で、メディアが浮き上がり、作図が中断される場合があります。新しいメディアをセットし直し、作図を開始してください。

作図を中止する

作図を途中で中止する場合、作図動作を止め、すでに受信したデータを本装置から消去します。

1

作図中に、**REMOTE** キーを押す

- 作図動作を中止します。
- コンピュータからデータを送信している場合は、コンピュータ側でデータ送信を止めます。

<ローカル>

2.5mm

2

DATA CLEAR キーを押す

データ クリア

<ENT>

3

ENTER キーを押します。

- 受信データを消去し、ローカルモードに戻ります。

** データ クリア **

Yバーを移動させる

作図結果を確認したいときなどに、Yバーを移動させることができます。
あらかじめ、Yバーの退避位置（ビュー位置）を設定してください。

ビュー位置を設定する

- 1 ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
 FUNCTION
 ビュー <ENT>
- 2 **ENTER** キーを押す
 ビュー
 イトウ カシ <ent>
- 3 **▼** を押して [ビューイチセツテイ] を選
 び、**ENTER** キーを押す
 ビュー
 イチ : **** ミリ
- 4 **▼** **▲** を押して、移動位置を設定する
 ・ **▲** を押すと：作図原点を中心に、テーブルの奥側へYバーが移動
 ・ **▼** を押すと：作図原点を中心に、テーブルの前側へYバーが移動
 ビュー
 イチ : 500 ミリ
- 5 **ENTER** キーを押す
 ・ 値が設定され、手順2の画面に戻ります。
 イトウチュウ
 シハラクオマチクタサイ

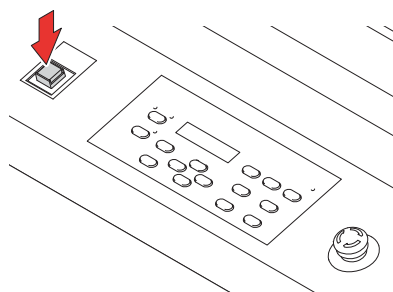
Yバーをビュー位置へ移動させる

- 1 ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
 FUNCTION
 ビュー <ENT>
- 2 **ENTER** キーを押す
 ビュー
 イトウ カシ <ent>
- 3 **ENTER** キーを押す
 ・ Yバーが移動します。
 イトウチュウ
 シハラクオマチクタサイ

電源を切る

電源を切るときは、データを受信していないか、未出力のデータが残っていないかを確認してください。

1 接続してあるコンピュータの電源をオフにする



2 電源ボタンを押して、電源を切る



- 本装置を長期間使用しない場合は、以下のようにしてください。
 - (1) 電源ボタンを押す
 - (2) シャットダウン動作が終了したことを確認する
 - (3) 装置左側面にある主電源スイッチを切る (P.1-3)

電源オフ時のドカ抜けを防止する

電源スイッチをオフにしても、定期的に装置が起動して、ドカ抜けを防止するための各種動作を行います。(ファームウェア Ver.2.40 以降に対応)

重要!

- スリープからの起動時は、電源をオフにしないでください。スリープ動作完了後は、自動で電源をオフにします。
- クリーニングは行いません。
- インクの消費はありません。
- 電源をオフにしてから 2 時間までは、10 分ごとに起動します。電源をオフにしてから 2 時間以降は、90 分ごとに起動します。

1 スリープから起動するとスリープ動作を行い、自動で電源をオフにする

- スリープ動作は 30 秒程度で終了します。
- 「POWER OFF シバラク オマチクタサイ」の表示の後、自動で電源をオフにします。

```
JFX-**** start-up  
ver.***
```



シバラク オマチクタサイ



POWER OFF
シバラク オマチクタサイ

電源を切るときのご注意

- 主電源スイッチは切らないでください。
主電源スイッチが入っていると、定期的に電源が入りドカ抜け防止機能が働きます。主電源スイッチを切っていると、スリープ機能が働かず、ドカ抜けの原因となります。

第3章 便利な使い方



この章では ...

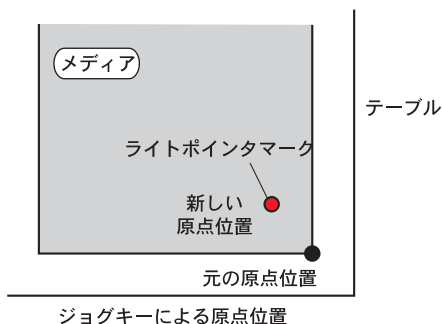
本装置をより便利に使うための操作方法や、各種設定方法について説明しています。

原点を変更する.....	3-2	メディアをまっすぐにセット	
ジョグキーを使って作図原点を		するために.....	3-19
変更する.....	3-2	ポストキュアユニットの高さを	
ファンクションメニューを		調整する.....	3-20
使って作図原点を変更する.....	3-3	ポストキュアユニットを使用する...	3-22
メディアの厚みを登録する.....	3-4	ポストキュアユニット使用時の	
メディアの厚みを手動で登録する ...	3-4	注意事項.....	3-22
メディアの厚みを UP DOWN キー		厚みのあるメディアに作図する際の	
を使って登録する.....	3-4	注意事項.....	3-23
メディアの厚みを自動測定する.....	3-5	ポストキュアユニットの電源を	
ヘッドギャップ値を登録する.....	3-6	入れる.....	3-24
その他の便利な機能.....	3-7	ポストキュア機能使用時の作図範囲を	
データクリア.....	3-7	切り替える.....	3-25
本装置の情報を表示する.....	3-7	ポストキュアの使用方法を設定する	
各種設定.....	3-8	(2次硬化の設定).....	3-27
作図方式を設定する.....	3-8	ポストキュアの照射範囲を広げる... 3-30	
UV LED 装置の光量を設定する.....	3-10	作図済みのメディアに再度ランプを	
優先順位の設定をする.....	3-11	照射する.....	3-33
ワークチェンジを設定する.....	3-12	ポストキュアランプの	
画面の言語表示を切り替える.....	3-14	交換時期について.....	3-36
設定リストを出力する.....	3-15	ポストキュアユニット使用上の	
本装置のマシン情報を表示する.....	3-16	注意点.....	3-41
その他の便利な設定.....	3-17		
設定した内容を初期状態に戻す.....	3-18		

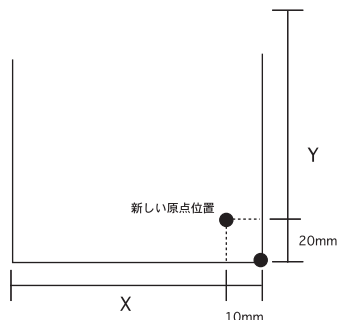
原点を変更する

お買い上げ時に設定されている原点の位置を変更することができます。
変更方法には次の2つがあります。

ジョグキー(▲▼◀▶)で変更する



ファンクションメニューの“ゲンテン”で変更する



ジョグキーを使って作図原点を変更する

1

ローカルモードで、
▲▼◀▶を押す

- 原点設定モードになります。
- テーブル、またはメディア上に赤いライトポインタ「●」マークが映ります。

ゲンテン セッテイ
0.0 —

2

▲▼◀▶を押して、ライトポインタマークを移動させる

- 新しく原点を設定する位置に、ライトポインタマークを移動します。

ゲンテン セッテイ
500.0 600.0
原点位置 (前後) 原点位置 (左右)

3

作図原点を決定したら、
ENTER キーを押す

- 原点が変更されます。

** ゲンテン **

重要!

- ジョグキーで設定した原点は、電源を切ると設定値がクリアされます。

ファンクションメニューを使って作図原点を変更する

原点位置を正確に設定する場合、ファンクションメニューから X,Y 原点の設定をします。この設定で原点を設定した場合、設定した値が原点位置（0.0）となります。

1

ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
 ヒュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して [ゲンテン] を選び、**ENTER** キーを 2 回押す

• X 軸のオフセット値設定画面になります。

ゲンテン 3100ミリ
 Xオフセット : 0ミリ

3

▲ **▼** を押して、数値を入れる

• X 軸の原点位置を設定します。
 • 1 行目のカッコ内の数値は、原点から最大有効範囲までの距離を表します。

ゲンテン 3090ミリ
 Xオフセット : 10ミリ

4

ENTER キーを押す

ゲンテン
 センタク: Xオフセット

5

▲ **▼** を押して [Y オフセット] を選び、
ENTER キーを押す

ゲンテン 1602ミリ
 Yオフセット : 0ミリ

6

▲ **▼** を押して、数値を入れる

• Y 軸の原点位置を設定します。

ゲンテン 1592ミリ
 Yオフセット : 10ミリ

7

ENTER キーを押す

ゲンテン
 センタク: Xオフセット

8

終了するとき、**END** キーを数回押す

重要!

• 設定した原点は、電源を切ってもクリアされません。

3

便利な使い方

メディアの厚みを登録する

セットするメディアの厚みを登録します。

登録方法には、「厚みを手動で登録する方法」、「**UP** **DOWN** キーで選択する方法」、「厚みを自動測定する方法」の3種類があります。

メディアの厚みを手動で登録する

- 1 ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
FUNCTION
ヒュー <ENT>
- 2 **▲** **▼** を押して [ヘッドタカサ] を選ぶ
FUNCTION
ヘッドタカサ <ENT>
- 3 **ENTER** キーを2回押す
メディア アツミ
2.5 mm
- 4 **▲** **▼** を押してセットするメディアの厚み (0.0 ~ 50.0mm) を入力する
メディア アツミ
10.5 mm
- 5 **ENTER** キーを押す
FUNCTION
ヘッドタカサ <ENT>
- 6 **END** キーを押して、終了する

メディアの厚みを **UP** **DOWN** キーを使って登録する

- 1 **UP** または **DOWN** キーを押す
ケンテン セッテイ
Zタカサ = 45.0
- 2 **UP** または **DOWN** キーを押して、調整する
ケンテン セッテイ
Zタカサ = 55.0
- 3 **ENTER** キーを押す
ケンテン セッテイ
ヘッドキヤツプ° = 1.2

メディアの厚みを自動測定する

メディアの厚みは、キャリッジ左側にあるギャップピンを使って自動測定します。

1 メディアをセットする



- 必ず作図範囲にメディアをセットしてください。メディアをセットしないで自動測定を行うと、ヘッドが破損する場合があります。

2 ローカルモードで、 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION
ビュー          <ENT>
```

3 を押して [ヘッドタカサ] を 選ぶ

```
FUNCTION
ヘッドタカサ   <ENT>
```

4 (ENTER) キーを押す

```
ヘッドタカサ
メディア アツミ  <ent>
```

5 を押して [アツミソクテイ] を 選ぶ

```
ヘッドタカサ
アツミ ソクテイ <ent>
```

6 (ENTER) キーを押す

- 測定準備のため、Yバーが最上点まで上昇します。
- キャリッジが作図範囲へ移動します。

```
アツミ ソクテイ
イトウ チュウ
```



```
アツミ ソクテイ
ソクテイ カシ   :ent
```

7 (ENTER) キーを押す

- メディアの厚みを自動的に測定します。
- 測定した厚みを表示します。
- キャリッジが退避位置へ移動し、手順5の画面に戻ります。

```
アツミ ソクテイ
** ソクテイ チュウ **
```



```
アツミ ソクテイ
          3.0mm :ent
```









```
ヘッドタカサ
アツミ ソクテイ <ent>
```

8 終了するとき、(END) キーを数回押す

ヘッドギャップ値を登録する

ヘッドとメディアとのギャップ値を入力します。ここで登録した値が、すべてのメディアに反映されます。

- 1** ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
FUNCTION
ヒュー <ENT>
- 2**   を押して [ヘッドタカサ] を選ぶ
FUNCTION
ヘッドタカサ <ENT>
- 3** **ENTER** キーを押す
ヘッドタカサ
メディア アツミ <ent>
- 4**   を押して [ヘッドギャップ] を選ぶ
ヘッドタカサ
ヘッドギャップ° <ent>
- 5** **ENTER** キーを押す
ヘッドギャップ°
2.5mm
- 6**   を押してヘッドギャップ値を入力する
ヘッドギャップ°
4.0mm
• 設定値：1.2～5.0mm
- 7** **ENTER** キーを押す
• 終了するとき、**END** キーを数回押します。
ヘッドタカサ
ヘッドギャップ° <ent>



- ヘッドギャップ値に適正な値が設定されていないと、作図中、メディアに大きなインク滴が落ちるなど、作図品質に影響が出ることがあります。

その他の便利な機能

データクリア

本装置に必要な作図データがある場合、次の操作をして消去してください。

1

ローカルモードで、
DATA CLEAR キーを押す

データ クリア
<ENT>

2

ENTER キーを押す
・データが消去されます。

** データ クリア **

本装置の情報を表示する

1

ローカルモードで **ENTER** キーを押すごとに、順次情報が表示される

- 表示する情報は、次の項目です。
インク残量 / メイン FW バージョン情報 / コマンド情報 / サブ FW バージョン情報 / UVLED の照射時間 / 負圧値 / サブタンク状態
- UV LED の照射時間は、左側に左側の LED の照射時間、右側に右側の LED の照射時間を表示します。

インク残量	メイン FW バージョン / コマンド情報
<ローカル> インク サンプル 99999999 99999999	JFX-16** V1.00 MRL-11B V1.90
メイン FW / サブ FW バージョン情報	UV LED 照射時間
JFX-16** V1.00 SUB FW V1.00	<ローカル> ショウシャ シェカン 120, 120, 120, 120
負圧値	サブタンク状態
<ローカル> ファツ 2.5 kPa	<ローカル> サブタンク FFFFFFFF FFFFFFFFFF

2

ENTER キーを押して、ローカルモード
に戻る

<ローカル>
2.5mm



- 使用機種情報について、P.3-16「本装置のマシン情報を表示する」でも確認することができます。
- UV LED の照射時間について、詳しくは P.4-37「UV LED 装置の照射時間を確認する」を参照してください。

3

便利な使い方

各種設定

作図方式を設定する

作図に関する設定をします。

- 1** ローカルモードで、
(FUNCTION) キーを押す FUNCTION
ヒュー <ENT>
- 2** **(▲)** **(▼)** を押して [セッテイ] を選ぶ FUNCTION
セッテイ <ENT>
- 3** **(ENTER)** キーを押す セッテイ
フィード`ホセイ <ent>
- 4** **(▲)** **(▼)** を押して [サクズホウシキ] を選ぶ セッテイ
サクズ`ホウシキ <ent>
- 5** **(ENTER)** キーを押す セッテイ
サクズ`ヒンシツ <ent>
- 6** **(▲)** **(▼)** を押して設定する項目を選ぶ
・設定項目については、次ページの表を参照してください。
- 7** **(ENTER)** キーを押す
- 8** **(▲)** **(▼)** を押して設定値を選ぶ
・設定値については、次ページの表を参照してください。
- 9** **(ENTER)** キーを押す
- 10** 終了するとき、**(END)** キーを数回押す セッテイ
サクズ`ヒンシツ <ent>



・設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定項目	設定値	概要
サクズ ヒンシツ	ヒョウジュン	標準的な作図品質
	キレイ	高品質な作図をしたいとき（作図スピードは遅くなります）
	ハイ	速く作図したいとき（画質はやや劣ります）
スキャン ハウコウ	ソウハウコウ	作図でヘッドがメディア上を移動するとき、左右両方から作図します。（“タンハウコウ”より速く作図ができます）
	タンハウコウ	作図でヘッドがメディア上を移動するとき、片方向から作図します。（より高品質な作図ができます）
	タンハウコウ CH2	作図をするとき、右側の UV LED だけを使って作図します。
ロジカル シーク	ガソウ	作図するデータ幅に合わせて、ヘッドが移動します。
	メディア	作図するときは、設定したメディア幅上を超える位置までヘッドが移動します。
	OFF	作図するときは、テーブル幅いっぱいまでヘッドが移動します。

重要!

- 接続しているホスト PC から RIP ソフトウェア「RasterLinkPro5」を使用して作図する場合、“ロジカルシーク”の設定のみここで設定した値が有効になります。その他の設定（サクズヒンシツ、スキャンハウコウ）は、RasterLinkPro5 での設定値に従って作図されます。

UV LED 装置の光量を設定する

UV LED 装置の光量は 3 段階に設定できます。

熱に弱いメディアを使用するときや、クリーニング中のテスト作図などで UV LED を点灯させたくないときなどに設定します。

ツヨイ	100%の照度で UV LED が点灯します。
ヒョウジュン	75%の照度で UV LED が点灯します。
ヨワイ	50%の照度で UV LED が点灯します。
ナシ	作図時、UV LED は点灯しません。
インサツナシ	作図は行わずに、UV LED だけ点灯させます。作図時に UV LED を点灯させなかったときなどに、後から硬化させたいときに使用します。(通常は設定しません)

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ヒュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して [セッテイ] を選ぶ

FUNCTION
セッテイ <ENT>

3

ENTER キーを押す

セッテイ
フィートホセイ <ent>

4

▲ **▼** を押して [UV コウリョウ] を選ぶ

セッテイ
UV コウリョウ <ent>

5

ENTER キーを押す

セッテイ
UV コウリョウ : ヒョウジュン

6

▲ **▼** を押して光量を選ぶ

・設定値：ツヨイ、ヒョウジュン、ヨワイ、ナシ、インサツナシ

7

ENTER キーを押す

8

終了するとき、**END** キーを数回押す



・リモート作図時の UV LED 装置の光量は、RIP 側から設定できます。詳しくは、お使いの RIP の取扱説明書を参照してください。

優先順位の設定をする

次の各項目について、本装置での設定を優先するか、コンピュータでの設定を優先するかを選択します。

選択する項目：作図方式 / 重ね塗り

- 1 ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
 FUNCTION
 ビュー <ENT>
- 2 **▲** **▼** を押して [セッテイ] を選ぶ
 FUNCTION
 セッテイ <ENT>
- 3 **ENTER** キーを押す
 セッテイ
 フィートホセイ <ent>
- 4 **▲** **▼** を押して [ユウセンジュンイ] を選ぶ
 セッテイ
 ユウセン シュンイ <ent>
- 5 **ENTER** キーを押す
 ・作図方式の設定画面が表示されます。
 セッテイ
 サクス ホウシキ : ホスト
- 6 **▲** **▼** を押して “ホスト” または “パネル” を選ぶ
 ・ホスト：コンピュータの設定を優先
 ・パネル：本装置での設定を優先
 セッテイ
 サクス ホウシキ : パネル
- 7 **ENTER** キーを押す
- 8 手順 6、7 の操作と同様にして、他の項目も設定する
- 9 終了するとき、**END** キーを数回押す



- ・設定した値は、電源を切ってもクリアされません。
- ・RIP ソフトウェア「RasterLinkPro5」をお使いの場合、優先順位は“重ね塗り”の設定のみ有効になります。“作図方式”の優先順位を“パネル”に設定しても、RasterLinkPro5 の設定値に従って作図されます。

ワークチェンジを設定する

オンライン作図を終了したとき、ローカルに戻るかリモートのままとするかを設定します。
(ファームウェア Ver.2.70 以降に対応)

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して [セッテイ] を選ぶ

FUNCTION
セッテイ <ENT>

3

ENTER キーを押す

セッテイ
フィート`ホセイ <ent>

4

▲ **▼** を押して [ワーク チェンジ] を選ぶ

セッテイ
ワーク チェンシ` <ent>

5

ENTER キーを押す

セッテイ
ワーク チェンシ` : ON

6

▲ **▼** を押して、ワークチェンジの設定 (OFF または ON) を選ぶ

セッテイ
ワーク チェンシ` : OFF

- OFF : オンライン作図後、リモート状態を保持します。(次の作図データを受信している場合は、重ね書きされます)
- ON : オンライン作図後、Yバーをあらかじめ設定したビュー位置 (P.2-13「ビュー位置を設定する」) へ移動します。Yバーの移動が完了すると、ローカルに戻ります。

7

ENTER キーを押す

- 手順 6 で "OFF" に設定した場合は、手順 10 へ進んでください。

セッテイ
キュウチャク : ON

8

▲ **▼** を押して、吸着の設定 (OFF または ON) を選ぶ

- OFF : オンライン作図後、吸着をオフしてからローカルに戻ります。
- ON : オンライン作図後、吸着がオンの状態のままローカルに戻ります。

セッテイ
キュウチャク : OFF

9

ENTER キーを押す

セッテイ ワーク チェンシ`	: ON
-------------------	------

10

終了するとき、**END** キーを数回押す

3

便利な使い方

画面の言語表示を切り替える

ディスプレイに表示する言語を日本語または英語から選べます。

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビュ— <ENT>

2

▲ **▼** を押して **[DISPLAY]** を選ぶ

FUNCTION
DISPLAY <ENT>

3

ENTER キーを押す

DISPLAY
English <ent>

4

▲ **▼** を押して言語を選ぶ

• お買い上げ時は、“English” に設定されています。

DISPLAY
Japanese <ent>

5

ENTER キーを押す

6

終了するとき、**END** キーを押す



• 設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定リストを出力する

お客様の控え、または保守問い合わせ時の FAX 用にご使用してください。

1 A4 サイズ以上のメディアをセットする (☞ P.2-5)

2 ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ヒュー <ENT>

3 **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選ぶ

FUNCTION
メンテナンス <ENT>

4 **ENTER** キーを押す

メンテナンス
ステーション メンテ <ent>

5 **▲** **▼** を押して [リスト] を選ぶ

メンテナンス
リスト <ent>

6 **ENTER** キーを押す

・設定リストの出力を開始します。

メンテナンス
サクス` チュウ

7 終了するとき、**END** キーを押す



・設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

本装置のマシン情報を表示する

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して[メンテナンス]を選ぶ

FUNCTION
メンテナンス <ENT>

3

ENTER キーを押す

メンテナンス
ステーション メンテ <ent>

4

▲ **▼** を押して[マシンジョウホウ]を選ぶ

メンテナンス
マシン ショウホウ <ent>

5

ENTER キーを押す

メンテナンス
バージョン <ent>

6

▲ **▼** を押して表示する情報を選び、**ENTER** キーを押す

- 表示できる情報は次の2つです。
本装置のFWバージョン
シリアルNo.

バージョン情報

メンテナンス
MAIN Ver 1.00

シリアルNo.情報

メンテナンス
S/N 00000000

7

終了するとき、**END** キーを数回押す

その他の便利な設定

使い方に合わせて設定を変えてください。

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ヒュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して [セッテイ] を選ぶ

FUNCTION
セッテイ <ENT>

3

ENTER キーを押す

セッテイ
フィードホセイ <ent>

4

▲ **▼** を押して設定する項目を選び、**ENTER** キーを押す

・設定一覧表を参照して選択してください。

5

▲ **▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す

・設定一覧表を参照して選択してください。

6

終了するとき、**END** キーを数回押す



・設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定一覧表

設定項目	設定値	概要
カサネヌリ	1～9回	インクの重ね塗りをするときの回数を設定します。 重ね塗りをすることで、よりキレイな作図ができます。
リフレッシュ	レベル0～3	ホコリが多い場所などで、ヘッドのインク詰まりが起こらないよう、プリントヘッドのリフレッシュレベルを設定します。 レベル数が大きいほど、リフレッシュ回数が多くなります。 レベル=0のときはリフレッシュを行いません。
ミリ/インチ	ミリ	ディスプレイに表示される設定値の単位を、ミリで表示します。
	インチ	ディスプレイに表示される設定値の単位を、インチで表示します。
UV スキャン ツイカ	1～9回	作図終了後、画像の末端部分に UV を照射して硬化させるための追加スキャン回数を指定します。

設定した内容を初期状態に戻す

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押すFUNCTION
ヒュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して [セッテイ] を選ぶFUNCTION
セッテイ <ENT>

3

ENTER キーを押すセッテイ
フィート`ホセイ <ent>

4

▲ **▼** を押して [セッテイリセット] を選ぶセッテイ
セッテイ リセット <ent>

5

ENTER キーを押すセッテイ
シヨキカ シマスカ? :ent

6

ENTER キーを押す

・設定を初期化します。

7

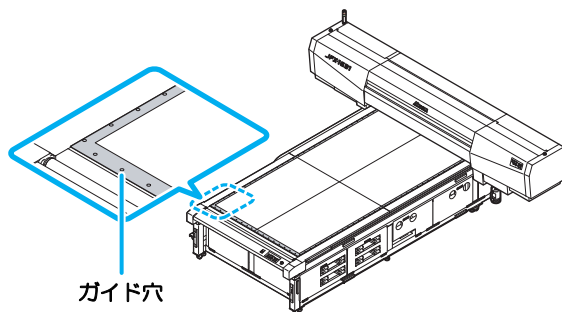
終了するとき、**END** キーを数回押す**重要!**

・ [セッテイリセット] では、設定項目で変更した内容のみ初期化できます。

メディアをまっすぐにセットするために

テーブルの端（3 辺）に市販のネジ等を差し込むためのガイド穴を用意しています。

- 用意したガイド穴を使用して、メディアをまっすぐにセットするためのガイド等を取り付けることができます。

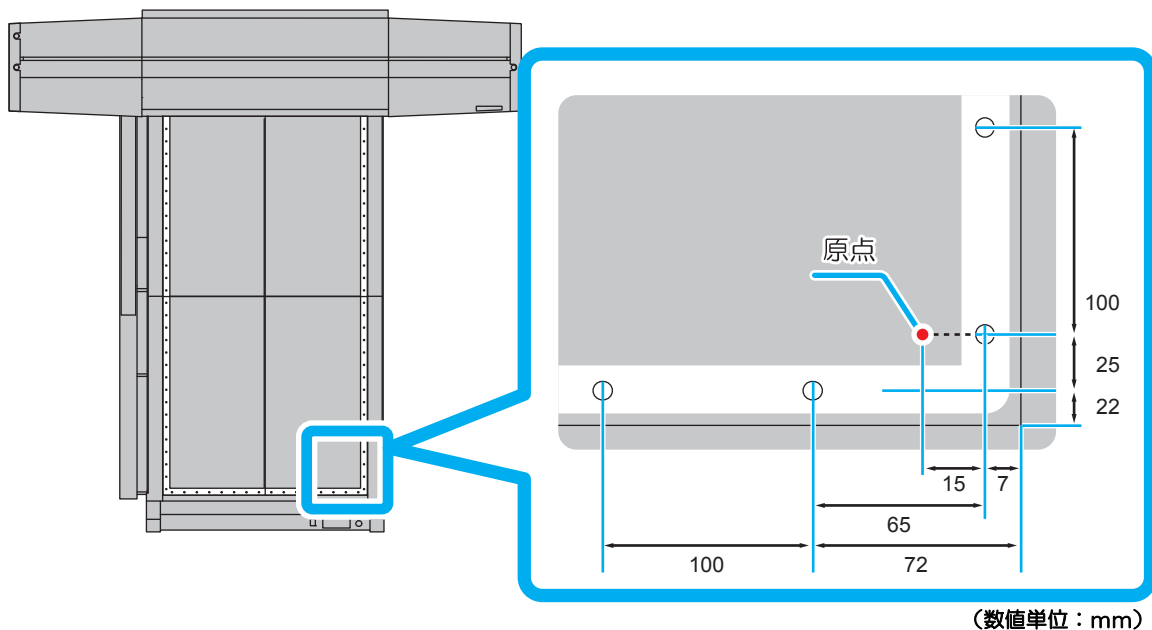


重要!

- ガイドとしてご使用になるものの高さが、メディアより高くないようにお気をつけください。

ガイド穴の配置について

メディアをセットするためのガイドをご用意する際、下記の寸法をご参考ください。



- ガイド穴には、M5 のネジを差し込めます。

3

便利な使い方

ポストキュアユニットの高さを調整する

メディアに合わせて、ポストキュアユニットの高さを調整します。



- JFX-1631/1615 をお使いの場合、ポストキュアユニットはオプションになります



- ポストキュアユニットの高さ調整は、作図前に必ず行ってください。
ポストキュアユニットの位置が高すぎる場合
UV 光が漏れて人体や装置に悪影響を及ぼすことがあります。
ポストキュアユニットの位置が低すぎる場合
メディア詰まりの原因になります。

重要!

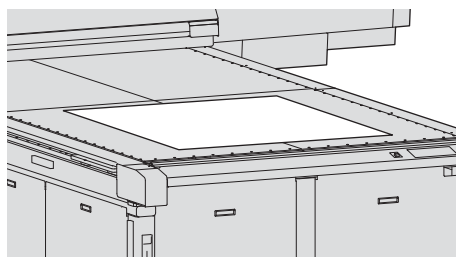
- ポストキュアユニットの高さ調整をするときは、必ず専用の治具を使用してください。
- 高さ調整を行うときは、ポストキュアユニットの底面をのぞき込まないでください。ランプが点灯しているときにのぞき込むと、目に悪影響を及ぼします。

1

作図するメディアをテーブルに敷く

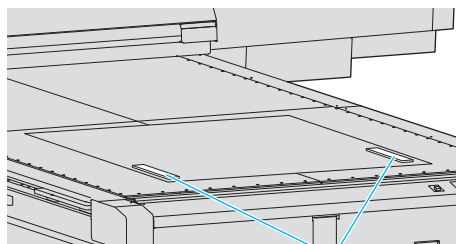


- 高さ調整をする際は、使用するメディアの切れ端等、汚れても構わないメディアをお使いになることをお勧めします。



2

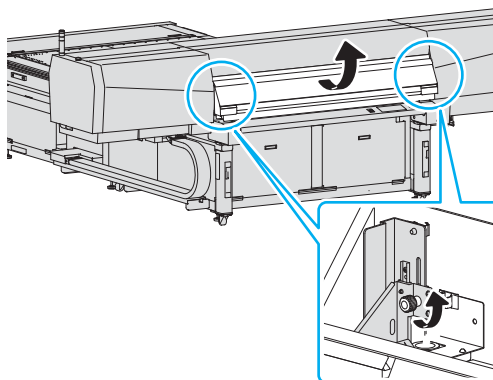
メディアの左右端に高さ調整用治具をセットする



高さ調整用治具

3

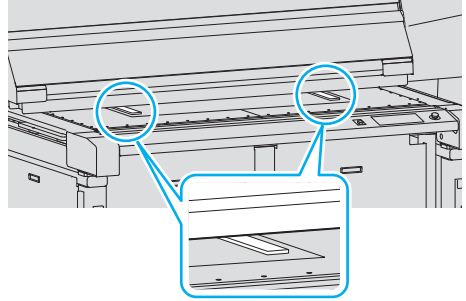
Yバー前面の開閉扉を開け、ポストキュアユニット両側のネジを緩める



4

ポストキュアユニットの高さを調整する

- ポストキュアユニットを高さ調整用治具に静かに乗せてください。
- ポストキュアユニットの位置が適正でない、人体や装置に悪影響を及ぼしたり、メディア詰まりの原因になるのでお気をつけてください。



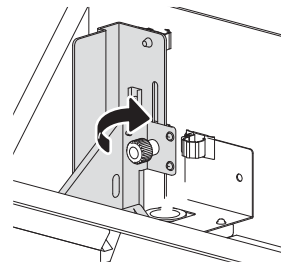
5

ポストキュアユニット両側のネジを確実に締める

- 作図中にネジが緩まないよう、しっかりと締めてください。



- ネジが緩んだ状態のままお使いになると、作図中にポストキュアユニットが落下してメディアや吸着テーブル面を傷つける恐れがあります。



6

高さ調整用治具を抜き取る

- 治具を抜き取る時は、メディアや吸着テーブル面を傷つけないようゆっくりと引き抜いてください。

ポストキュアユニットを使用する

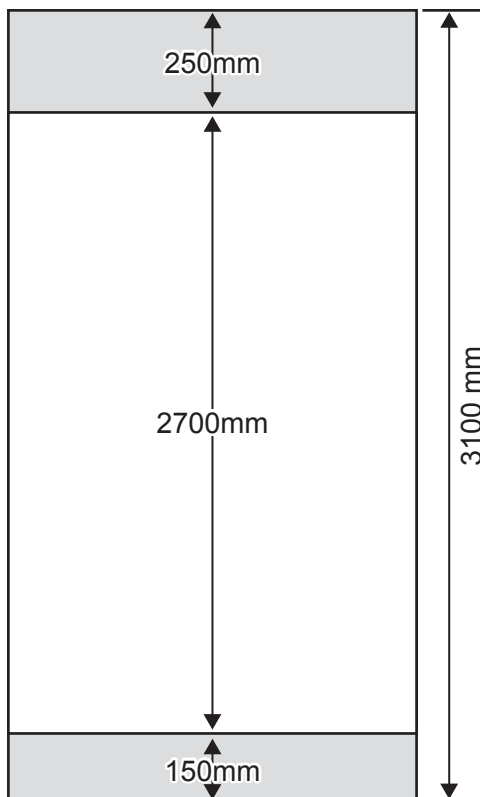


- JFX-1631/1615 をお使いの場合、ポストキュアユニットはオプションになります

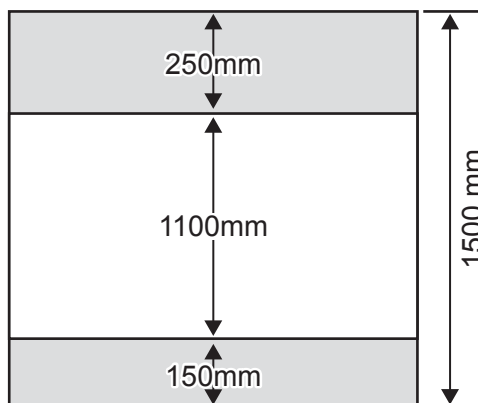
ポストキュアユニット使用時の注意事項

ポストキュアユニットを使用すると、ポストキュアユニットの分だけ Y バーの奥行きが増えるため、JFX-1631/1615 に比べて Y バーの可動領域が狭くなり、その分、作図範囲も狭まります。

JFX-1631plus



JFX-1615plus



重要!

- JFX-1631/1615 に比べ、上図のグレー部分で Y バーが可動できなくなります。
- 上図の白色部分にメディアをセットしてください。



- 作図範囲と UV 照射範囲を 3100mm まで拡大することができます。(JFX-1615plus の場合 1500mm)
- 作図範囲と UV 照射範囲を拡げるには、設定と作業が必要です。P.3-30「ポストキュアの照射範囲を拡げる」を参照してください。

厚みのあるメディアに作図する際の注意事項

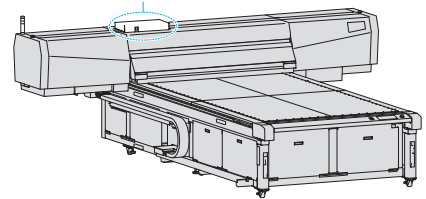
厚みのあるメディアに作図する場合、ポストキュアユニットから照射される UV 光が漏れて人体や装置に悪影響を及ぼす場合があります。

厚みのあるメディアに作図する場合は、付属の UV 遮光カーテンをポストキュアユニットに取り付けてください。

UV 遮光カーテンを取り付ける

- 1 Y バーの上にあるポストキュアユニット用の電源が切れていることを確認する

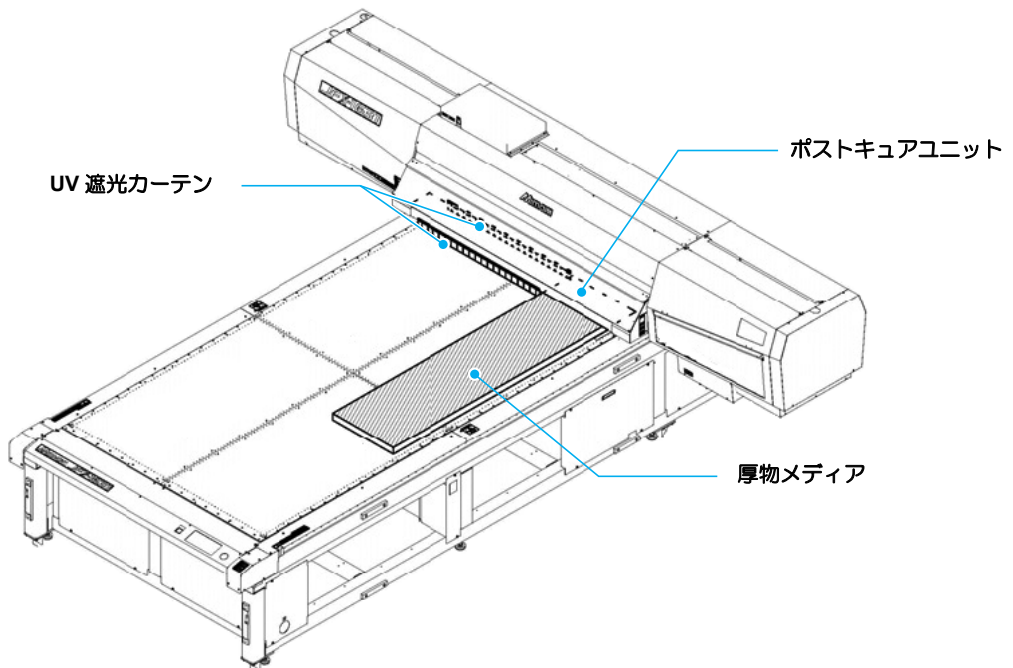
ポストキュアユニット用電源



- 2 メディアに合わせて、ポストキュアユニットの高さ調整を行う (☞ P.3-20)

- 3 UV 遮光カーテンを取り付ける

- UV 遮光カーテンに付いているマグネットを利用して、ポストキュアユニットの内側と外側に取り付けてください。
- ポストキュアユニットの内側に UV 遮光カーテンを取り付けるときは、Y バー前面の開閉扉を開けて取り付けてください。
- 本機には、付属品として UV 遮光カーテンを 4 枚用意しています。メディアの幅に合わせて、UV 遮光カーテンを取り付けてください。

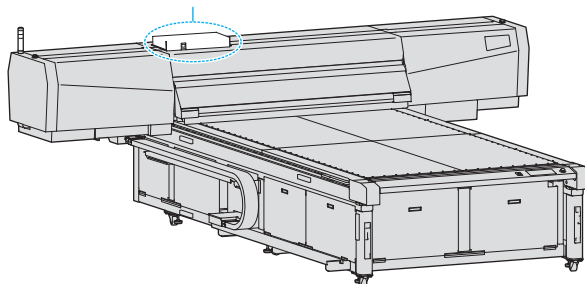


ポストキュアユニットの電源を入れる

1

Yバーの上にあるポストキュアユニット用電源を入れる

ポストキュアユニット用電源



ポストキュア機能使用時の作図範囲を切り替える

ポストキュアユニットを使用すると、ポストキュアユニットの分だけ Y バーの奥行きが増えるため、JFX-1631/1615 に比べて Y バーの可動領域が狭まり、作図範囲が狭くなります。(☞ P.3-22 「ポストキュアユニット使用時の注意事項」)

次の設定をして作図終了後にポストキュアによる UV 照射を行うように設定すれば、JFX-1631/1615 と同じように作図することができるようになります。

設定値	概要
ドウジショウシャ	作図時、同時にポストキュアによる UV 照射を行います。 この場合、ポストキュアによる UV 照射をしないときと比べ、作図範囲が狭くなります。詳しくは、P.3-41 「ポストキュアユニット使用上の注意点」 を参照してください。
サクズゴ	作図が終了してからポストキュアによる UV 照射を行います。 “サクズゴ” に設定すると、JFX-1631/1615 と同等の範囲に作図できるようになります。 この場合、UV 照射を行うには、お客様による作業が必要になります。P.3-30 「ポストキュアの照射範囲を拡げる」 を参照してください。

重要!

- 設定値を“サクズゴ”にすると、“ドウジショウシャ”に設定しているときと比べて作図時に Y バーが 150mm 手前にせり出します。Y バーの手前に手や物を置かないようにしてください。

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す

メンテナンス
ステーション メンテ <ent>

3

▲ **▼** を押して [サクズハンイ ヘンコウ] を選ぶ

メンテナンス
サクズ* ハンイ ヘンコウ <ent>

4




ENTER キーを押す

サクズ* ハンイ ヘンコウ
ホ°ストキュア :ド`ウシ` ショウシャ

3

便利な使い方

5


  を押して設定値を選び、
 キーを押す

ドウジショウシャ:

作図と同時にポストキュアによる UV 照射を行う

サクズゴ:

作図後にポストキュアによる UV 照射を行う


- 現在の設定値と変更しなかった場合は、
 キーを押したあと手順7へ進んでください。

サクス` ハンイ ヘンコウ
ホ`ストキュア :サクス`コ`



サクス` ハンイ ヘンコウ
カイン :ent

6

 キーを押す

- 原点検出動作を行います。

ケンテン ケンシュツ チュウ
シハ`ラク オマチ クタ`サイ

7

終了するとき、 キーを数回押す

ポストキュアの使用方法を設定する（2次硬化の設定）

ポストキュアユニットの使用方法を設定します。
メンテナンス機能の「サクズハンイヘンコウ」の設定値によって、設定内容が変わります。

「サクズハンイヘンコウ」が“ドウジショウシャ”の場合

メンテナンス機能の「サクズハンイヘンコウ」が“ドウジショウシャ”になっている場合の、ポストキュアの使用方法とフィード方法を設定します。

設定値	概要
ナシ	ポストキュアユニットを使用しない。 (インクの硬化は、キャリッジ上のUV LED 装置のみで行います。)
リモート	リモート設定後、最初の作図が始まるとポストキュアユニットのランプが点灯します。(装置がリモート状態の間はランプの点灯を継続します。) 複数のデータを連続して作図するときなど、装置の状況に合わせてランプの ON/OFF 切り替えを行わないため、ランプの消耗が少なくなります。
サクズ	作図を行うときに、ポストキュアユニットのランプが点灯します。

重要!

- 2次硬化の設定を“リモート”にすると、作図が終了しても、装置がリモート状態になっている間はランプが点灯したままになります。長時間作図しない場合は速やかに装置をローカルモードに切り替えることをお勧めします。
- 装置に未作図のデータが残っている場合は、ローカルモードに切り替えてもランプは消灯しません。
未作図のデータを作図するか、データを消去してください。
- テスト作図時はランプは消灯したままになります。

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ヒュー <ENT>

2

▲ ▼ を押して [セッテイ] を選び、
ENTER キーを押す

セッテイ
フィードホセイ <ent>

3

▲ ▼ を押して [ポストキュア] を選び、
ENTER キーを押す

セッテイ
ポストキュア :サクズ

- メンテナンス機能の「サクズハンイヘンコウ」が“ドウジショウシャ”の場合、右の画面が表示されます。

4

▲ ▼ を押して設定値を選ぶ

- 設定値：ナシ、リモート、サクズ

セッテイ
ポストキュア :リモート

3

便利な使い方

5**ENTER** キーを押す

- ・手順 4 で“ナシ”を選んだ場合は、手順 8 へ進んでください。

6
▲ ▼ を押して作図終了後のフィード
 間隔を選ぶ

インサツ シュウリョウシ` フィート`カンカク	: ノーマル
----------------------------	--------

- ノーマル: 作図終了後も作図時と同じ間隔でフィードする
- 0 ~ 60 秒: 設定した間隔でフィード動作を行う
(設定した値がスキャン動作の間隔より長い場合は、スキャン動作の間隔でフィードする)

7**ENTER** キーを押す**8**終了するとき、**END** キーを数回押す**重要!**

- ・インクの硬化後は、ポストキュアユニットが高温になっています。硬化後はなるべく触れないようにしてください。
- ・RasterLinkPro5 の [印刷条件]-[UV モード] サブメニューで“操作パネル設定値”以外の印刷方法を指定している場合、ここで設定した内容は無効となり、RasterLinkPro5 で指定した方法で UV 照射を行います。

「サクズハンイヘンコウ」が“サクズゴ”の場合

作図後に UV 照射する回数と、作図した画像の長さを登録します。

1ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION ビュー	< ENT >
-----------------	---------











2
▲ ▼ を押して [セッテイ] を選び、
ENTER キーを押す

セッテイ フィート`ホセイ	< ent >
------------------	---------

3
▲ ▼ を押して [ポストキュア] を選び、
ENTER キーを押す

ホ`ストキュア サク`ゴ`ショウシャ	: OFF
-----------------------	-------

- ・メンテナンス機能の「サクズハンイヘンコウ」が“サクズゴ”の場合、右の画面が表示されます。

- 4**   を押して ON/OFF を選び、
 キーを押す
- ホ° ストキュア
カイスウ : 1
- “OFF” を選んだ場合は、手順 8 へ進んでください。
-
- 5**   を押してポストキュアの照射回数 (1 ~ 50 回) を選び、 キーを押す
- ホ° ストキュア
カイスウ : 3
-
- 6**   を押して作図する画像の長さを設定する
- ホ° ストキュア
メテ`ィア ナカ`サ : 3100mm
-
- 7**  キーを押す
-
- 8** 終了するとき、 キーを数回押す

重要!

- インクの硬化後は、ポストキュアユニットが高温になっています。硬化後はなるべく触れないようにしてください。
- RasterLinkPro5 の [印刷条件]-[UV モード] サブメニューで “操作パネル設定値” 以外の印刷方法を指定している場合、ここで設定した内容は無効となり、RasterLinkPro5 で指定した方法で UV 照射を行います。

ポストキュアの照射範囲を広げる

ポストキュアユニットを使用して作図した画像を UV 硬化する場合、ポストキュアユニットを使用していない時と比べて作図範囲とポストキュアユニットによる UV 照射範囲が狭くなります。(☞ P.3-22 「ポストキュアユニット使用時の注意事項」)

次の作業をすることで、ポストキュアの照射範囲と作図可能範囲を広げることができます。

ポストキュアユニットによる UV 照射範囲を広げるには、次の設定が必要です。

● メンテナンス機能の「サクズハイヘンコウ」で設定を “ サクズゴ ” にする。
(☞ P.3-25)

● セッテイ項目の「ポストキュア」で作図後照射の設定を行う。(☞ P.3-28)

重要!

- メンテナンス機能の「サクズハイヘンコウ」を “ サクズゴ ” に設定しないと、ポストキュアの UV 照射範囲を広げることができません。
- 作図する画像に合わせ、セッテイ項目の「ポストキュア - サクズゴショウシャ」でポストキュアの照射回数と画像のサイズ (長さ) を登録してください。画像サイズが一致していないと、作図した箇所にポストキュアによる UV 照射が行われなかったり、メディアの無い場所に UV 照射を行ってしまう場合があります。

1 メンテナンス機能の「サクズハイヘンコウ」を “ サクズゴ ” に設定する (☞ P.3-25)

- “ ドウジショウシャ ” に設定すると、印刷範囲および UV 照射範囲を広げることができなくなります。

2 セッテイ項目の「ポストキュア」で作図後照射の設定を行う (☞ P.3-28)

- 設定項目の「ポストキュア - サクズゴショウシャ」でポストキュアの照射回数と作図する画像のサイズ (長さ) を登録します。

3 作図を行う

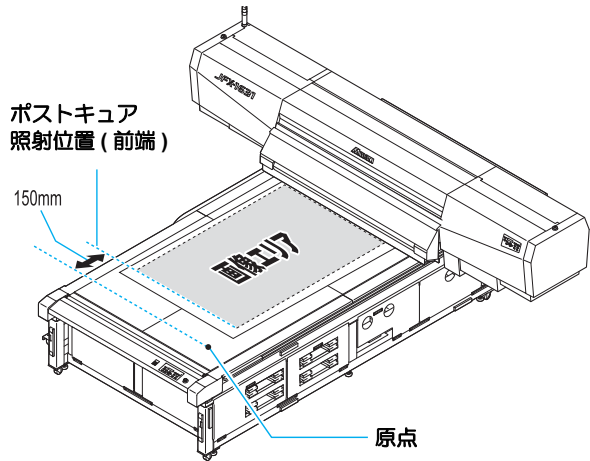
- 作図が終わると、右の画面を表示します。

メディア ウシロヘ イト`ウ
OK? :ent

4

画像の先端をポストキュア照射位置 (前端) に合わせる

- ポストキュア照射位置の前端は、原点から 150mm の位置です。



5

ENTER キーを押す

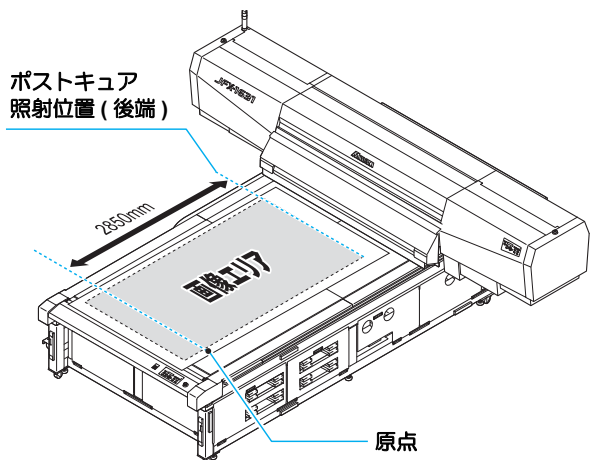
- Yバーが移動し、ポストキュアによる UV 照射を行います。
 - ここでは手前側のポストキュア照射位置から最大 2700mm(JFX-1615plus の場合 1100mm) までの照射を行います。
 - 手順 2 で登録した画像サイズが 2700mm(JFX-1615plus の場合 1100mm) 以下の場合、登録した範囲にのみ照射を行います。
 - ポストキュアによる UV 照射を行わない場合は、END キーを押してください。
- ポストキュアの照射が終わると、右の画面を表示します。

メテ`ィア マエ`イト`ウ
OK? :ent

6

画像の後端をポストキュア照射位置 (後端) に合わせる

- ポストキュア照射位置の後端は、原点から 2850mm(JFX-1615plus の場合 1250mm) の位置です。



7

ENTER キーを押す

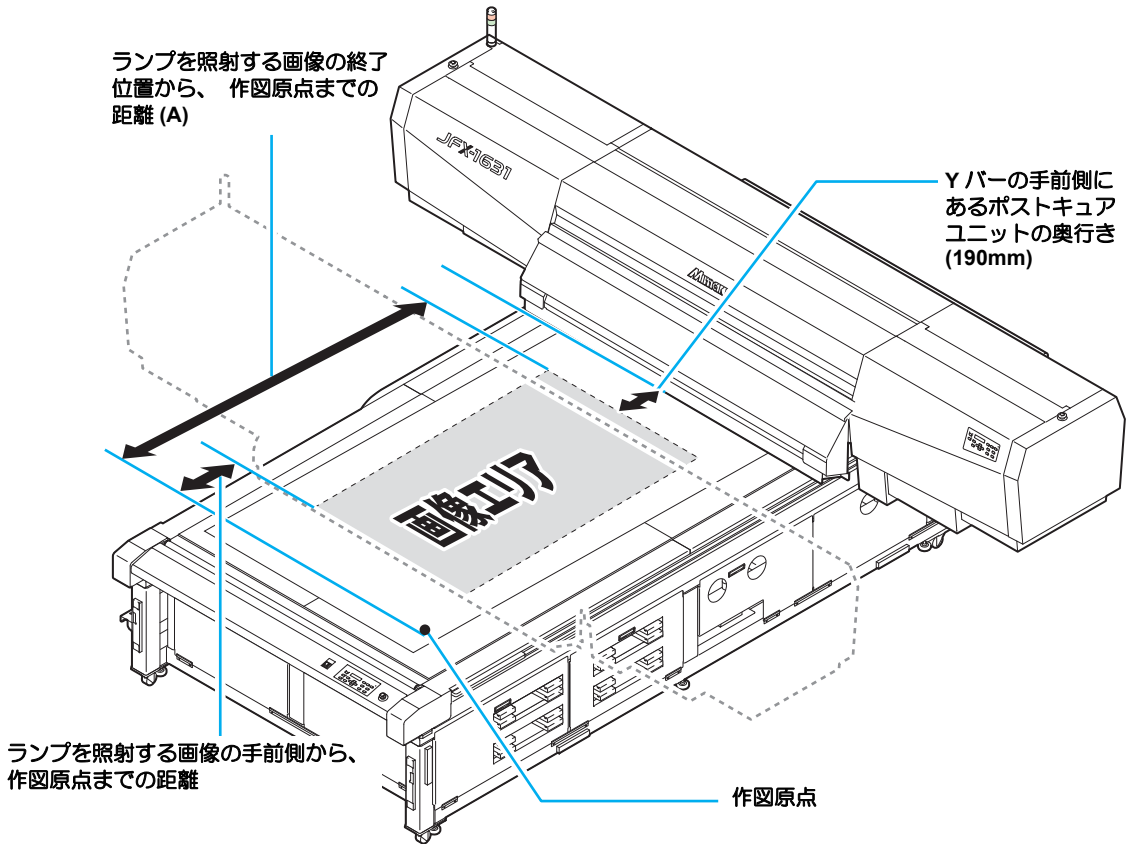
- 画像の後端から 500mm の範囲でポストキュアの照射を行います。
 - ポストキュアの照射が終わると、ローカルモードに戻ります。
 - 手順 2 で登録した画像サイズが 2700mm(JFX-1615plus の場合 1100mm) 以下の場合、
ENTER キーを押してもポストキュアの照射は行いません。
-

作図済みのメディアに再度ランプを照射する

作図済みのメディアに再度ランプを照射させて、より確実にインクを硬化させることができます。

ランプ照射範囲の設定方法

ランプの照射開始位置および照射終了位置は、次のようにして設定してください。



- ランプ照射の終了位置は、上図の (A) からポストキュアユニットの奥行き (190mm) を足した数値になります。
- ポストキュアユニットの奥行き分だけ後に終了位置を設定することで、画像の前端からランプを照射できます。

1

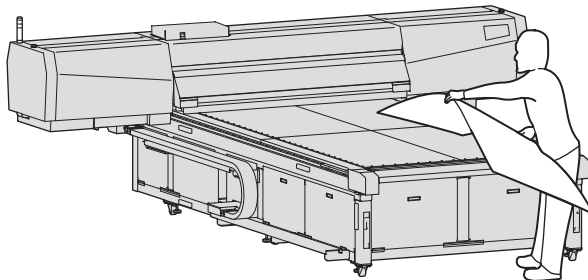
メディアに合わせて、ポストキュアユニットの高さ調整を行う (☞ P.3-20)

- 高さ調整を行う際は、ランプを再照射するメディアと同種類のメディアをテーブルにセットしてください。
- 作図済みのメディアを使用して高さ調整を行うと、高さ調整用具で作図面を傷つける恐れがあります。

3

便利な使い方

2 再照射する作図済みのメ
ディアをテーブルにセット
する



3 ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビュアー <ENT>

4 **▲** **▼** を押して [ポストキュア] を選ぶ

FUNCTION
ホ°スト キュア <ENT>

5 **ENTER** キーを押す

ホ°スト キュア
カイシ イチ : 0mm

6 **▲** **▼** を押してランプの再照射開始位
置を決定する

ホ°スト キュア
カイシ イチ : 100mm

- テーブル前端から照射開始位置までの距離を入力します。
- 設定値 : 0 ~ 2890mm (JFX-1615plus の場合は、0 ~ 1290mm)



重要!

- メンテナンス機能の「サクズハンイヘンコウ」が“サクズゴ”に設定されている場合、設定値が異なります。
JFX-1631plus の場合 : 150 ~ 3040mm
JFX-1615plus の場合 : 150 ~ 1440mm

7 **ENTER** キーを押す

ホ°スト キュア
シュウリョウ イチ : 0mm

8

  を押してランプの再照射終了位置を決定する

ホ°スト キュア
シュウリョウ イチ : 1000mm

- テーブルの前端から照射終了位置までの距離を入力します。
- ポストキュアユニットの奥行き分を考慮して、設定してください。
- 設定値 : 0 ~ 2890mm (JFX-1615plus の場合は、0 ~ 1290mm)

重要!

- メンテナンス機能の「サクズハンイヘンコウ」が“サクズゴ”に設定されている場合、設定値が異なります。

JFX-1631plus の場合 : 150 ~ 3040mm

JFX-1615plus の場合 : 150 ~ 1440mm

9

 キーを押す

- 照射回数の設定画面が表示されます。

ホ°スト キュア
カイスウ : 2


10

  を押して照射回数を設定する

- 設定値 : 1 ~ 50 回
- 設定した回数だけ、ランプを照射しながら Y バーが往復動作します。

ホ°スト キュア
カイスウ : 3

11

 キーを 2 回押す

- ポストキュアユニットによる、UV ランプの再照射を開始します。
- 設定した回数だけの照射が終わると、ローカルモードに戻ります。

ホ°スト キュア
シハ°ラク オマチクダ°サイ

重要!

- インクの硬化後は、ポストキュアユニットが高温になっています。硬化後はなるべく触れないようにしてください。

3

便利な使い方

ポストキュアランプの交換時期について

ランプの交換時期になると、JFX-1631/1615plus の電源を入れたときにディスプレイに右のメッセージを交互表示してお知らせします。

メッセージが表示されたら、次の操作をしてランプを交換してください。

メンテナンス ワーニング^{*}
ホ° ストキュア ランプ° コウカン



メンテナンス ワーニング^{*}
OK : <ent>



- JFX-1631/1615 をお使いの場合、ポストキュアユニットはオプションになります。



- ランプが消灯した直後はランプは高温になっています。ランプ交換は、ランプが十分冷えてから行ってください。
- ランプ交換をするときは、ランプを慎重に取り扱ってください。ランプが本体にぶつかり、破損や怪我の牽引となります。

重要!

- メッセージが表示されたあとでも、暫くの間、ポストキュアユニットのランプは点灯します。
ただし、光量が少なくなっているため、メッセージ表示前と比べて、UV インクの硬化は劣ります。

1

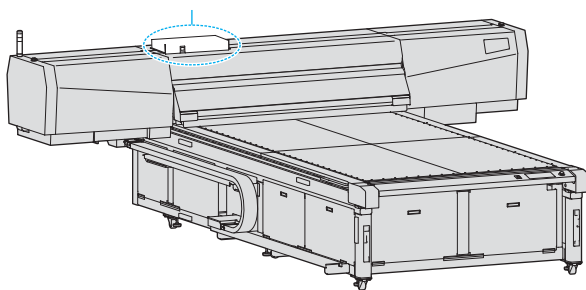
メンテナンスメニューの“ポストキュア交換モード”を選ぶ

- (1) □ーカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[ポストキュアコウカン] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを 2 回押す
 - Y バーが手前に移動します。

2

Yバーの上にあるポストキュア用電源を切る

ポストキュアユニット用電源



3

ENTER キーを押す

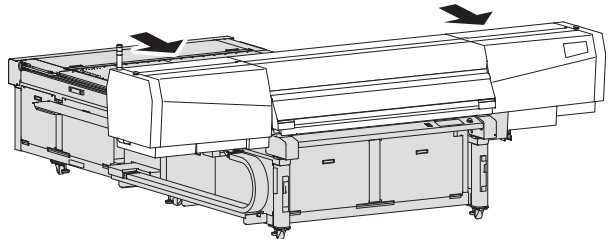
- しばらくすると、右のメッセージが表示されます。

ホ° ストキュア コウカン
Yハ°ー ヲ オンテクダ°サイ :ent

4

Yバーを押して、手前に移動させる

- Yバーが移動できなくなるまで移動させてください。

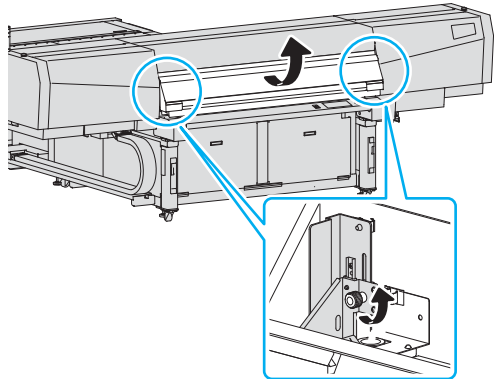


5

ENTER キーを押す

6

開閉扉を開け、ポストキュアユニット両側のネジを緩める



7

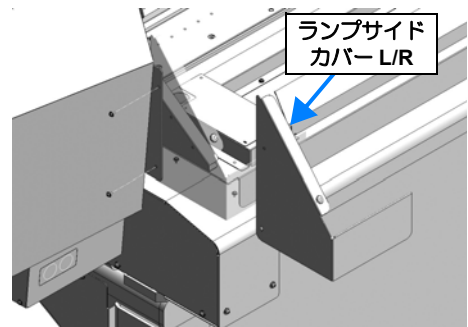
ポストキュアユニットを一番上まで移動させ、ネジを締める



- ネジは確実に締めてください。ネジが緩んだ状態でランプの交換作業を行うと、交換中にポストキュアユニットが落下して、手を挟んだりランプが破損する原因となります。

8

ランプサイドカバー (L/R) を取り外す

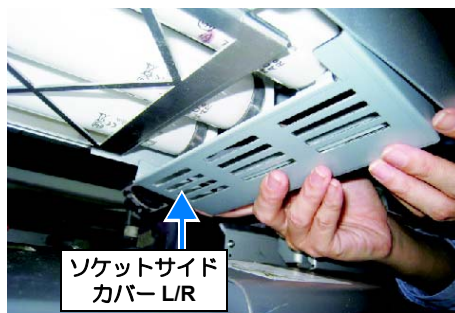


3

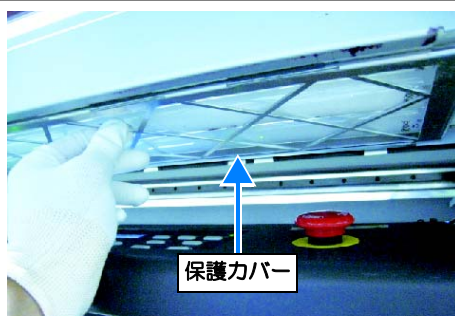
便利な使い方

9

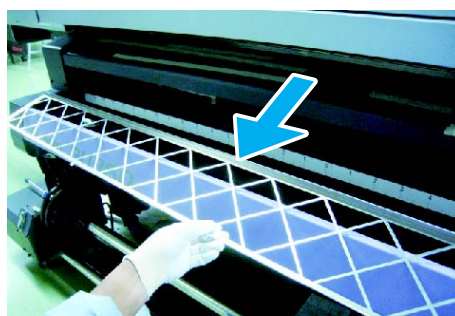
ランプ両脇のソケットカバーを外す

**10**

保護カバーをスライドさせる

**11**

保護カバーを引き抜く

**12**

ランプを交換する



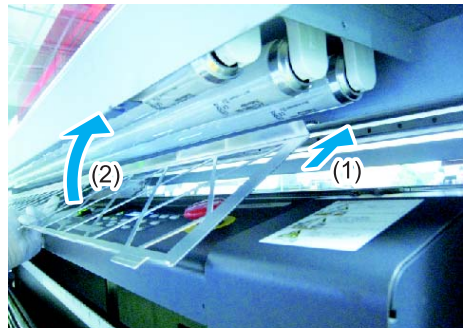
- ランプを取り付けるときは、両端の電極がソケットに確実に挿入されていることを確認してください。
- ランプを取り付ける際は、メーカー印字側が下になるように取り付けてください。



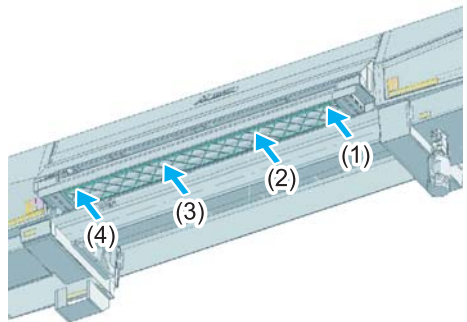
13 左側のソケットカバーを取り付ける



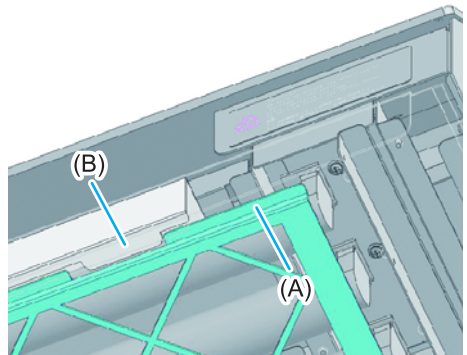
14 保護カバーを取り付ける
 (1) 保護カバーを矢印の方向に差し込む
 (2) 手前側を持ち上げる



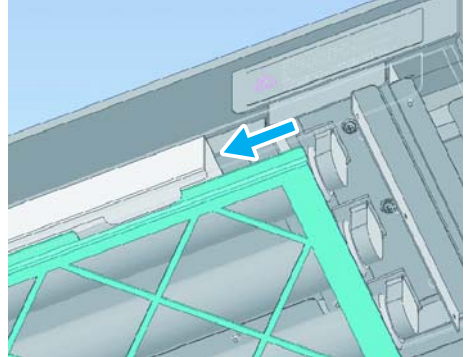
15 保護カバーを左にスライドして固定する
 ・右側のツメから (1) → (2) → (3) → (4) の順番で引っかけてください。



16 保護カバー右端のツメ(A)を、(B)の隙間に入れる

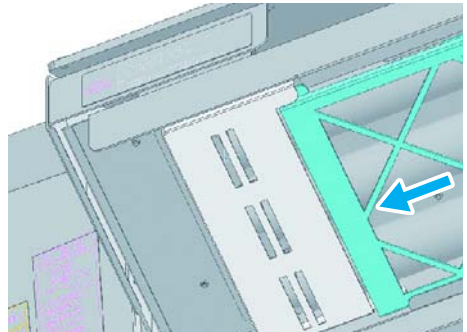


17 保護カバーを左にスライドする
(5mm 程度)



18 手順 16・17 と同じ要領で、左側のツメを引っかける

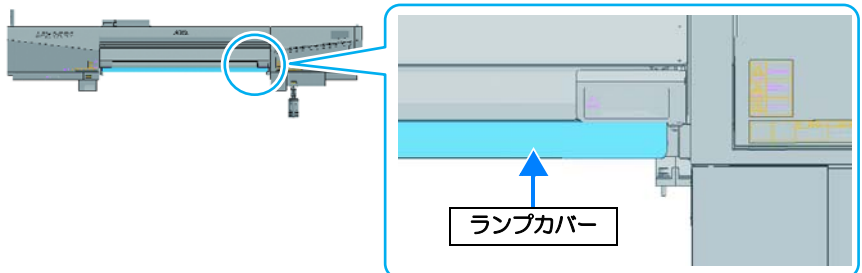
19 4箇所すべてのツメを引っかけたら、
左ソケットカバーに突き当てる



20 右ソケットカバー、ランプサイドカバー(左右)を取り付け、ポストキュア
ユニットを元の状態に戻す



- ポストキュアユニットのランプカバー下面より下にソケットカバーなどが飛び出さないようにしてください。



21 ポストキュアユニット用電源を入れ、**ENTER** キーを押す

ポストキュアユニット使用上の注意点



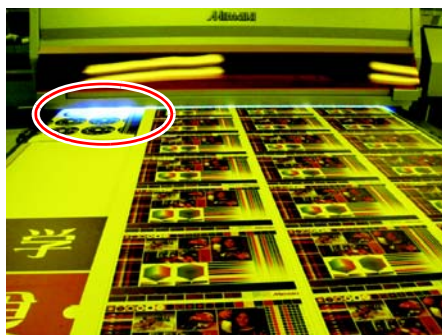
- JFX-1631/1615 をお使いの場合、ポストキュアユニットはオプションになります。

ヘッドギャップを適正 / 均一に保てない場合

厚みのあるメディアをお使いになるときなど、ヘッドギャップを適正 / 均一に保てない場合があります。

そのようなときは、次のようにしてください。

- (1) メディアの端材などを使い、できる限りギャップを埋めてください。
- (2) 定期ワイピングの設定をしてください。(P.4-11 「自動的にノズル面の清掃をする」)
 - ミストの付着・露光により粘度の高くなったインクを取り除くため、定期ワイピングの設定をしてください。
 - 定期ワイピングの設定の目安は、3100mm 長印刷毎にワイピングを行うようにしてください。
 - 定期ワイピングを行っても、インクは消費しません。
 - その他にも、定期的にワイパの清掃や交換を行ってください。
- (3) 作図中のリフレッシュレベルを上げてください。(P.3-7 「その他の便利な機能」)
 - 露光により粘度の高くなったインクを排出することができます。



長時間の連続印刷を行う場合

- (1) ヘッドギャップ値を、適正な範囲内で可能な限り低い値にして使用してください。
- (2) 印刷終了後は、ヘッドクリーニング (P.2-8) 及びキャリッジ下面の清掃 (P.4-9 「ヘッドガードプレートのクリーニング」) を行ってください。
 - 印刷終了後は、キャリッジ下面に粘度の高くなったインクが付着している場合があります。

第4章 お手入れ



この章では ...

インクの交換方法やクリーニングなど、本装置を快適にお使いいただくために必要な項目を説明します。

日常のお手入れ.....	4-2	白インク(ホワイト)の	
長期間使用しない場合は.....	4-2	定期メンテナンス.....	4-20
お手入れ上のご注意.....	4-2	冷却ファンフィルタを交換する.....	4-22
テーブル、外装のお手入れ.....	4-3	ミスト吸引フィルタを交換する.....	4-24
インクカートリッジについて.....	4-4	ドットの位置がずれたら.....	4-26
新しいインクパックに交換する.....	4-4	画質不良が解消されない場合は.....	4-28
ランプの状態について.....	4-6	インクの充填を行う.....	4-28
インクカートリッジの振り方.....	4-7	温水装置の水を交換する.....	4-30
カートリッジ異常が発生したら.....	4-8	不凍液混合水の交換方法.....	4-31
作図中のインク滴のポタ落ちを防ぐ..	4-9	UV LED 装置のフィルタを交換する	4-35
ヘッドガードプレートの		UV LED 装置の照射時間について ...	4-37
クリーニング.....	4-9	UV LED 装置の照射時間を	
自動的にノズル面の清掃をする.....	4-11	確認する.....	4-37
定期ワイピングの設定.....	4-11	UV LED 装置の照射時間を	
定期クリーニングの設定.....	4-12	リセットする.....	4-37
ワイパのクリーニング.....	4-13	UV 硬化が弱くなったときの	
サブタンクメンテナンスをする.....	4-16	チェック方法.....	4-38
特色インクのノズル詰まりを		UV 光量の変更.....	4-39
防止する.....	4-17	バキュームユニットの	
廃インクが溜まったら.....	4-18	吸着 / 吹上げレベルを設定する.....	4-40
廃インクタンクのインクを		ドロップパターンを作図する.....	4-41
処分する.....	4-18		
ワイパタンクのインクを処分する .	4-19		

日常のお手入れ

本装置の精度を保ちながら未永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

長期間使用しない場合は



- 必ず装置左側面にある主電源スイッチを切ってください。(参照 P.2-14)
- セットしてあるメディアを取り除いてください。

● 長期間使用しなかった場合の復旧作業

3～4日使用しなかった場合(ホワイトインクを使用)	サブタンクメンテナンスを実施してください。
1週間程度使用しなかった場合	インク経路からインクを排出してください。
2週間程度使用しなかった場合	インク経路の洗浄を行ってください。

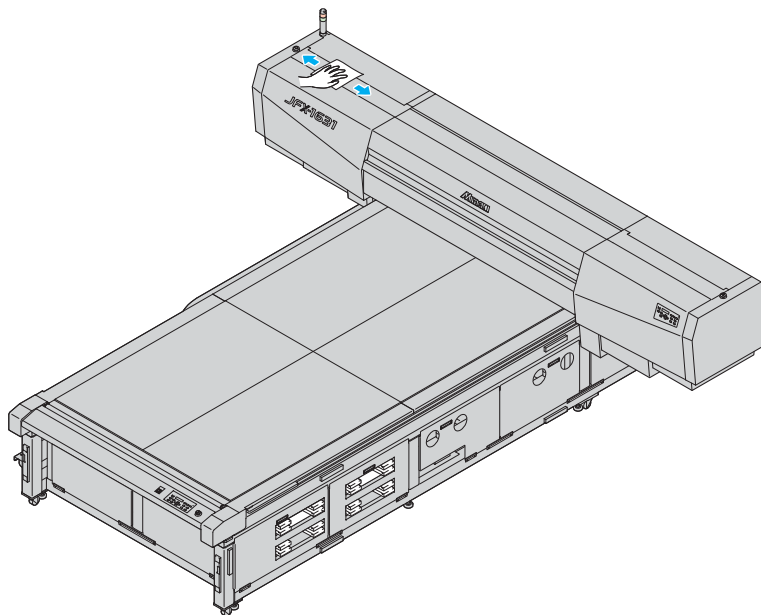
お手入れ上のご注意



- 本装置は、絶対に分解しないでください。感電および破損する原因になります。
- 本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。
- お手入れは、主電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。
- UV LED 装置の温度が完全に下がってから、お手入れを行ってください。火傷をする危険性があります。
- ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
- 本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。プリンタ内部が故障する恐れがあります。

テーブル、外装のお手入れ

本体の外装が汚れた場合は、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませ、強くしぼってから拭き取ってください。テーブル上のホコリも清掃してください。



インクカートリッジについて

インクカートリッジは、1 供給系 (2 ノズル列) あたり、2 本のカートリッジを使用し、合計 16 本搭載されます。供給カートリッジは 1 供給系につき常に 1 本のみです。トグル切り替えによって交互にカートリッジを使用します。

新しいインクパックに交換する

インクの残りが少なくなったり無くなると、ディスプレイとインクスロット左側にあるカートリッジランプでお知らせします。このときは、インクカートリッジ内のインクパックを交換してください。

ディスプレイ表示	ランプの状態 ^{*1}	概要
[インクニアエンド] を表示	緑 / 赤交互点灯 または 赤点滅	インクカートリッジ内のインク残量が少なくなってる ・続けて作図できますが、作図中にインクがなくなる場合があります。早めにインクカートリッジの交換をすることをお勧めします。
[インクエンド] を表示	赤点灯	インクカートリッジ内のインクがなくなった ・速やかに新しいインクカートリッジと交換してください。

*1. ランプの状態について、詳しくは次ページ「ランプの状態について」をご参照ください。

インクパックを交換する

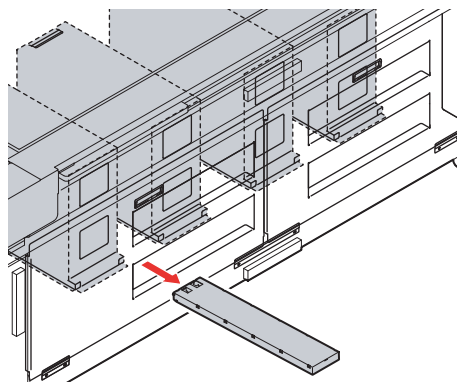
インクパックを交換する時は、インクパック押し板を一緒にセットしてください。インクパック押し板をセットすると、インクパック内のインクを最後まで無駄なく使用することができます。

重要!

- ・インクパックを交換する時は、インクパック押し板を落とさないようにしてください。落下して体の一部に当たると、怪我をする場合があります。
- ・使用済みのインクパック押し板を捨てないでください。インクパック交換時に、繰り返しご使用になれます。

1

交換するインクカートリッジを引き抜く



2

カートリッジに添付しているラベルを参照して、使用済みのインクパックを取り外す

3

新しいインクパックをセットする

- カートリッジ上蓋の内側に添付しているラベルを参照してセットしてください。



4

インクパック押し板をセットする

- (1) A 部分を持ち、インクパック押し板をカートリッジの後側(インクパック口栓の反対側)に突き当てる
- (2) ゆっくりと降ろす



5

カートリッジのフタをする

- 全ての爪をはめ込んでください。



重要!

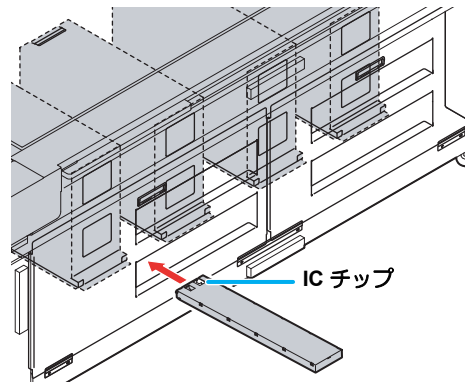
- フタが一部浮くことがありますが、性能に支障はありません。



6

新しいインクをセットする

- 図のように、IC チップがあるほうを上にしてセットします。



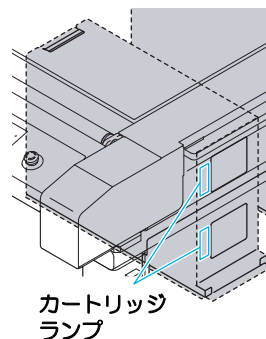
4

お手入れ

ランプの状態について

インクスロット左側にあるカートリッジランプでインクの状態が確認できます。

ランプ	概要
緑点灯	現在使用中のカートリッジ内に、インクが残っていることをお知らせします。
赤点灯	次のいずれかの状態です。 カートリッジがセットされていない / インクが無くなっている / その他のエラーが発生した
赤点滅	現在未使用のカートリッジ内のインクが残り少なくなっている状態です。
緑 / 赤交互点灯	現在使用中のカートリッジ内のインクが残り少なくなっている状態です。
消灯	現在未使用のカートリッジ内にインクが残っていることをお知らせします。



使用できないカートリッジ (赤点灯)

次のエラーが発生しているカートリッジは、使用することができません。

ヒジューンセイ	インク IC エラー	インクタイプ
インクカラー	インク キゲンギレ	インクパック カクニン

重要! 【インクパック カクニン】について

- ・ニアエンド状態でインクの供給に失敗すると、[インクパック カクニン]メッセージを表示します。このときは、次の操作をしてください。それまではそのカートリッジは使用できません。
 - (1) インクパックにインクがあること確認する
 - (2) インクがある場合、カートリッジを振る (P.4-7)
 - (3) カートリッジを再挿入する
 - (4) **ENTER** キーを押す

カートリッジの切り替え条件

供給カートリッジの切り替えは、以下の条件で発生します。

● 作図中、またはクリーニングおよび充填実行後

- ・ [インクエンド] が発生した場合
- ・ [インクパックカクニン] が発生した場合
- ・ [ニアエンド] でさらにインク残量が少なくなった場合

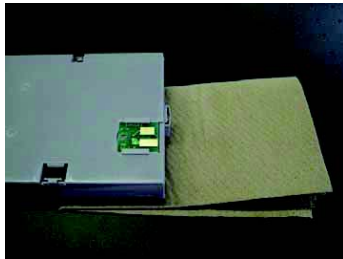
● カートリッジが抜かれた、または挿入された場合

重要!

- ・ 以下の順番で条件を比較して、使用するカートリッジを決定します。
 - (1) 消費期限が古いカートリッジ
 - (2) インクの残量が少ないカートリッジ
- ・ 作図中の切り替え時に「ニアエンド後に 30cc 以上インクを使用したカートリッジ」があった場合には、残量が多いカートリッジが選択されます。

インクカートリッジの振り方

1 インクカートリッジの先端を紙タオルなどで押さえる



先端に紙タオルを巻き付ける



紙タオルの両端をテープで固定する

2 インクカートリッジを 20 回程度ゆっくりと左右に振る

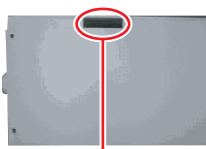
- 振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでカートリッジ上面の A 部とカートリッジ底面の B 部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを流すように左右に 20 回以上振ります。



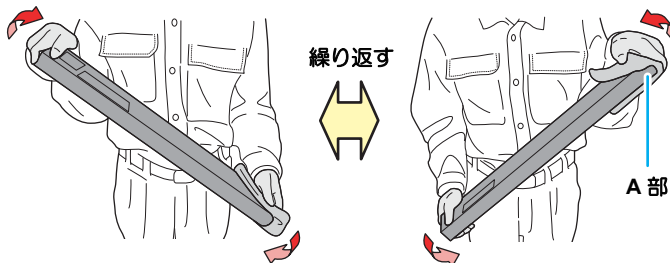
- 強く振りすぎると内部のパックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。



A 部（針の差し口）



B 部（底面の隙間）



紙タオルでしっかりと押さえてゆっくり振る

4

お手入れ

カートリッジ異常が発生したら

インクカートリッジに異常が発生したら、ディスプレイにメッセージを表示します。作図、クリーニング等、インク吐出に関する動作は全てできなくなります。速やかに新しいインクカートリッジに交換してください。

重要!

- ・カートリッジ異常を表示したまま長時間放置しないでください。ノズル詰まりの原因になります。ノズルが詰まった場合、サービスマンによる修理が必要になります。

1

カートリッジ異常の詳細を表示する

- ・カートリッジ異常の内容を確認することができます。P.5-6「メッセージを表示するトラブル」を参照して、エラーを取り除いてください。

<ローカル> インク カラー
MMMMCCCCYYYYKKKK

2

ローカルモードで、**ENTER** キーを押す

<ローカル> インク タイプ
MMMMCCCCYYYYKKKK

3

ENTER キーを押す

- ・インクカートリッジに異常がなければローカルモードに戻ります。
- ・複数のカートリッジ異常が発生している場合、再度 **ENTER** キーを押すと表示されます。
- ・ **ENTER** キーを押し、すべてのカートリッジ異常の表示が終わると、ローカルモードに戻ります。

<ローカル> カートリッジ ナシ
MMMMCCCCYYYYKKKK

<ローカル> インク ニアエンド
MMMMCCCCYYYYKKKK

<ローカル> インク エント
MMMMCCCCYYYYKKKK

<ローカル> インク キゲンギレ
MMMMCCCCYYYYKKKK

ワーニングと動作の関係

1 供給系内で切り替えが不可能な場合、現在の供給カートリッジについて発生しているワーニングを表示します。

ローカル/リモートのワーニング表示 (カートリッジ単位の状態)			クリーニング	充填	作図
インク ニアエンド			○(可能)	○(可能)	○(可能)
インク エンド	カートリッジ ナシ	ヒジュンセイ	×(不可)	×(不可)	×(不可)
インク IC エラー	インク タイプ	インク カラー			
インク キゲンギレ					

作図中のインク滴のボタ落ちを防ぐ

ヘッドガードプレートのクリーニング

キャリッジ下面には、作図中のミストによるインク滴が発生することがあります。インク滴のボタ落ちによりメディアが汚れたり、作図不良の原因となりますので、頻繁にキャリッジ下面を清掃してください。

クリーニングに必要なもの	・メンテナンス用洗浄液 (SPC-0568)
	・清掃棒 (SPC-0384) ・手袋



・指定以外の部品を外さないでください。

1

電源を入れる

・初期動作後、ローカルモードになります。

2

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビュー <ENT>

3

▲ **▼** を押して [メンテナンス] を選ぶ

FUNCTION
メンテナンス <ENT>

4

ENTER キーを押す

メンテナンス
ステーション メンテ <ent>

5

ENTER キーを押す

・キャリッジが待機位置から左側の正面左カバー付近へ、自動的に移動します。

ステーション メンテ
メンテ : キャリッジ アウト

6

ENTER キーを押す

・清掃がしやすい位置まで、キャリッジが下がります。
・移動が完了すると、手動でキャリッジの移動ができるようになります。

4

お手入れ

7

メンテナンスカバーを開ける

- メンテナンスカバーは、正面左カバーの下にあります。
- メンテナンスカバーのツマミネジ(2箇所)を取り外して、カバーを開けてください。



- メンテナンスカバーを開けるときは、カバーを手で押さえながら開けてください。カバーが落下して、ケガの原因になります。



8

清掃棒に洗浄液をしみこませ、ヘッドの側面を清掃する

- ヘッドのノズル面は拭かないでください。ノズル詰まりの原因となります。
- 専用の清掃棒をお求めの際は、販売店または弊社営業所までお問い合わせください。



9

清掃が終了したら、**ENTER** キーを押す

- 初期動作を実行します。

10

終了するとき、**END** キーを数回押す

自動的にノズル面の清掃をする

定期ワイピングの設定

設定した回数の印刷が終了すると、自動的にヘッドのノズル面の清掃を行い、ノズル面に付着したインク滴を取り除きます。

1

メンテナンスメニューの“定期メンテナンスモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[テイキメンテナンス] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押して [ワイピング] を選ぶ

テイキ メンテナンス
ワイピング <ENT>

3

ENTER キーを押す

テイキ ワイピング*
プリント カイスイ = 10

4

▲ **▼** を押してプリント回数
(OFF、1~100) を設定する

テイキ ワイピング*
プリント カイスイ = 15

・“OFF” にすると、定期ワイピングを行いません。

5

ENTER キーを押す

テイキ ワイピング*
[MM]MMCCCCYYYYK K K K K]

6

ヘッドを選び、ワイピングする / しないを設定する

テイキ ワイピング*
[MMMMCCCCYY]YYK K K K K]

- (1) **◀** **▶** でヘッドを選ぶ
- (2) **▲** **▼** でワイピングする / しないを選ぶ
・全てのヘッドに対して、ワイピングの実行を選択してください。
ワイピングする : セットされているインクカートリッジの色を表示
ワイピングしない : “-” を表示

テイキ ワイピング*
[MMMMCCCCYY]-K K K K K]

7

ENTER キーを押す

テイキ メンテナンス
ワイピング <ENT>

8

終了するとき、**END** キーを数回押す

4

お
手
入
れ

定期クリーニングの設定

設定した回数の印刷が終了すると、自動的にヘッドクリーニングを行います。

1

メンテナンスメニューの“定期メンテナンスモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、 [テキメンテナンス] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押して [クリーニング] を選び、**ENTER** キーを押す

テキ キーニング*
タイプ° : ノーマル

3

▲ **▼** を押してクリーニングタイプを設定する

テキ キーニング*
タイプ° : ハート°

• 設定値：ノーマル、ハード

4

ENTER キーを押す

テキ キーニング*
プリント カイスウ = 10

5

▲ **▼** を押してプリント回数 (OFF、1~100) を設定する

テキ キーニング*
プリント カイスウ = 15

• “OFF” にすると、定期クリーニングを行いません。

6

ENTER キーを押す

テキ キーニング*
[MM]MMCCCCYYYYK KKKK]

7

ヘッドを選び、クリーニングする / しないを設定する

テキ キーニング*
[MMMCCCCYYYY]K KKKK]

- (1) **◀** **▶** でヘッドを選ぶ
- (2) **▲** **▼** でクリーニングする / しないを選ぶ
 - 全てのヘッドに対して、クリーニングの実行を選択してください。
 - クリーニングする : セットされているインクカートリッジの色を表示
 - クリーニングしない : “-” を表示

テキ キーニング*
[MMMCCCCYY-]K KKKK]

8

ENTER キーを押す

• 設定を終了するとき、**END** キーを数回押します。

ワイパのクリーニング

ワイパは、ヘッドのノズル面に付着したインクを拭き取ります。本装置を使用しているとインクやホコリ等でワイパが汚れてきます。ヘッドの状態を良好に保つために、ワイパは頻繁に清掃してください。

重要!

- ワイパは、消耗品です。ワイパの清掃後にヘッドクリーニングを繰り返しても作図状態が改善されない場合は、付属の交換用ワイパと交換してください。
(交換用ワイパ：SPC-0515 [30ヶ入])



- 交換をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。
- 指定以外の部品を外さないでください。

1

電源を入れる

2

右メンテナンスカバーを開ける

- ネジ (2箇所) を外し、右メンテナンスカバーを開けます。



3

メンテナンスメニューの“ステーションメンテ”を選ぶ

- ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- ▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- ▲** **▼** を押して、[ステーションメンテ] を選ぶ
- ENTER** キーを押す

4

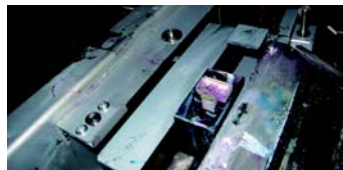
▲ **▼** を押して [ワイパコウカン] を選ぶ

ステーション メンテ
メンテ : ワイパ^o コウカン

5

ENTER キーを押す

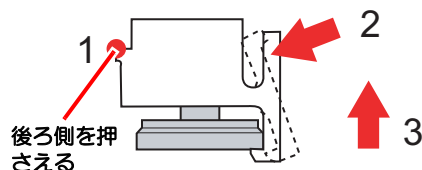
- キャリッジが正面左カバー付近へ移動します。
- ワイパが手前に移動します。



6

吸引ノズル Assy を取り外す

- 吸引ノズル Assy の後ろ側を押さえ
- 手前の突起を後ろに押し込みながら
- 上に引き上げる



4

お手入れ

7

ピンセットでワイパ M を取り外す



ワイパ M

8

ワイパ M に洗浄液を数滴たらし、不織布で清掃する

- 紙タオルなど、ホコリや繊維が残ってしまうものは使用しないでください。
- ワイパ M に著しい変形や摩耗が見られる場合は、新しいものに交換してください。

**9**

吸引ノズルの内側を確認し、汚れている場合は清掃する

- (1) 硬化したインクや付着している汚れを、先の細い棒で取り除く
- (2) スポイトを使って吸引ノズルの内側に洗浄液を数滴たらし、不織布で清掃する

**10**

吸引ノズル下の O リング周辺を確認し、汚れている場合は清掃する

- O リング周辺には、未硬化のインクが付着しています。不織布で清掃してください。

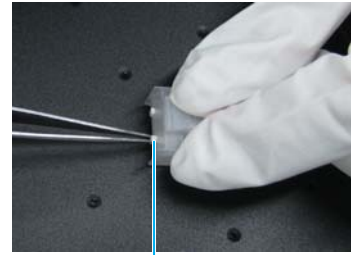
**11**

ピンセットで O リングを取り外し、清掃する



12 ワイパ M を吸引ノズルに取り付ける

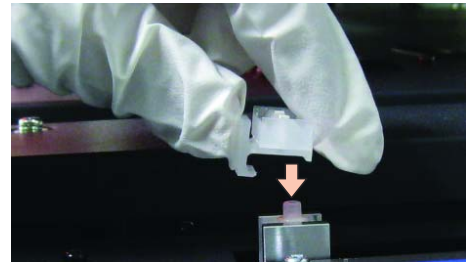
- ・ワイパ M と吸引ノズルの高さが合うようにしてください。



ワイパ M

13 吸引ノズル Assy を吸引ノズル下に強く押しつけるようにして取り付ける

- ・取り付け後は、ワイパ M が 0.5mm 程度上にはみ出します。

**14** 清掃が終了したら、**ENTER** キーを押す

- ・初期動作を実行します。

15 終了するとき、**END** キーを数回押す

サブタンクメンテナンスをする

サブタンク関連のエラー（参照 P.5-7「エラーメッセージ」）が発生した場合、またはクリーニングでノズル詰まりが解消しない場合に、実行してください。

1

メンテナンスメニューの“サブタンクメンテナンスモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[サブタンクメンテナンス] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** **◀** **▶** を押してサブタンクメンテナンスの設定をする

サブタンク メンテナンス
[YYMM**C**KK KKCCMMYY]

- (1) **◀** **▶** でヘッドを選ぶ
- (2) **▲** **▼** でサブタンクメンテナンスする / しないを選ぶ
 - 全てのヘッドに対して、インクの充填を選択してください。
 - **充填する** : セットされているインクカートリッジを表示
 - **充填しない** : “*” を表示

サブタンク メンテナンス
[YYMM**C***KK KKCCMMYY]

3

ENTER キーを押す

サブタンク メンテナンス
シッコウ :ent

4

ENTER キーを押す

- サブタンクメンテナンスを開始します。

シッコウ チュウ
シハラク オマチクタサイ






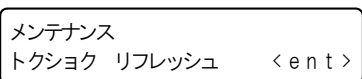













- 作図中に発生したサブタンク関連のエラーを解消したい場合には、**CLEANING** キーを押して“サブタンクメンテナンス”を選択してください。ここで行うサブタンクメンテナンスと同等の効果が得られます。

特色インクのノズル詰まりを防止する

本装置は、ヘッドのノズル詰まりが発生しないように電源オンの状態でリフレッシュを行っていますが、白インクは他の色のインクと特性が異なるため、通常のリフレッシュでもノズル抜けが発生する場合があります。

白インクが充填されているヘッドのリフレッシュ動作を白インクに適したリフレッシュ動作に変更することで、ノズル抜けを防ぎます。

- 1** ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
 FUNCTION
ヒュー <ENT>
- 2**   を押して [メンテナンス] を選ぶ
 FUNCTION
メンテナンス <ENT>
- 3** **ENTER** キーを押す
 メンテナンス
ステーション メンテ <ent>
- 4**   を押して [トクショクリフレッシュ] を選ぶ
 メンテナンス
トクшок リフレッシュ <ent>
- 5** **ENTER** キーを押す
 トクшок リフレッシュ
[YYMMCKK KKCCMMYY]
- 6**     を押して特色リフレッシュの設定をする
 トクшок リフレッシュ
[YYMMC \blacksquare KK KKCCMMYY]
 トクшок リフレッシュ
[YYMMC \blacksquare *KK KKCCMMYY]
 - (1)   でヘッドを選ぶ
 - (2)   で特色リフレッシュする / しないを選ぶ
 - ・リフレッシュ動作を行う : セットされているインクカートリッジを表示
 - ・リフレッシュ動作を行わない : “*” を表示
- 7** **ENTER** キーを押す
- 8** 終了するとき、**END** キーを数回押す



- ・手順6で特色リフレッシュの実行を選択したヘッドについては、セッテイ機能の「リフレッシュ - タイキチュウ」で設定したリフレッシュ動作の代わりに、ここで設定した条件でリフレッシュ動作を行います。

廃インクが溜まったら

ヘッドクリーニングやフラッシングなどで使用したインクは、廃インクトレイに溜まります。廃インクトレイが一杯になると、ディスプレイにエラーを表示してお知らせします。エラーが表示されたら、次の手順で廃インクを廃インクタンクに移してください。

- 廃インクがトレイに一杯になると、右のエラーを表示します。

ERROR 604
!ハイインク FULL

廃インクタンクのインクを処分する

- 1 廃インクタンクを取り付ける



- 2 コックを回す

- ・廃インクトレイに溜まった廃インクが、廃インクタンクに移動します。



- 3 ディスプレイのエラー表示が消えたら、廃インクタンクを取り外す

- 4 廃インクを別のポリエチレンタンクに移す

- ・下に紙を敷いてから廃インクを移してください。（インクで床を汚さないように）
- ・廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。



- ・予備の廃インクタンクをお求めの場合は、お近くの販売店または弊社営業所までお問い合わせください。
- ・廃インクを移すポリエチレンタンクをご用意ください。



- ・ヘッドクリーニング中などのインク排出中の場合は、排出が終了してから作業を行ってください。
- ・廃インクタンクを取り扱うときは、タンクの口をティッシュで押さえるなどして、廃インクが飛ばないようにご注意ください。

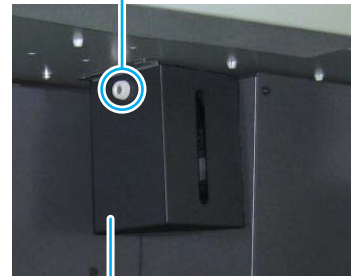
ワイパタンクのインクを処分する

1

ワイパタンクカバーを開ける

- (1) ワイパタンクカバーを止めているツマミネジを外す
- (2) カバーを取り外す

ツマミネジ



カバー

2

ワイパタンクを外し、 廃インクを廃棄する

- ・ 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。



3

ワイパタンクを戻し、ワイパタンクカバーを取り付ける



- ・ 指定以外の部品を外さないでください。

4

お手入れ

白インク (ホワイト) の定期メンテナンス

白インク (ホワイト) は他のインクに比べて沈殿しやすい性質があります。

- 本機を 1 週間以上使用しない場合、本機の内部またはカートリッジ内部で沈殿してしまう場合があります。
- インクが沈殿すると、作図時にノズル詰まりを発生し、正常な作図ができなくなります。
- 作図時のノズル詰まりの防止と白インクの状態を良好に保つため、下記の定期的メンテナンスを行ってください。



- 一週間に一度必ず以下のメンテナンスをしてください。
- インクカートリッジは、弊社推奨のものをご使用ください。

1

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビュール <ENT>

2

▲ **▼** を押して [メンテナンス] を
選び、**ENTER** キーを押す

メンテナンス
ステーション メンテ <ent>

3

▲ **▼** を押して [ホワイトメンテナ
ス] を選び、**ENTER** キーを押す

ホワイト メンテナンス
[----- WWW-----]

4

ヘッドごとにホワイトメンテナンスする/し
ないを選び、**ENTER** キーを押す

ホワイト メンテナンス
[----- WW**-----]

(1) **◀** **▶** でヘッドを選ぶ

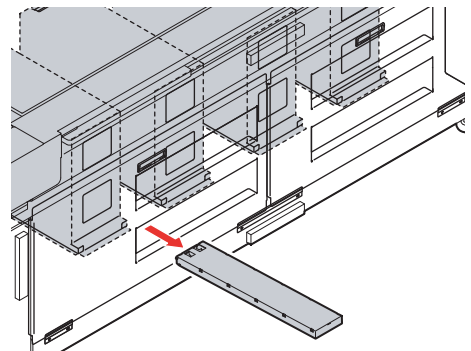
(2) **▲** **▼** でホワイトメンテナンスする/しないを選ぶ

• メンテナンス“しない”を選ぶと、ディスプレイに“*”マークを表示します。

5

白インクカートリッジをインクステーシ
ョンから抜く

ホワイト メンテナンス
カートリッジラ ハスス



6

ENTER キーを押す

- 白インクの排出作業を行います。

ハイシュツチュウ
シハラク オマチクダサイ

7 白インクカートリッジを20回程度ゆっくりと左右に振る

- 振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでカートリッジ上面のA部とカートリッジ底面のB部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを流すように左右に20回以上振ります。



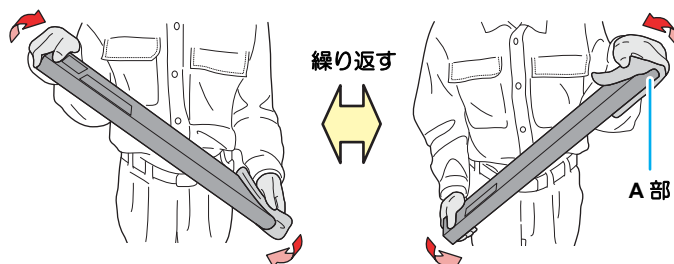
- 強く振りすぎると内部のパックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。



A部 (針の差し口)



B部 (底面の隙間)

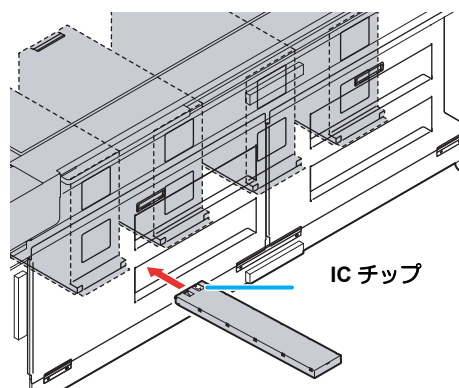


紙タオルでしっかりと押さえてゆっくり振る

8 次の画面が表示されたら、白インクカートリッジをインクステーションに戻す

- 図のように、ICチップがあるほうを上にしてセットします。

ホワイトメンテナンス
カートリッジヲ セット



ICチップ

9 **ENTER** キーを押す

- インク充填を開始します。
- 白インク充填終了後に、右記表示になります。

** シュウテンチュウ **
シハラク オマチクタサイ

メンテナンス
ホワイト メンテナンス <ent>

10 終了するとき、**END** キーを数回押す

冷却ファンフィルタを交換する

冷却ファンフィルタは、定期的に交換してください。(1ヶ月に1回程度)



- 交換をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。
- 指定以外の部品を外さないでください。

交換に必要なもの

•手袋

•ゴーグル


•プラスドライバー

•フィルタ *1

*1. 添付のフィルタは、40枚入りです。

フィルタ(品番: SPC-0595)のご購入は販売店または弊社営業所にお申し付けください。

1

を押して、Yバーを手前に移動する

2

本体左側面の主電源スイッチを切る

3

Yバー左右の正面カバーを取り外し、フロントカバーを開ける

- 正面カバーについているネジ(各4個)を外し、カバーを取り外します。



- 冷却ファンは、下図の○印を付けている箇所にあります(6箇所)。冷却ファンフィルタを交換するときは、全てのフィルタを交換してください。

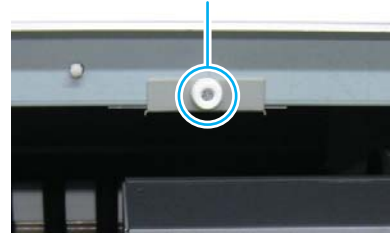


4

フィルタ押さえを取り外す

- ツマミネジを外し、フィルタ押さえを取り外します。

ツマミネジ



5

フィルタを交換する

- 新しいフィルタを用意し、交換します。

6

フィルタ押さえを元の状態に戻す

- 全ての冷却ファンに対して、手順4～6の操作をしてください。

7

フロントカバーを閉じ、Yバー左右の正面カバーを取り付ける

4

お手入れ

ミスト吸引フィルタを交換する

ミスト吸引フィルタは、定期的に交換してください。(1ヶ月に1回程度)



- 交換をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。
- 指定以外の部品を外さないでください。

交換に必要なもの

•手袋

•ゴーグル

•プラスドライバー

•フィルタ *1

*1. 添付のフィルタは、40枚入りです。

フィルタ (品番: SPC-0595) のご購入は販売店または弊社営業所にお申し付けください。

1

メンテナンスメニューの“ステーションメンテ”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[ステーションメンテ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを2回押す

2

右メンテナンスカバーを開ける

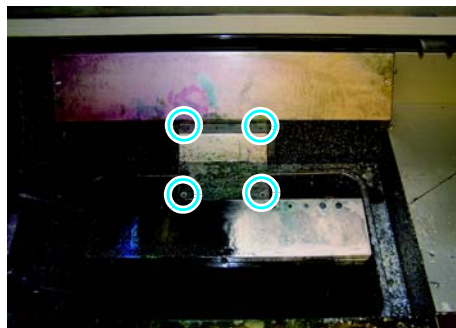
- 右メンテナンスカバーについているネジ(2箇所)を外し、カバーを開けます。



3

フタを取り外す

- フタのネジ(4箇所)を外してフタをあけます。



4

フィルタ押さえを取り外す

- フィルタ押さえのネジを外して、取り外します。



5

フィルタを交換する

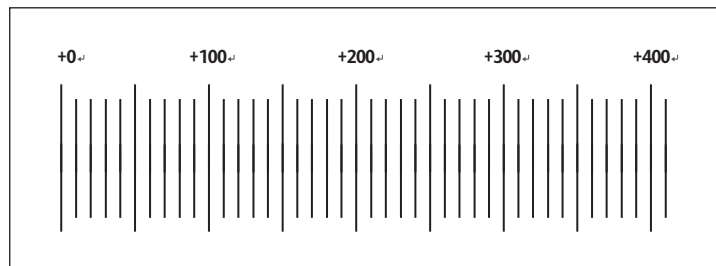
- 交換が終わったら、フィルタ押さえとフタを取り付け、右メンテナンスカバーを閉めてください。



ドットの位置がずれたら

ご使用になるメディアの厚みやヘッドの高さ、作図するデータのドットサイズが変わったときは、次の操作をして双方向 (Bi) 作図時のインクの落下位置を補正し、適正な作図結果を得られるようにしてください。

パターン作図例



1 メディアをセットし、作図原点を設定する

- パターン作図をするには最低でも 100×300 mm の大きさのメディアが必要です。

2 メンテナンスメニューの“ドットイチホセイモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、 [ドットイチホセイ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

3 **▲** **▼** を押して作図時の解像度を選び、**ENTER** キーを押す

- 設定値 : 300,450, 600,1200 DPI

ドットイチホセイ
DPI : 300

4 **▲** **▼** を押してパターン作図のスピードを選び、**ENTER** キーを押す

- 設定値 : ノーマル, コウソク

ドットイチホセイ
モード : コウソク

5 **▲** **▼** を押してドットサイズを選び、**ENTER** キーを押す

- オンライン印刷で作図するデータの、Large のドットサイズを指定します。
- 設定値 : Large1 ~ 12

ドットイチホセイ
ドットサイズ Large : 4

6

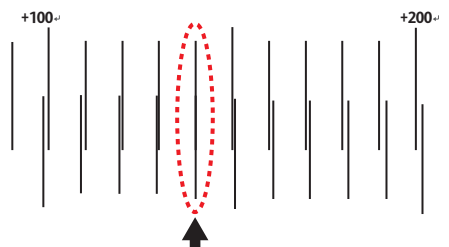
ENTER キーを押す

- パターン作図を開始します。

7

作図したパターンが1本の直線になっている位置を確認する

- 右図の場合、+140で直線になっていることが分かります。



8

▲ ▼ を押して補正する

- 設定値 : 0 ~ 400
 - 0 ~ 400 の間に直線になっているパターンがない場合
- (1) 再度、ヘッドギャップの確認 (P.3-6) をする
 - (2) 手順 1 からの操作をする

ドットイテホセイ	
300dpi / ノーマル / 4 :	0

9

ENTER キーを押す

- 終了するとき、**END** キーを数回押します。

ドットイテホセイ
DPI : 300

4

お
手
入
れ

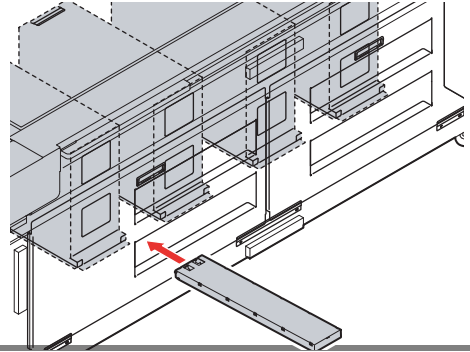
画質不良が解消されない場合は

ヘッドクリーニングを繰り返しても作図不良が改善されない場合は、インクの充填を行ってください。

インクの充填を行う

1 インクステーションにインクカートリッジを差し込む

- ・インクカートリッジは確実にセットしてください。



2 ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビュウ <ENT>

3 **▲▼** を押して、**[メンテナンス]** を選択する

FUNCTION
メンテナンス <ENT>

4 **ENTER** キーを押す

メンテナンス
ステーション メンテ <ent>

5 **▲▼** を押して、**[インクジュウテン]** を選択する

メンテナンス
インクシ ュウテン <ent>

6 **ENTER** キーを押す





インクシ ュウテン
サブタンク シ ュウテン <ent>

7 **ENTER** キーを押す

サブタンク シ ュウテン
M MMMCCCCYYYYKKKK

8


ヘッドごとに、インクの充填を選ぶ

- (1)   でカーソルを移動させる
 (2)   でインクの充填を選ぶ
- 全てのヘッドに対して、インクの充填を選択してください。
 - 充填する : セットされているインクカートリッジを表示
 - 充填しない : “*” を表示

```
サブタンク シュウテン
MMMMCCCCYYYYYKKKK
```


```
サブタンク シュウテン
MMMMCCCC*YYYYKKKK
```


9

 キーを押す

```
サブタンク シュウテン
シュウテン カイシ      :ent
```

10


 キーを押す

- インク充填を開始します。
- インク充填が終了すると、右の画面を表示します。 キーを数回押すと、ローカルモードに戻ります。

```
シュウテン チュウ
*-----
```

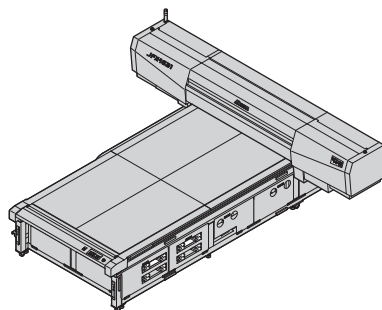
```
インクシュウテン
サブタンク シュウテン <ent>
```



- インクを交換する場合は、 P.4-4 をご覧ください。

温水装置の水を交換する

インクの状態を適温に保つため、温水装置を稼働させます。温水装置内の温水タンクに、不凍液と水をいれます。1ヶ月に一回、必ず確認してください。また、1年に一回、交換してください。



交換に関する注意



- 水のつぎたしはできません。
- 水と不凍液の混合液の割合は、水 2 に対して不凍液 1 にしてください。
- 不凍液を入れず、水だけを温水タンクに入れた場合は、凍結などによりヘッドが故障する原因になります。
- 水を入れず、不凍液だけを温水タンクに入れた場合、温水の温度が上がらず、エラーになることがあります。
- 温水装置に必要な水量、温水タンク内の汚れを確認するために 1ヶ月に一回、温水装置の確認をしてください。
- 温水タンクの水不足が頻繁に起きる場合は、販売店または弊社営業所までサービスコールしてください。
- 不凍液と混ぜた水は、使用している地域の条例に従って処分してください。



不凍液の取り扱い上のご注意



- 不凍液を取り扱う場合は、必ず付属のゴーグルおよび手袋を着用してください。



- 不凍液は、弊社専用の不凍液をご使用ください。温水装置が故障する恐れがあります。(交換用不凍液：SPC-0394 [1000cc X 2 本])
- 不凍液には直接ふれないようにしてください。誤って不凍液を付けてしまったときは、石けんを使って、すぐに流水で洗い落としてください。万一、不凍液が目に入ったときは、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- 不凍液は冷暗所で保存してください。
- 不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 不用となった不凍液は、産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託してください。
- 不凍液をご使用前に、必ず製品安全性データシート (MSDS) をお読みください。



- 予備の温水タンクをお求めの場合は、お近くの販売店または弊社営業所までお問い合わせください。
- 廃温水タンク水を移すポリエチレンタンクをご用意ください。
- 温水タンクの水が不足すると、次のエラーを表示します。エラーを表示した場合は、下記の手順と同様に、水を交換してください。

ERROR 705
ミス*フソク

不凍液混合水の交換方法

不凍液混合水の交換方法には、次の2通りの方法があります。

<p>メンテナンスメニューの温水交換モードを使って交換する (P.4-34 ページ下部)</p>	<p>配管内部の不凍液混合水も完全に排出できます。また、温水装置が完全に冷却してから作業できるので安全です。 ただし、温水装置の冷却に20～30分の時間がかかります。</p>
<p>電源がOFFにし、青色のソケットを外してから交換する (P.4-34)</p>	<p>温水の冷却時間がないため、短時間で交換作業ができますが、配管内部の不凍液混合水は交換できません。 また、本装置に電源がしばらくの間入っていた場合、電源をOFFにしても、すぐに温水タンクの温度は下がりません。 温水タンクが高温になっていると、火傷の危険があります。</p>



- 指定以外の部品を外さないでください。

温水交換モードを使って交換する

1

メンテナンスメニューの“温水交換モード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[オンスイコウカン] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

- 自動的に Y バーが装置前方に移動します。

2

ENTER キーを押す

- 不凍液の冷却を始めます。
- 冷却には、20～30分の時間がかかります。

オンスイコウカン
レイキヤク チュウ

3

[オンスイハイキ] が表示されたら、

ENTER キーを押す

オンスイコウカン
オンスイ ハイキ : ent

4

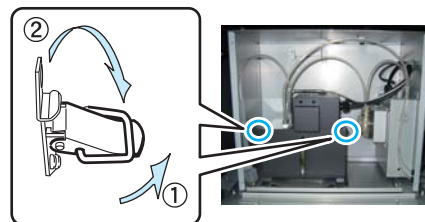
本体左側奥の側面カバーを取り外す



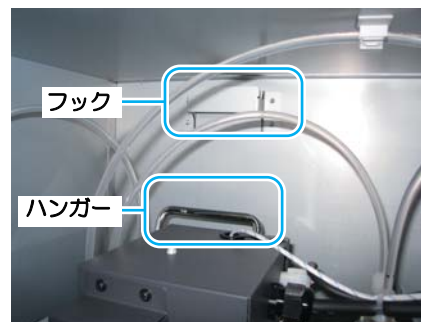
4

お
手
入
れ

5 キャッチクリップを外す



6 温水装置を持ち上げ、ハンガーをフックにかける



7 温水タンクを取り出す

- 残っている不凍液を別のポリエチレンタンクに移します。
- 不凍液をこぼさないようにご注意ください。こぼれてしまったときは、すぐに拭き取ってください。



8 空のタンクを装置にセットし、温水装置とキャッチクリップを元の状態に戻す

9 **ENTER** キーを押す

- 装置内に残っている不凍液の排出を開始します。
- 排出が完了すると、右の表示になります。

オンスイコウカン
タンク セット : ent

オンスイコウカン
オンスイ ハイキ : ent

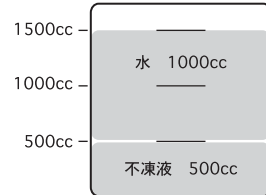
10 再度、温水タンクを取り出す

- 手順 5～6 を参照して、取り出してください。

11 タンクの中の不凍液を手順 3 で使ったポリエチレンタンクに入れ、温水タンクを洗浄する

・中性洗剤でタンクを洗った場合は、よく水でタンクをゆすいでください。

12 温水タンクに新しい不凍液と水を入れる



13 温水タンクを元の状態に戻す

- (1) 温水タンクを装置に取り付ける
- (2) 温水装置カバーをかぶせる
- (3) クリップをセットする
- (4) 左側面奥のカバーを取り付ける

14 **ENTER** キーを押す

オンスイコウカン
フトウエキ セット : ent

15 終了するとき、**END** キーを数回押す



・不凍液に関するご注意

水と不凍液の混合液の割合は、水 2 に対して不凍液 1 にしてください。不凍液の割合が大きくなると、温水ポンプが故障を起こしたり、温水制御に関するエラーが発生します。

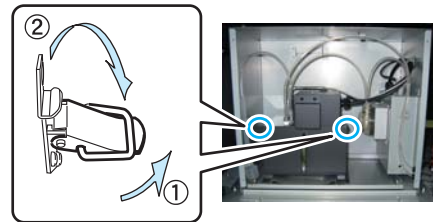
電源が OFF になっているときに交換する

- 1** 電源が OFF になっていることを確認し、青色の電源ソケットを取り外す

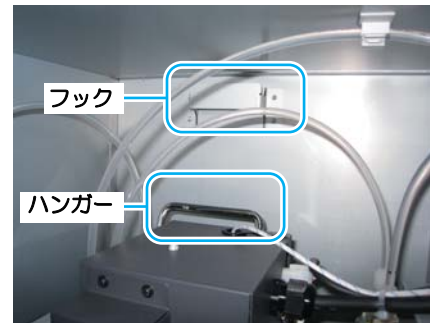


- 2** 本体左側奥の側面カバーを取り外す

- 3** キャッチクリップをははずす



- 4** 温水装置を持ち上げ、ハンガーをフックにかける



- 5** 温水タンクを取り出す

- 残っている不凍液を別のポリエチレンタンクに移します。
- 不凍液をこぼさないようご注意ください。こぼれてしまったときは、すぐに拭き取ってください。



- 6** 空のタンクを装置にセットし、温水装置とキャッチクリップを元の状態に戻す

UV LED 装置のフィルタを交換する

本装置を末永くご利用いただくために、定期的（2週間に1回程度）にUV LED装置のフィルタの交換を行ってください。



- 交換をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。
- フィルタの清掃中にネジを落とすなどした場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。
- 指定以外の部品を外さないでください。

クリーニングに必要なもの	• アルコール	• 手袋	• 紙タオル
	• ゴーグル	• フィルタ *1	

*1. 添付のフィルタは、40枚入りです。
フィルタ（品番：SPC-0575）のご購入は販売店または弊社営業所にお申し付けください。

1 電源を OFF にする

2 本体背面の主電源スイッチを切る

3 右メンテナンスカバーを開ける

- ネジ（2箇所）を外して、カバーを開けます。



4 フィルタ押さえを取り外す

- フィルタ押さえの上にあるツマミネジを緩め、フィルタ押さえを取り外します。



フィルタ押さえ

フィルタ押さえ

• 写真は撮影のため、カバーを外していま

4

お手入れ

5 フィルタを交換する



6 フィルタ押さえを取り付ける

7 右メンテナンスカバーを閉じる

UV LED 装置の照射時間について

本装置は、UV LED の照射使用時間をカウントし、交換時期をお知らせします。
UV LED の交換は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

UV LED 装置の照射時間を確認する

1 ローカルモードで、
ENTER キーを数回押す

<ローカル>
ショウシャ シ`カン 600, 600

- UV LED 装置の照射時間は、左側に左側 LED の照射時間、右側に右側 LED の照射時間を表示します。
- **ENTER** キーを押すと、ローカルモードに戻ります。

UV LED 装置の照射時間をリセットする

UV LED 装置を交換後、本装置で記憶している照射時間をリセットします。

1 メンテナンスメニューの“UV LED モード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[UV LED] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2 **▲** **▼** を押し、
[ショウシャジカン] を選ぶ

UVランプ°
ショウシャ シ`カン <ent>

3 **ENTER** キーを押す

ショウシャ シ`カン
チャンネル : CH1

4 **▲** **▼** を押し、
初期化する UV LED を選ぶ

ショウシャ シ`カン
チャンネル : ALL

- 設定値：CH1、CH2、CH3、CH4、ALL（両方の UV LED の照射時間をリセットする）

5 **ENTER** キーを 2 回押す

UVランプ°
ショウシャ シ`カン <ent>

- 照射時間をリセットします。
- リセットが終わると、右の表示に戻ります。

6 終了するとき、**END** キーを数回押す

4

お
手
入
れ

UV 硬化が弱くなったときのチェック方法

UV LED の消耗にともない、インクの硬化が弱くなる場合があります。
硬化チェックをすることにより、インクの硬化度をチェックし、UV LED の光量を変更することができます。

1 テーブルに、作図パターン用としてメディアをセットする
・バキュームスイッチをオンにしてください。その後、作図原点を設定します。

2 ローカルモードになっているか確認する

3 **TEST** キーを押す

テスト サクス`
ノス`ルチェック <ENT>

4 **▲** **▼** を押し、[コウカチェック] を選ぶ

テスト サクス`
コウカチェック <ENT>

5 **ENTER** キーを押す

コウカチェック
DPI : 300X300

6 **▲** **▼** を押して、解像度を選ぶ

・設定値 : 600x300 dpi, 600x600 dpi, 600x1200 dpi,
1200x300 dpi, 1200x600 dpi,
1200x1200 dpi

コウカチェック
DPI : 1200X1200

7 **ENTER** キーを押す

コウカチェック
サクス`ヒンシツ: ヒョウシ`ユン

8 **▲** **▼** を押して、作図品質を選ぶ

・設定値 : ヒョウジュン、キレイ、ハヤイ

コウカチェック
サクス`ヒンシツ: キレイ

9 **ENTER** キーを押す

コウカチェック
スキャンホウコウ: ソウホウコウ

10 **▲** **▼** を押して、スキャン方向を選ぶ

・設定値 : ソウホウコウ、タンホウコウ

コウカチェック
スキャンホウコウ: タンホウコウ

11

ENTER キーを押す

- テスト作図を開始します。

** テスト サクス **

12

テスト作図終了後、作図パターンをチェックする

- UV 光量が弱くなっている場合は、良質な作図パターンは得られません。その場合は、P.4-39「UV 光量の変更」の操作をしてください。

重要!

- 手順 9 で、ヘッド温度の準備が完了していない場合、または温水装置の温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は作図できません。表示が消えると作図ができます。

UV 光量の変更

1

セットイメニューの“UV コウリョウモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [セットイ] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[UV コウリョウ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押し、光量を選ぶ

- 設定値：ツヨイ、ヨワイ、ヒョウジュン、ナシ、インサツナシ (光量は「ツヨイ」になる)

セットイ	
UV コウリョウ	: ヒョウシ ユン

3

ENTER キーを押す

セットイ	
UV コウリョウ	<ent>

4

終了するとき、**END** キーを数回押す

5

再度、UV 硬化をチェックする

- メディアをセットし、UV 光量の作図パターンを作成します。(☞ P.4-38)

重要!

UV 光量の度合いを変更しても変化がない場合は、UV LED が消耗しています。下記の方法で確認してください。

- UV LED の照射時間を確認する (☞ P.4-37)

4

お
手
入
れ

バキュームユニットの吸着 / 吹上げレベルを設定する

オプションバキュームユニットの吸着 / 吹上げレベルを設定します。

1 メンテナンスメニューの“インバータモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[インバータ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2 **▲** **▼** を押して吸着ボリュームを設定する

• 設定値：0 ~ 10

キューチャク ボリューム :	10
-------------------	----

3 **ENTER** キーを押す

4 **▲** **▼** を押して吹上げボリュームを設定する

• 設定値：0 ~ 10

フキタシ ボリューム :	10
-----------------	----

5 **ENTER** キーを押す

6 終了するとき、**END** キーを数回押す

ドロップパターンを作図する

使用するメディアに最適なドロップ数を決定するためのテストパターンを作図します。

1

メンテナンスメニューの“ドロップパターンモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[ドロップパターン] を選ぶ

2

ENTER キーを押す

ドロップパターン
カラー [KCMY]

3

ENTER キーを押す

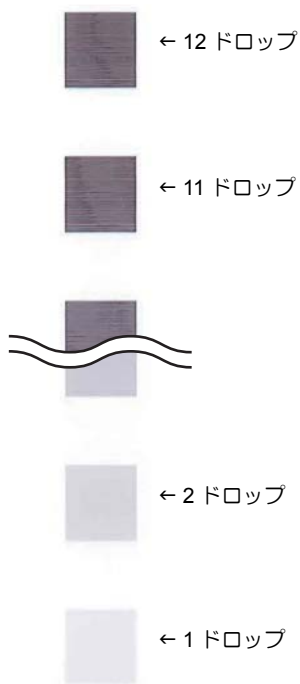
ドロップパターン
サックス カイシ

4

ENTER キーを押す

- ドロップパターンの作図を始めます。
- パターンを確認し、お使いのメディアに最も適したドロップ数を決定してください。
- RIP ソフトウェア RasterLink に作図時のドロップ数を設定するときは、ここで確認したドロップ数を目安として設定してください。

ドロップパターン
作図例



4

お手入れ

第5章 困ったときは



この章では ...

故障かな?と思ったときの対処方法や、ディスプレイに表示するエラー番号の解消方法などを説明をしています。

故障?と思う前に	5-2
電源が入らない	5-2
作図できない	5-2
ディスプレイにメッセージを表示する	5-2
作図不良が発生したときは	5-3
ノズル詰まりを解消したいとき	5-3
動作中に本装置を停止させたいとき	5-3
インクが残っているのに「インクニアエンド」 を表示する	5-4
メッセージを表示するトラブル	5-6
ワーニングメッセージ	5-6
エラーメッセージ	5-7

故障？と思う前に

故障？と思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

電源が入らない

電源が入らない場合の原因の多くは、電源やコンピュータのケーブル接続ミスによるものです。接続が適正かもう一度確認してください。

電源ケーブルを本装置と電源コンセントに接続しましたか？

イエ

電源ケーブルを確実に接続してください。

作図できない

作図ができない場合は、データが適正に本装置に送られていない場合があります。また、作図機能に不良がある場合や、メディアのセット方法に問題がある場合などが考えられます。

ご使用のインターフェイスクーブルが合っていますか？

イエ

USB2.0 インターフェイスクーブルをご使用ください。

インターフェイスクーブルを確実にセットしていますか？

イエ

インターフェイスクーブルを確実にセットしてください。

ハイ

ディスプレイにインク切れのメッセージを表示していますか？

ハイ

新しいインクカートリッジに交換してください。P.4-4

ディスプレイにメッセージを表示する

ディスプレイに「オンスイジョンビチュウ」と表示された場合、温水装置の水温が一定に達していません。

一定の温度になるまで作図はできません。

一定の温度になるまで、待機してください。一定温度に達するとディスプレイ表示が消え、作図が可能になります。

作図不良が発生したときは

ここでは、作図品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても改善しない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

現象	対処方法
スジ/カスレが発生する	<ol style="list-style-type: none"> (1) ヘッドクリーニングを行ってください。☞ P.2-8 (2) ワイパのクリーニングをしてください。☞ P.4-13 (3) ヘッドが通過する部分にゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。
作図中のメディア上に大きなインク滴が落ちる	<ol style="list-style-type: none"> (1) ヘッドクリーニングを実行してください。☞ P.2-8 (2) メディア表面のホコリを取り除いてご使用ください。 (3) テーブル表面に付着しているホコリをクリーニングしてください。 (4) キャリッジ下面のクリーニングをしてください。☞ P.4-9 (5) ヘッドギャップ値を適正な値にしてください。☞ P.3-6
作図中にメディアが浮き上がり、作図が中断する*1	<ol style="list-style-type: none"> (1) 新しいメディアをセットし直し、作図を開始してください。
大量のノズル抜けが発生する	<ol style="list-style-type: none"> (1) ヘッドクリーニングを行ってください。☞ P.2-8 (2) サブタンクメンテナンスをしてください。☞ P.4-16

*1. 作図中に UV LED による熱で、メディアが浮き上がり、印刷が中断される場合があります。

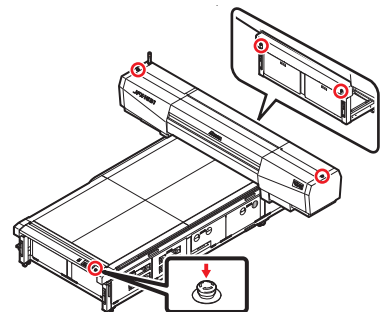
ノズル詰まりを解消したいとき

P.2-8 の操作でヘッドのクリーニングをしてもノズル詰まりが解消しない場合は、次の2つの項目を確認してください。

- P.4-28 の操作をして、インクの充填をしてください。
- P.4-4 の操作をして、インクの交換をしてください。

動作中に本装置を停止させたいとき

安全上の理由で本装置を緊急停止したいとき、非常停止スイッチを押します。
非常停止スイッチは、装置前面に1箇所、背面とYバーにそれぞれ2箇所ずつあります。



インクが残っているのに「インクニアエンド」を表示する

インクカートリッジにインクが残っているのに「インクニアエンド」を表示するときは、次の操作をしてインク残量値の修正をしてください。



- ディスプレイに[インクニアエンド]を表示すると、インクが残っていても、該当するインクカートリッジは使用できなくなってしまいます。インクが残っているのに[インクニアエンド]を表示するなど、実際のインク残量とインク残量表示が一致しない場合は、下の操作をしてインク残量値を修正してください。

1

メンテナンスメニューの“ザンリョウセッテイモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[ザンリョウセッテイ] を選ぶ

2

ENTER キーを押す

ザンリョウ セッテイ
パッ ク オシ イタ アリ? : イエ

3

▲ **▼** を押して、インクパック押し板の使用を選ぶ

ザンリョウ セッテイ
パッ ク オシ イタ アリ? : ハイ

- インクカートリッジ内にインクパック押し板を入れている場合は、“ハイ”を選んでください。

4

ENTER キーを押す

ザンリョウ セッテイ
スロ ット: 1 Color M

5

▲ **▼** を押して、インク残量値を修正するカートリッジを選ぶ

ザンリョウ セッテイ
スロ ット: 3 Color C

6

ENTER キーを押す

ザンリョウ セッテイ スロ ット3C
インクパッ ク カクニ ン : ent

7

手順3で選択したカートリッジを抜き、重さを量る

8

インクカートリッジをよく振ってから、カートリッジを元に戻す

- P.4-7 「インクカートリッジの振り方」 を参照して、インクカートリッジを振ってください。

9

ENTER キーを押す

- 現在、インク IC に保存されているカートリッジの重量を表示します。

```

サ`ンリョウ セツテイ スロット3C
シ`ユウリョウ = 325g

```

10

▲ **▼** を押して、カートリッジの重量を入力する

```

サ`ンリョウ セツテイ スロット3C
シ`ユウリョウ = 410g

```

11

ENTER キーを押す

- 重量の確認画面が表示されます。入力する重量を間違えた場合は、**END** キーを押して手順7からやり直してください。

```

サ`ンリョウ セツテイ スロット3C
410 g OK ? :ent

```

12

ENTER キーを押して、重量を確定する

13

終了するとき、**END** キーを数回押す**重要!**

- インク残量値は、ひとつのカートリッジあたり 15 回まで修正できます。16 回以上修正を行おうとすると、ディスプレイに“ホゾンシッパイ”と表示し、保存できません。

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングメッセージ

メッセージ	原因	対処方法
<ローカル> カートリッジ*ナシ MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジが装填されていない	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを取り付けてください。
<ローカル> インク ニアエント* MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジのインク残量が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 早めに、表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(☞ P.4-4)
<ローカル> インク エント* MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジのインクがなくなった	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(☞ P.4-4)
<ローカル> インク キケ*ン MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジの使用有効期限が切れている。	<ul style="list-style-type: none"> ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。そのままでも(使用期限翌月までは)使用可能です。
<ローカル> インク キケ*ン(1M) MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジの有効期限が切れてから 1ヶ月以上経過している	<ul style="list-style-type: none"> 早めに、表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(☞ P.4-4)
<ローカル> インクキケ*ンキ*レ MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジの有効期限が切れてから 2ヶ月以上経過している	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(☞ P.4-4)
<ローカル> インク タイプ* MMMMCCCCYYYYKKKK	装填したインクカートリッジの種類が異なる	<ul style="list-style-type: none"> 装填したインクカートリッジの種類を確認してください。
<ローカル> インク カラー MMMMCCCCYYYYKKKK	装填したインクカートリッジの色が、装着すべき色と異なる	<ul style="list-style-type: none"> 表示している色と、装填したインクカートリッジの色を確認してください。
<ローカル> ヒジ*ンセイ MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジがミマキ純正品でない	<ul style="list-style-type: none"> ワーニングが発生しているカートリッジをミマキ純正品に交換してください。
<ローカル> インクICエラー MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジの ICチップを正常に読めなかった	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを再挿入してください。それでも表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

エラーメッセージ

エラーメッセージを表示する場合は、下の表に従って、エラーを取り除いてください。
それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

メッセージ	原因	対処方法
ERROR108 HD CONNECT [12345678 12345678]	ヘッドの接続が確認できなかった	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR108 HD THERMIS [12345678 12345678]	ヘッドの温度が読み取れなかった	
ERROR122 CHECK:SDRAM	PRAM がない	<ul style="list-style-type: none"> データ転送が速すぎる 制御基板に異常が発生した
ERROR128 HDC FIFO OVER		
ERROR128 HDC FIFO UNDER	<ul style="list-style-type: none"> データ転送が遅すぎる 制御基板に異常が発生した 	
ERROR129 バッテリー コウカン	電池切れを検出した	<ul style="list-style-type: none"> 販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR12a HDC SPEED	インクの吐出が間に合わない	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR12b HEAD ROM WR	ICの書き込みに失敗した	
ERROR12e P-HEAD INIT	ヘッドの設定に失敗した	
ERROR12e HEAD TIMING		
ERROR130 HD DATA SEQ	ヘッドデータ転送エラー	<ul style="list-style-type: none"> インターフェースケーブルを確実に接続してください。 規格に適合したインターフェースケーブルをお使いください。
ERROR161 HDPL OVERFLOW	HDC HDPLレジスタへ設定値がH'fffを超えてオーバーフローした	
ERROR201 コマンド`エラー	コマンドデータ以外のデータを受信した	<ul style="list-style-type: none"> ホストコンピュータの出力設定値を確認してください。
ERROR202 パラメータ エラー	数値範囲以外のパラメータを受信した	

メッセージ	原因	対処方法
ERROR203 メンテコマンド`	メンテナンスコマンドの動作に失敗した	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR304 USB INIT ERR	USB デバイスの初期化に失敗した	
ERROR305 USB TIME OUT	USB デバイスにタイムアウトエラーが発生した	
ERROR401 モーターアラーム X	X モーターに過大な負荷がかかった	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR402 モーターアラーム Y	Y モーターに過大な負荷がかかった	
ERROR403 X オーバーカレント	X モーターの過電流エラーを検出した	
ERROR404 Y オーバーカレント	Y モーターの過電流エラーを検出した	
ERROR417 SCAN メイン キハ`ン ヒューズ`	メイン基板のヒューズが切断状態になっている	<ul style="list-style-type: none"> 販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR419 SCAN ヘット`オント`	ヘッド温度異常	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR41a Z JOG セイキ`ョ	Z 軸制御中にエラーが発生した	
ERROR41b Z MRT BUSY	Z 軸停止待ちに失敗した	
ERROR41c X イト`ウ ミカンリョウ	フィード補正をした結果、しきい値範囲内に収まらなかった	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。 補正パラメータのしきい値を広くしてください。
ERROR422 インホ`シ`ション NG(RL)	一定時間経過しても、左右軸がインポジション範囲内に収束しなかった	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR423 インホ`シ`ション NG(R)	一定時間経過しても、右軸がインポジション範囲内に収束しなかった	
ERROR424 インホ`シ`ション NG(L)	一定時間経過しても、左軸がインポジション範囲内に収束しなかった	

メッセージ	原因	対処方法
ERROR50a Y ケンテン ケンシュツ	Y 軸の原点検出が行えなかった	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR50e HEAD TEMP [12345678 12345678]	ヘッド温度異常	
ERROR50f L-SCALE BACK	リニアスケール異常	
ERROR510 X ケンテン ケンシュツ	X 軸の原点検出が行えなかった	<ul style="list-style-type: none"> ジョグキーでヘッドを上昇させてください。
ERROR511 Z ケンテン ケンシュツ	Z 軸の原点検出が行えなかった	
ERROR514 メディア シェラム	メディア詰まりが発生した	
ERROR515 アツミ ケンシュツ エラー	•メディアが厚すぎる	•薄いメディアをセットしてください。
	•ギャップピンユニットが故障している	•販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR601 インク ニアエント MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジのインクが少なくなった	•早めに、表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(P.4-4)
ERROR602 インク エント MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジのインクが無くなった	•表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(P.4-4)
ERROR603 カートリッジ ナシ MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジがセットされていない	•インクカートリッジを取り付けてください。
ERROR604 !ハイインク FULL	廃インクトレイがいっぱいになった	•廃インクタンクに排出してください。(P.4-18)
ERROR605 !ワイパ コウカン シテクタ サイ	ワイピング回数が規定値よりも多くなった	•販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR606 インク IC エラー	インクカートリッジの IC チップを正常に読めなかった	•表示しているヘッドのインクカートリッジを再挿入してください。それでも表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR609 インクケンキレ MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジの有効期限が切れてから2ヶ月以上経過している	•表示しているインクカートリッジを交換してください。

メッセージ	原因	対処方法
ERROR60a ヒシ`ユンセイ MMMMCCCCYYYYKKKK	インクカートリッジがミマキ純正品ではない	・ミマキ純正のインクカートリッジと交換してください。
ERROR60b ワイハ`タンク フル	ワイパタンクがいっぱいになった	・P.4-19 を参照して、タンクに溜まった廃インクを廃棄してください。
ERROR613 ファツ セイキ`ヨ	負圧制御開始異常	・一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 ・再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR614 セイアツ セイキ`ヨ	正圧制御開始異常	
ERROR615 ファツ イシ`フソク	負圧を維持できなかった	
ERROR616 ファツ イシ`オーハ`ー		
ERROR617 セイアツ イシ`フソク	正圧を維持できなかった	
ERROR618 セイアツ イシ`オーハ`ー		
ERROR619 ファツ センサー イシ`ヨウ	負圧センサーの値が異常になっている	
ERROR619 セイアツ センサー イシ`ヨウ	正圧センサーの値が異常になっている	
ERROR61a FLT CONNECT MMMMCCCCYYYYKKKK	液面監視基板が接続されていない	
ERROR61b インク ケイロ MMMMCCCCYYYYKKKK	インクの残量が少なく、インク充填やヘッドクリーニング時にインクを送れなかった	・インクニアエンドになっていないカートリッジと交換し、サブタンクメンテナンスを実行してください。(☞ P.4-16)
ERROR61c インク ホシ`ユウ MMMMCCCCYYYYKKKK	作図中にインクが足りなくなった	・インクニアエンドになっていないカートリッジと交換してください。
ERROR61c FLT MOTION MMMMCCCCYYYYKKKK	排出時、サブタンクにフロートが上に貼り付いた	・サブタンクメンテナンスを実行(☞ P.4-16)するか、再度排出処理を行ってください。
ERROR61c タンク サ`ンリョウ MMMMCCCCYYYYKKKK	作図中、タンク内のインク残量管理に異常が起こった	・サブタンクメンテナンスを実行してください。(☞ P.4-16)

メッセージ	原因	対処方法
ERROR61e サブタンクHi-Lo MMMMCCCCYYYYKKKK	サブタンク内のインクが均一になっていない	•インクが均一になるまでしばらくお待ちください。
ERROR61f Cartridge Valve Close	カートリッジバルブを閉じたまま供給ポンプを回そうとした	•使用可能なカートリッジを挿入してください。
ERROR622 ホソソシハイ	インク残量の修正値を保存できなかった	•インク残量値の修正は、1 カートリッジあたり 15 回までです。
ERROR705 ミスソク	温水タンクの水量が不足している	•水量を確認し、交換してください。(P.4-31)
ERROR705 オンスイ タンク オントヒクイ	温水タンクの温度異常	•一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 •再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR705 オンスイ タンク ケイロ	温水ポンプ タイムアウト	
ERROR705 オンスイ ヘット オント	ヘッドの温度異常	
ERROR706 UV シュンビチュウ	UV LED が準備中なのに照射しようとした	
ERROR901 オペレーション エラー	不当なオペレーションをした	•正しいオペレーションをしてください。
ERROR901 ヘッドセンタク ナシ	ヘッドが選択されていない	•クリーニングまたは充填をするヘッドを選択してください。
ERROR901 インクタイプ MMMMCCCC YYYYKKKK	装着したインクカートリッジの種類が異なる	•装着したインクカートリッジの種類を確認してください。
ERROR901 インクサンリョウ MMMMCCCC YYYYKKKK	インクカートリッジのインク残量が不足している	•新しいインクカートリッジと交換してください。(P.4-4)
ERROR902 ミサクスデータアリ	操作パネルで不当な操作をしたため、未作図データが残っている	•正しい操作をしてください。
ERROR906 ミシユウテン	充填されていないインクがある	•インクを充填してください。(P.4-28)
ERROR90b ホカノ インクセット ヲ センタク	インクセットに変更がない	•現在のインクセットと異なるインクセットを選択してください。
ERROR90c インクカラー MMMMCCCC YYYYKKKK	インクセットにマッチしたカートリッジが正しい位置に挿入されていない	•正しい位置に挿入してください。

SYSTEM HALT

メッセージ	対処方法
SYSTEM HALT (*) 000: メッセージ	一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 番号を確認のうえ、弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。 (“000” はエラー No.)



- SYSTEM HALT507 を表示した場合は、キャリッジ左側にあるギャップピンを確認してください。インク付着がある場合は、インク汚れを拭き取ることにより復旧する場合があります。

第6章 付録



この章では ...

本装置の仕様一覧表や、機能の一覧表を記載しています。

仕様	6-2
本体仕様	6-2
インク仕様	6-3
お問い合わせシート	6-4
機能フローチャート	6-5

本体仕様

項目		JFX-1631/1631plus	JFX-1615/1615plus
作図ヘッド部	方式	オンデマンドピエゾヘッド	
	仕様	8ヘッド(16ノズル列)	
作図分解能		300 x 300 dpi、600 x 600 dpi、1200 x 1200 dpi	
作図モード	600 x 600 dpi	4 pass (標準) / 8 pass 単方向 / 双方向 (高速)	
	1200 x 1200 dpi	4 pass 単方向 / 双方向 (標準) / 8 pass / 16 pass 単方向 / 双方向 (高速)	
使用可能インク		専用 UV 硬化インク (弊社純正インク) Bk、C、M、Y 合計 4 色	
インク供給		インクカートリッジからのチューブ供給 インク残量表示機能あり インクエンド検出機能あり	
インク容量		600 cc (4 色設定時: 各色 4 本 6 色設定時: 各色 2 本)	
使用可能メディア	サイズ	1694 x 3194 mm	1694 x 1592 mm
	厚さ	50mm 以下	
最大作図範囲		幅 1602 x 長さ 3100 mm	幅 1602 x 長さ 1500 mm
距離精度	絶対精度	± 0.1 mm	
	再現性	± 0.2 mm	
直角度		± 0.5 mm/500mm	
ヘッドギャップ調整		電動によりヘッドギャップ調整可能。	
メディア吸着		バキュームユニットによる吸着固定 ^{*1}	
UV 装置		UVLED 装置 4 灯 (キャリアッジに搭載) UV 電源本体内蔵	
廃インクトレイ		トレイ式 (800 cc / 廃インクフルセンサ付き)	
インターフェイス		USB2.0 準拠	
コマンド		MRL-II B <ESC/P レベル 2 ベース ミマキオリジナルコマンド>	
騒音	待機時	55 dB 以下 (FAST-A, 前後左右 1 m)	
	動作連続音	65 dB 以下	
	動作不連続音	75 dB 以下	
安全規格		VCCI-クラス A、UL、CE マーク、CB レポート	
インク安全性		MSDS	
電源仕様		単相 AC200 ~ 240 V 8 A	
消費電力		2.0 kVA 以下	
設置環境	使用可能温度	15 ~ 30 °C	
	相対湿度	35 ~ 65 %Rh (結露なきこと)	
	精度保証温度	18 ~ 25 °C	
	温度勾配	± 10 °C /h 以下	
	粉塵	オフィス相当	
重量		約 1600 kg	約 1300 kg
外形寸法		4300 (W) x 4200 (D) x 1600 (H) mm	4300 (W) x 2700 (D) x 1600 (H) mm

*1. バキュームユニットはオプションです。

インク仕様

詳細は、販売店または弊社営業所にお問い合わせください。

項目		品番・仕様
インク種類		LH-100 インク、LF-200 インク、LF-140 インク、プライマー
色		ブラック、マゼンタ、シアン、イエロー、ホワイト、クリア（クリアインクは LH-100 インクのみ）、ライトマゼンタ（LF-140 インクのみ）、ライトシアン（LF-140 インクのみ）、プライマー（プライマーのみ）
インク容量		600cc
有効期間		製造日より 1 年間
保存温度	保存時	15 °C ~ 35 °C
	輸送時	0 °C ~ 60 °C 2 週間以内



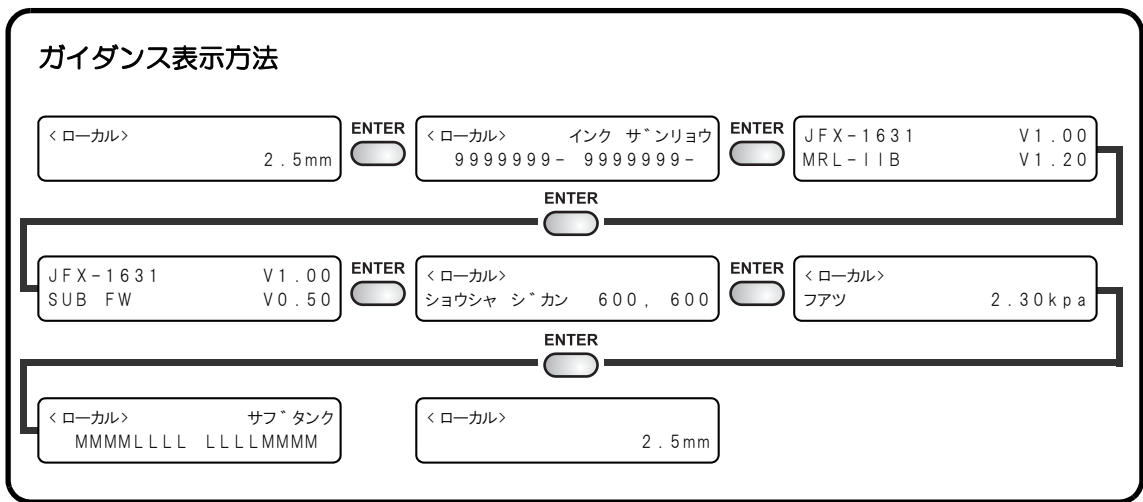
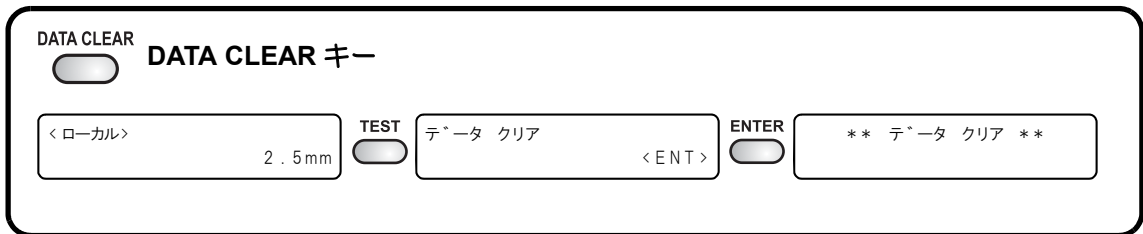
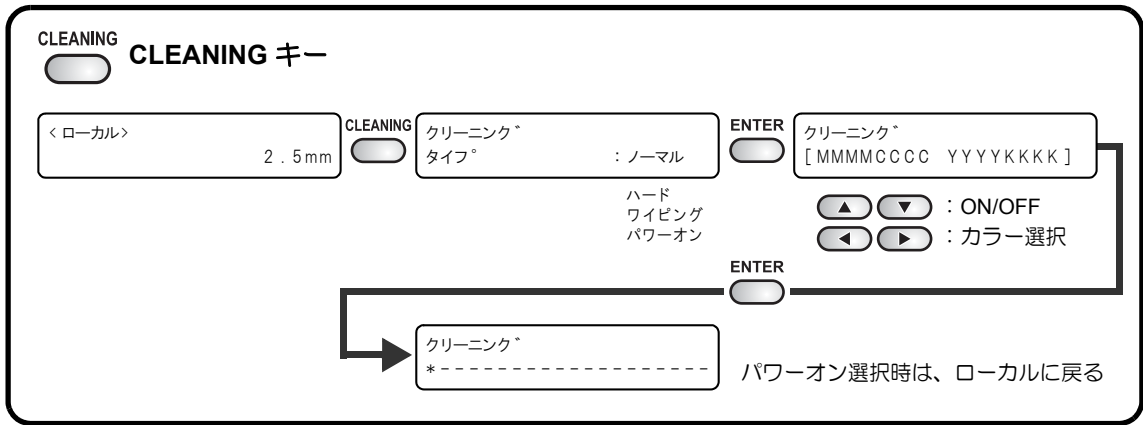
- インクは、-4 °C 以下の環境で長時間放置すると凍結します。万一、凍結した場合は、室温（25 °C）で 3 時間以上かけて解凍してから使用してください。
- インクカートリッジを分解したり、インクを詰め替えないでください。故障の原因になります。

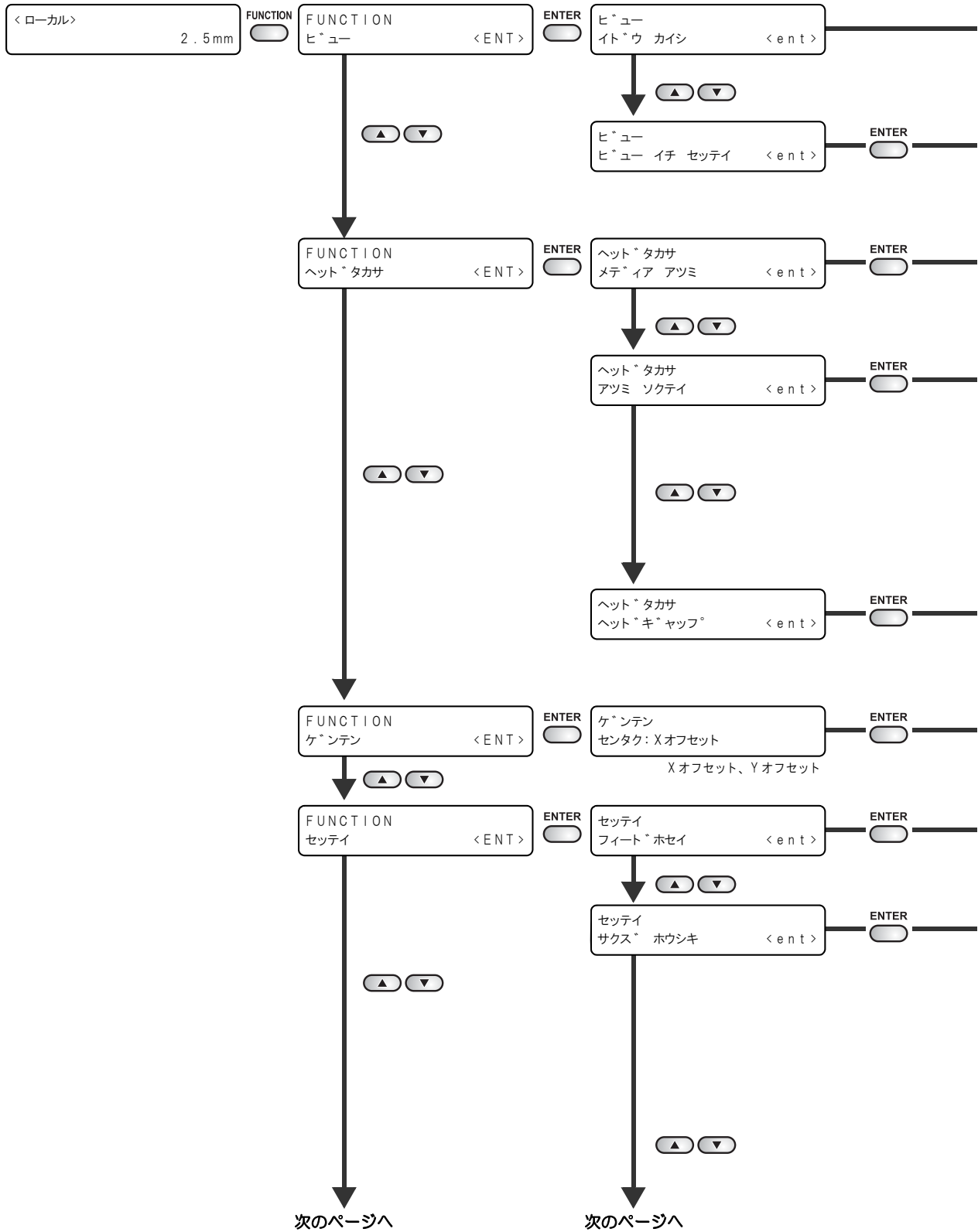
お問い合わせシート

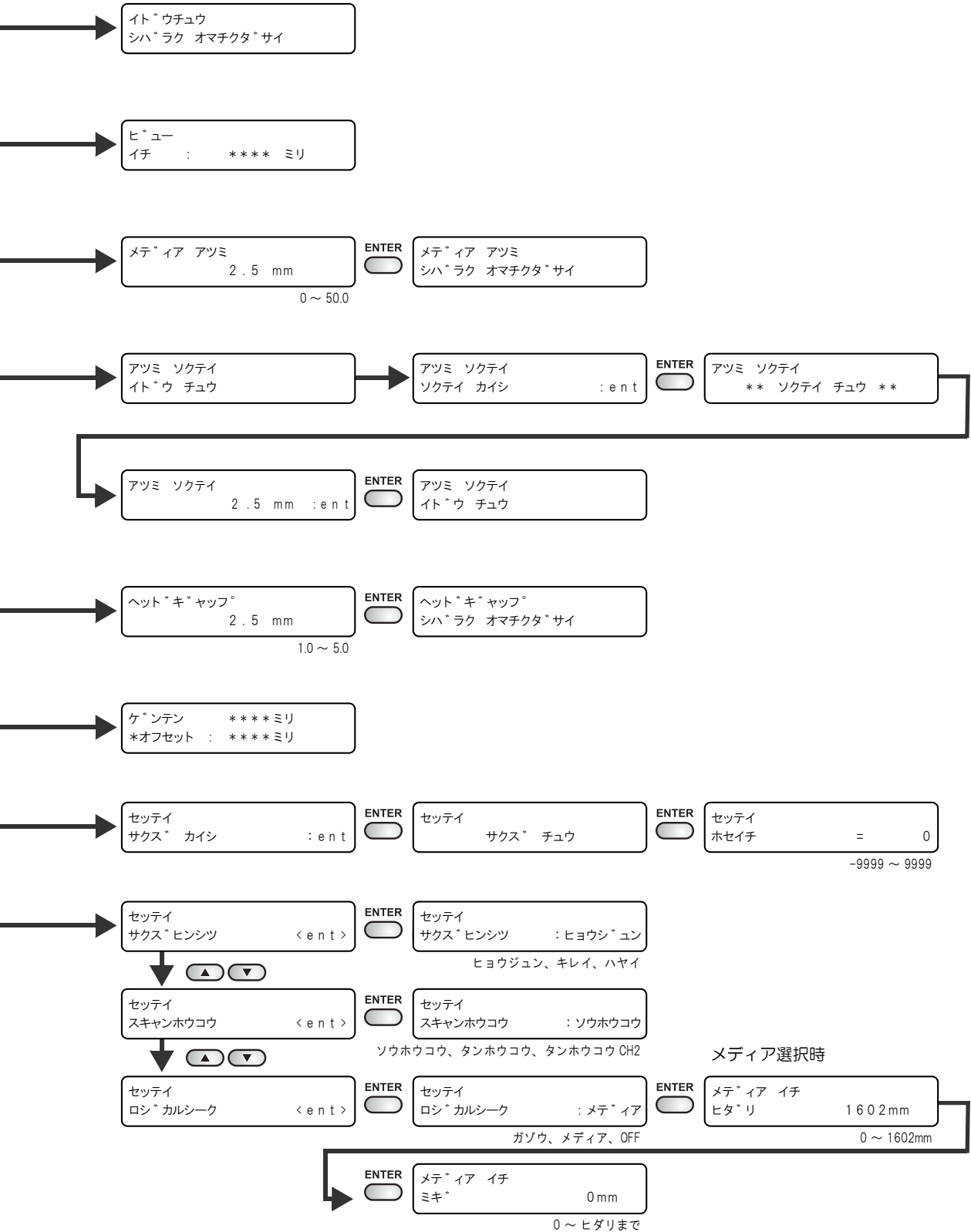
プリンターの故障、異常動作については、このシートをお使いください。
下記の必要事項をご記入の上、弊社営業所まで FAX でお送りください。

御社名	
ご担当者名	
お電話番号	
プリンター機種名	
お使いの OS	
マシン情報	
エラーメッセージ	
お問い合わせ内容	

機能フローチャート







前のページから



次のページへ



前のページから

セッテイ
カサネヌリ <ent>

ENTER



セッテイ
UV コウリョウ <ent>

ENTER



セッテイ
ホ° ストキュア <ent>

ENTER



セッテイ
ユウセン シ` ユンイ <ent>

ENTER



セッテイ
リフレッシュ <ent>

ENTER



セッテイ
ミリ/ インチ <ent>

ENTER



セッテイ
UV スキャン ツイカ <ent>

ENTER



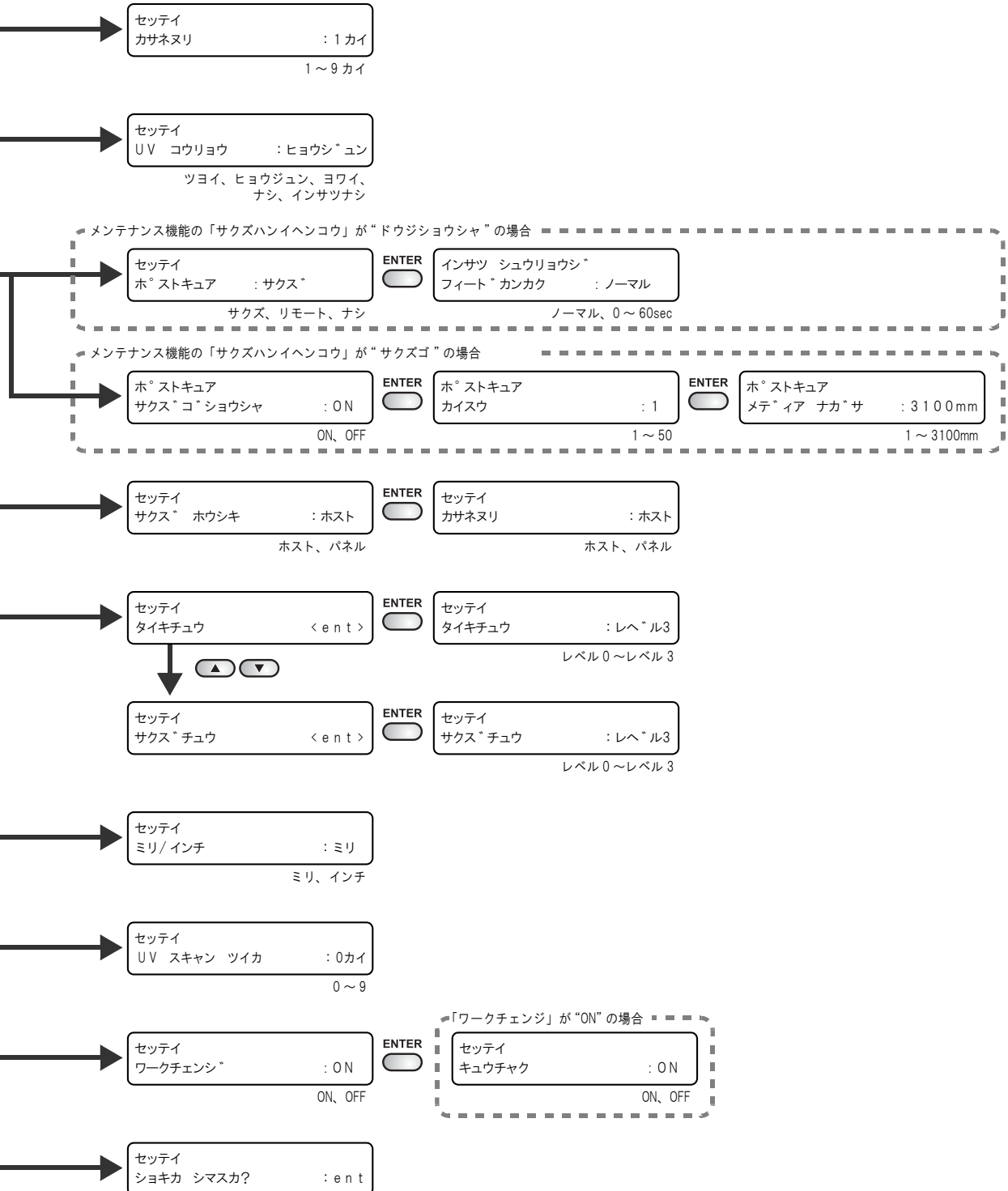
セッテイ
ワークチェンジ` <ent>

ENTER



セッテイ
セッテイ リセット <ent>

ENTER



前のページから

FUNCTION
メンテナンス <ENT>



メンテナンス
ステーション メンテ <ent>



メンテナンス
テイキ メンテナンス <ent>

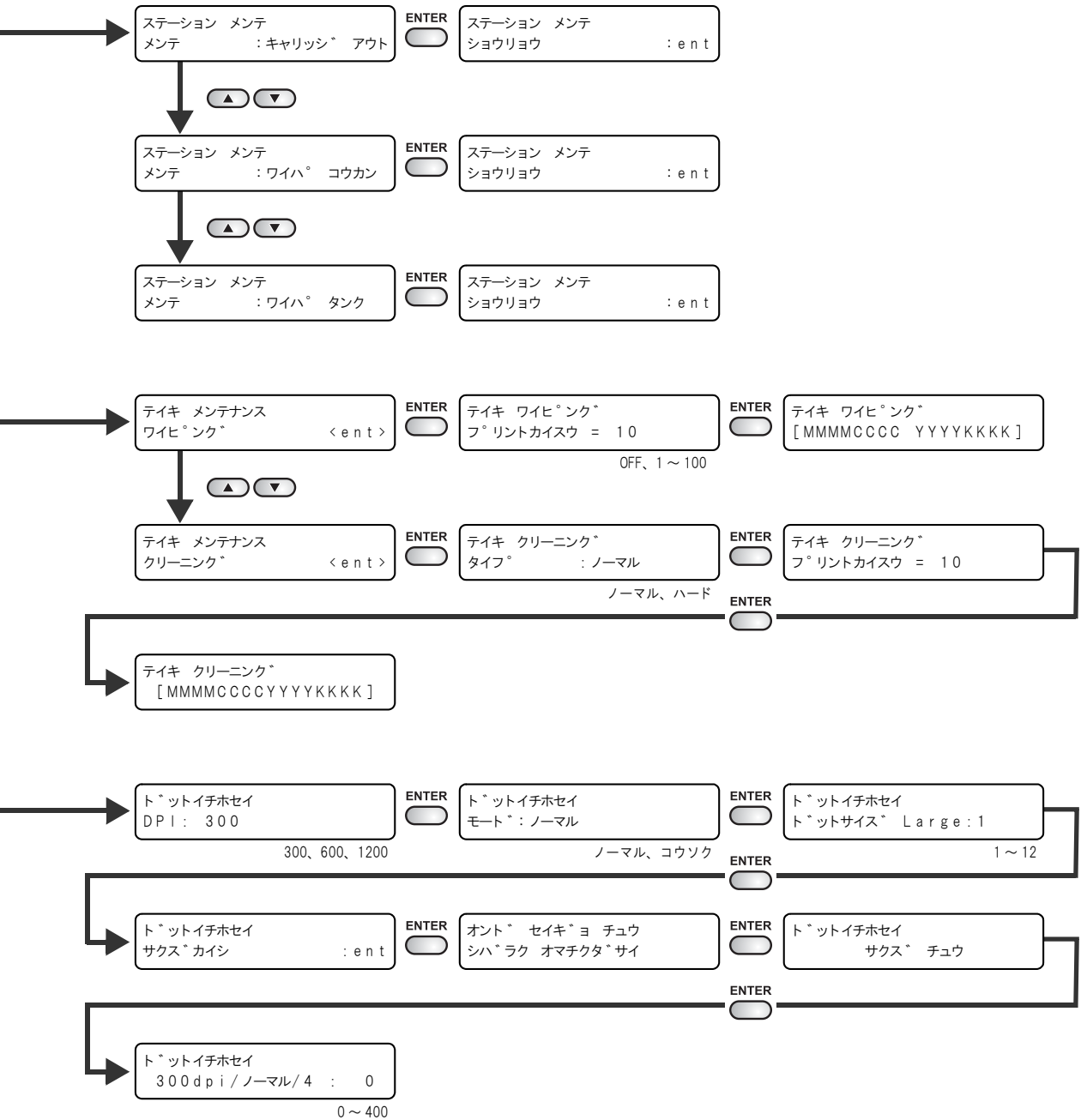


メンテナンス
ト*ットイチホセイ <ent>



次のページへ

次のページへ



前のページから



次のページへ

前のページから

メンテナンス
インクシ ユウテン <ent>

ENTER



メンテナンス
インクセット <ent>

ENTER



メンテナンス
インク コウカン <ent>

ENTER

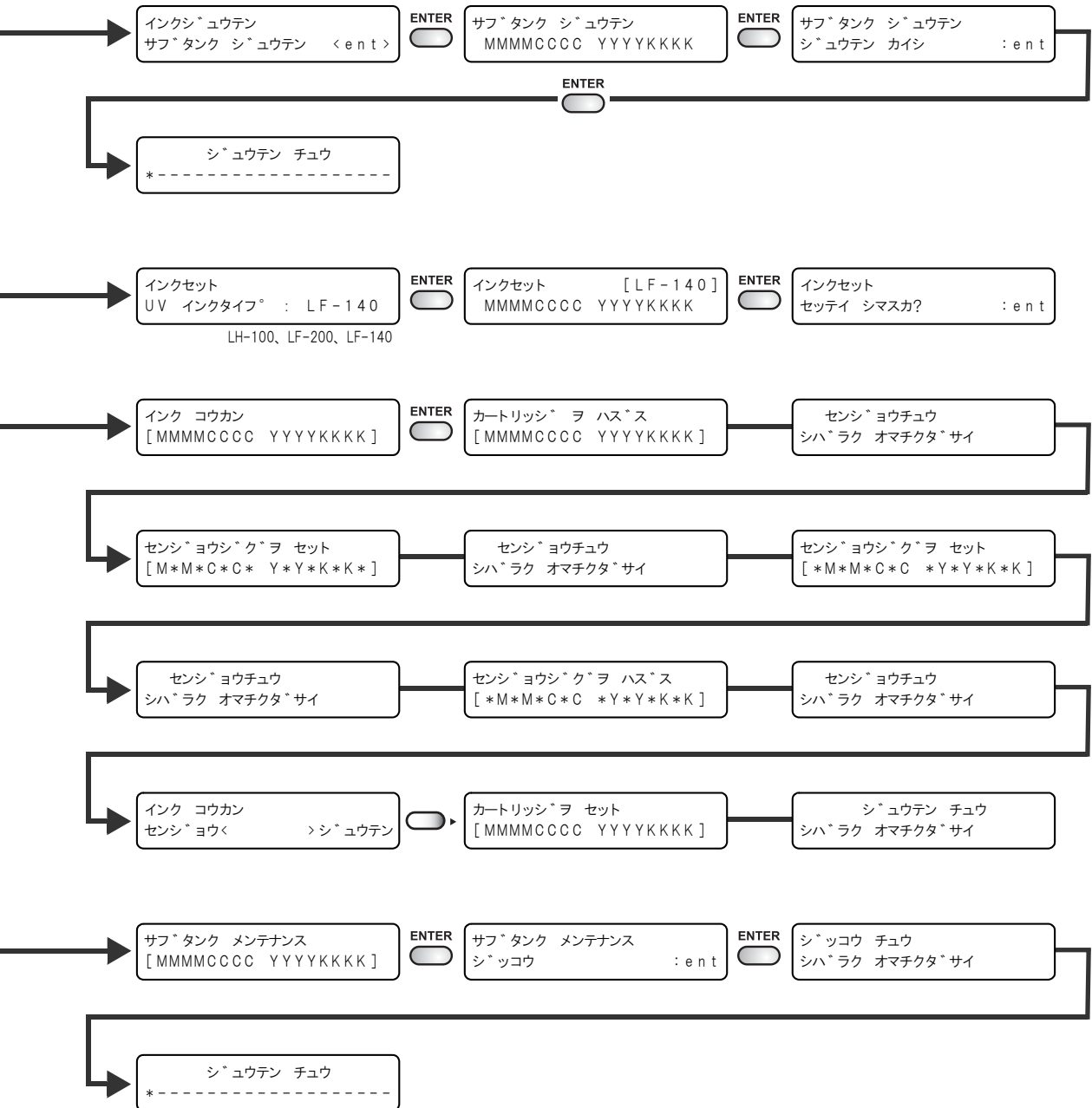


メンテナンス
サブタンク メンテナンス <ent>

ENTER



次のページへ



前のページから



次のページへ

前のページから

メンテナンス
ホワイト メンテナンス <ent>

ENTER



メンテナンス
トクシヨク リフレッシュ <ent>

ENTER



メンテナンス
サ^ンリヨウ セツテイ <ent>

ENTER



メンテナンス
UV LED <ent>

ENTER



メンテナンス
サクス^ス ハンイ ヘンコウ <ent>

ENTER

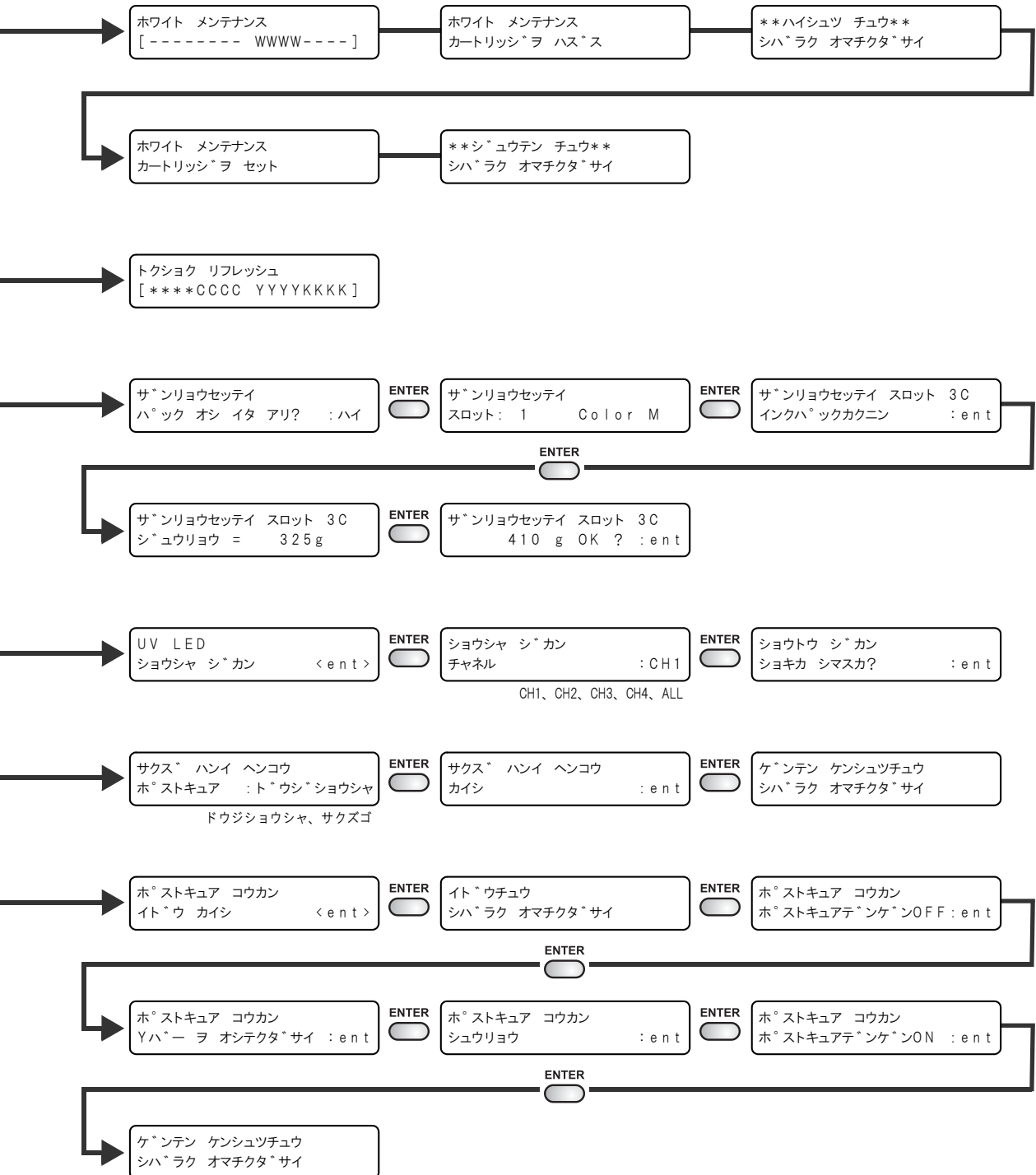


メンテナンス
ホ^ストキュア コウカン <ent>

ENTER

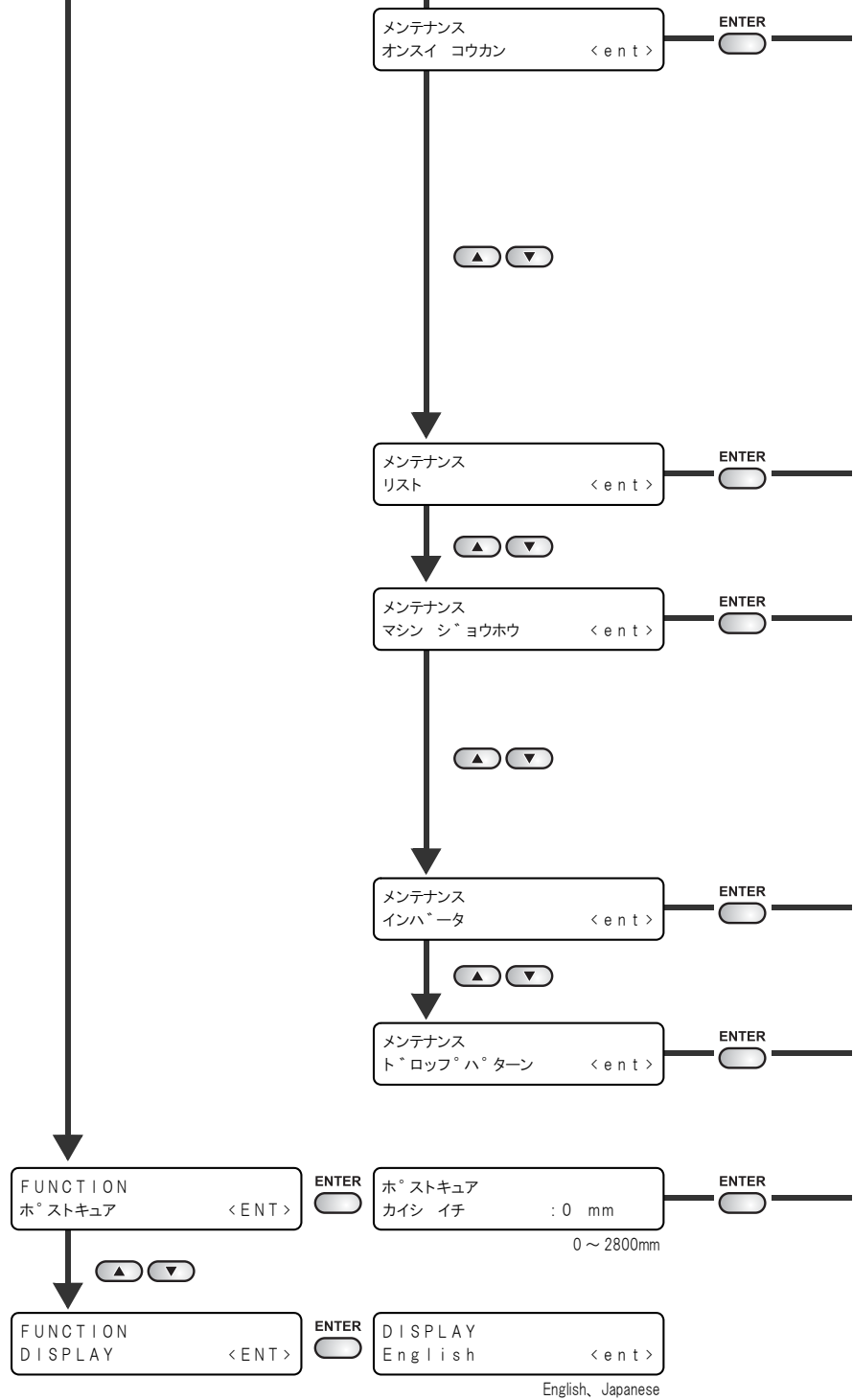


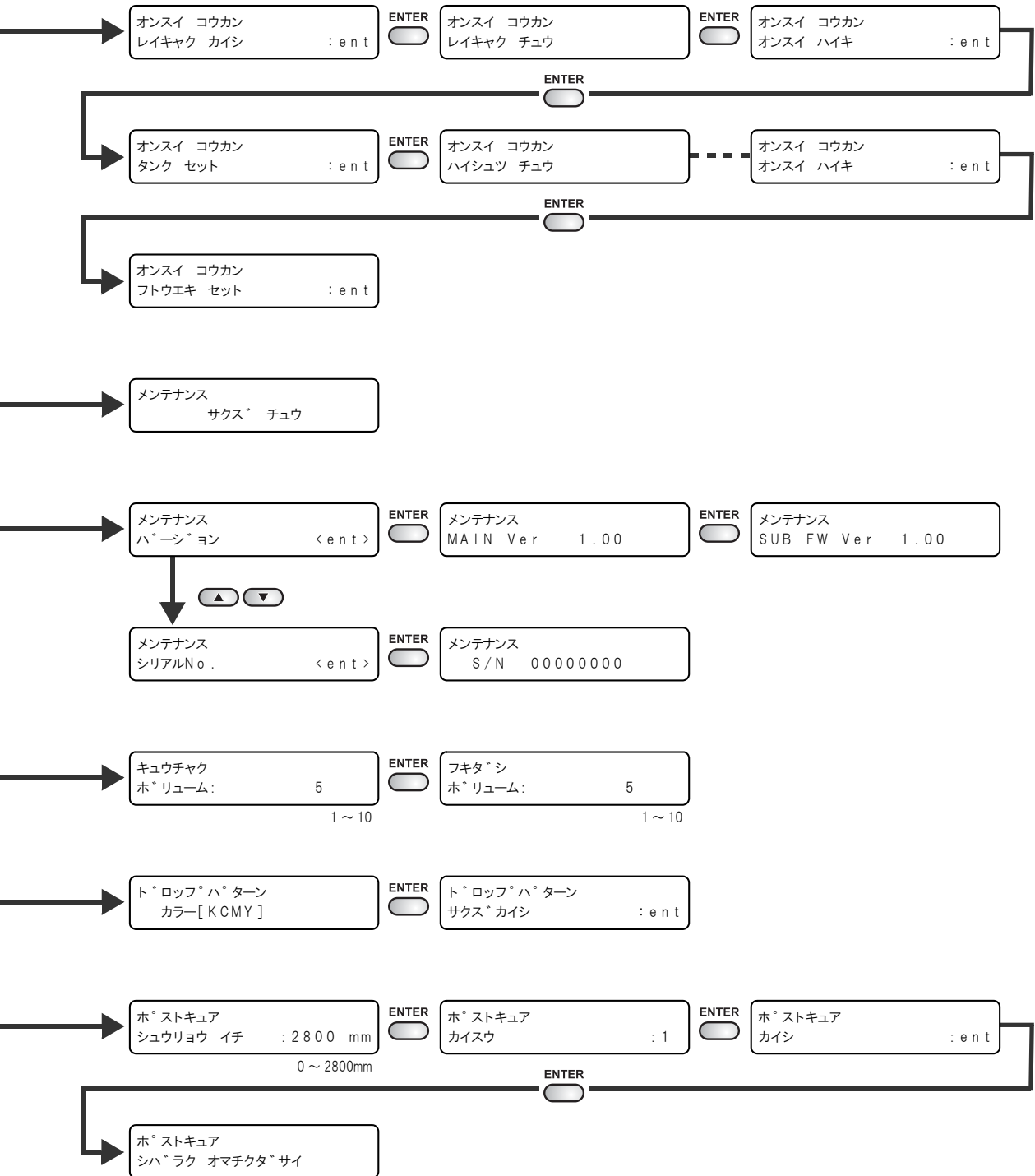
次のページへ



前のページから

前のページから





索引

数字

2 次硬化の設定 3-27

U

USB2.0 1-6

UV LED 装置の照射時間について 4-37

UV LED 装置 1-7

UV LED 装置の光量を設定する 3-10

UV LED 装置の照射時間を確認する 4-37

UV LED 装置の照射時間をリセットする 4-37

UV LED 装置のフィルタを交換する 4-35

UV 硬化 4-38

UV 光量の変更 4-39

UV スキャン ツイカ 3-17

あ

新しいインクカートリッジに交換する 4-4

安全にお使いいただくために vii

い

インクカートリッジ 1-8

インクカートリッジ取り扱い上のご注意 1-10

インクが残っているのに「インク
ニアエンド」を表示する 5-4

インク残量値の修正 5-4

インク仕様 6-3

インク滴のポタ落ち 4-9

インクの充填 4-28

え

エラーメッセージ 5-7

お

お手入れ 4-2

お手入れ上のご注意 4-2

お問い合わせシート 6-4

温水装置 4-30

か

カートリッジ異常 4-8

ガイド穴 3-19

開閉扉の使いかた 2-2

各部の名称とはたらきについて 1-3

 キャリッジ 1-5

 ジョグキーのはたらき 1-4

 操作パネル 1-4

 装置前面 1-3

 装置背面 1-3

カサネヌリ 3-17

き

機能フローチャート 6-5

け

ケーブルを接続する 1-6

警告ラベル xiii

言語表示 3-14

原点を変更する 3-2

こ

故障？と思う前に 5-2

ご注意 v

さ

作業の流れ 2-3

作図 2-11

サクズハンイヘンコウ 3-27

 サクズゴ 3-28

 ドウジショウシャ 3-27

サクズヒンシツ 3-9

作図不良が発生したとき 5-3

作図方式 3-8

作図を開始する 2-11

作図を中止する 2-12

サブタンクメンテナンス 4-16

し

自動的にノズル面の清掃をする 4-11

受信障害 v

使用可能メディアサイズ	1-11
情報を表示する	3-7
初期状態に戻す	3-18
白インクの定期メンテナンス	4-20

す

スキャンホウコウ	3-9
----------------	-----

せ

設置する	1-2
設置場所について	1-2
設定リスト	3-15

そ

その他の便利な設定	3-17
-----------------	------

ち

長期間使用しない場合	2-14, 4-2
------------------	-----------

て

データクリア	3-7
テーブル、外装のお手入れ	4-3
定期クリーニングの設定	4-12
定期ワイピングの設定	4-11
テスト作図	2-7
電源オフ時のノズル抜けを防止する	2-14
電源ケーブル	1-6
電源を入れる	2-4
電源を切る	2-14
電源を切るときのご注意	2-14
電波障害自主規制	v

と

特色インク	4-17
特色リフレッシュ	4-17
ドロップパターン	4-41

は

廃インクタンク	4-18
バキュームユニットの吸着 / 吹上げレベルを設定する	4-40

ひ

非常停止スイッチ	1-5
表示灯の働き	1-7

ふ

ファンクションモード	1-12
不凍液混合水の交換方法	4-31
不凍液の取り扱い	4-30

へ

ヘッドギャップ	3-6
ヘッドクリーニング	2-8
電源投入時	2-10
“ノーマル” または “ハード”	2-8
“ワイピング”	2-9

ほ

ポストキュアユニット	
UV 遮光カーテンを取り付ける	3-23
厚みのあるメディアに作図する	3-23
作図済みのメディアに再度ランプを 照射する	3-33
作図範囲を切り替える	3-25
使用時の注意事項	3-22
照射範囲を拡げる	3-30
使用上の注意点	3-41
使用する	3-22
使用方法を設定する	3-27
高さ調整用治具	3-20
高さを調整する	3-20
ポストキュアランプの交換時期に ついて	3-36
ランプ照射範囲の設定方法	3-33
本書の読み方	xv
本体仕様	6-2

 ま

マシン情報 3-16

 み

ミスト吸引フィルタを交換する 4-24
 未使用スロット取り扱い上の注意 1-10
 ミリ/インチ 3-17

 め

メディア取り扱い上の注意 1-11
 メディアをセットする 2-5
 メディアをまっすぐにセットする 3-19
 メニューモード 1-12

 ゆ

優先順位 3-11

 り

リフレッシュ 3-17
 リモートモード 1-12

 れ

冷却ファンフィルタを交換する 4-22

 ろ

ローカルモード 1-12
 ロジカルシーク 3-9

 わ

ワークチェンジ 3-12
 ワーニングメッセージ 5-6
 ワイパタンクのインクを処分する 4-19
 ワイパのクリーニング 4-13

JFX-1631/1615・JFX-1631/1615plus 取扱説明書

2014 年 12 月

発行者 株式会社ミマキエンジニアリング
発行所 株式会社ミマキエンジニアリング
〒 389-0512
長野県東御市滋野乙 2182-3

